

長 沖 古 墳 群 XV

―長沖203号墳の調査―

児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書 6

2015

本庄市教育委員会

^{なが}長 ^{おき}沖 ^こ古 ^{ふん}墳 ^{ぐん}群 XV

— 長沖第203号墳の調査 —

児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書 6

2015

本庄市教育委員会

序

埼玉県では、現在までに5000基近い数の古墳が発掘調査等によって確認されていると言われています。このうち、県北部に位置する児玉地方には、その四分の一以上の約1500基の古墳が集中し、その4割にあたる600基以上もの古墳が本庄市に所在しています。

そのため、市内には県内外から注目される古墳も多くあり、下浅見の鷲山古墳が県の史跡に、万年寺のつつじ山古墳、入浅見の金鑽神社古墳、小島の八幡山古墳、蚕影山古墳、山の神古墳、長沖の長沖32号墳、秋山の庚申塚古墳などが市の史跡に指定されています。また、本庄地域の久保山古墳群や旭・小島古墳群、児玉地域の長沖古墳群、生野山古墳群、秋山古墳群が県内でも有数の大古墳群として、県の重要遺跡に選定されています。

本書は、この埼玉県選定重要遺跡の長沖古墳群内に所在する長沖203号墳の発掘調査の成果を記録したものです。発掘調査は、児玉南土地区画整理事業の区画道路建設に先立つ記録保存を目的として実施されました。

児玉南土地区画整理事業は、昭和50年6月に事業認可を受けてから、現在まで40年の歳月を経てようやく完了の見込みとなりました。今後も、区画整理事業地内やその周辺は、市街地化の進行により大小様々な開発の増加が予想されますが、郷土の偉人である国学者塙保己一先生の座右の銘であった「温故知新」の趣旨に学び、先生の「世のため、後のため」という崇高な精神を敬愛しつつ、郷土本庄のさらなる発展のための礎となる文化財の保護に一層努力して取り組んでいく所存であります。

本書が、学術的な地域史研究の基礎資料としてはもとより、文化財保護思想の普及・啓発や愛護意識の高揚の一助となれば幸いです。もとより、こうした埋蔵文化財の発掘調査は、市民の皆様の文化財に対するご理解とご協力なしには行い得ないことであります。今後とも皆様の郷土の文化財保護に対するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今回の発掘調査にご協力いただいた関係者の方々に感謝申し上げます、序といたします。

平成27年3月

本庄市教育委員会
教育長 勝山 勉

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市児玉町長沖に所在する、埼玉県選定重要遺跡の「長沖古墳群」に属する長沖203号墳の発掘調査報告書である。
2. 長沖古墳群に関する発掘調査報告書は、これまでに児玉町教育委員会・埼玉県埋蔵文化財調査事業団・本庄市教育委員会・本庄市遺跡調査会で刊行されており、本書は長沖古墳群の15冊目の報告書になることから、書名を『長沖古墳群XV』とした。
3. 発掘調査は、児玉南土地区画整理事業に伴う事前の記録保存を目的として、平成25年4月22日～平成25年8月9日の期間に実施した。
4. 発掘調査は、本庄市教育委員会が実施し、その調査担当には恋河内昭彦があたった。なお、現地作業では、(有)毛野考古学研究所の日沖剛史と淺間 陽が補佐した。
5. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の5万分の1、旧児玉町発行の2千5百分の1である。
6. 古墳の墳丘及び葺石・石室等の測量は、(株)測研に委託した。
7. 出土遺物の実測は、金属製品とその他の出土遺物を恋河内が行い、それ以外と石器は(有)毛野考古学研究所に委託した。
8. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。
A－法量(単位はcm、カッコは推定)、B－成形、C－整形・調整、D－胎土、材質、E－色調、F－残存度、G－備考、H－出土層位・位置
9. 本書に掲載した写真は、遺構を調査担当者が、遺物は金属製品とその他の出土遺物を恋河内が、それ以外を(有)毛野考古学研究所が撮影した。
10. 重層ガラス玉の自然科学的調査について、奈良文化財研究所の田村朋美氏から玉稿をいただいた。この場を借りて感謝いたします。
11. 付編以外の執筆と本書の編集は、恋河内が行った。
12. 発掘調査から本書刊行にあたって、下記の方々や機関からご教示・ご協力を賜った。記して感謝します。
大賀 克彦、大谷 徹、大塚 昌彦、加部 二生、金子 彰男、斎藤 あや、坂本 和俊、関 智賀子、瀧瀬 芳之、田中 裕、田村 朋美、中沢 良一、長滝 歳康、中村 倉司、日高 慎、丸山 修、丸山 陽一、矢内 勲、山崎 武、割田 博之
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所

発掘調査組織(平成25年度)

主 体 者	本庄市教育委員会	
	教 育 長	茂木 孝彦
事 務 局	事 務 局 長	関和 成昭
	文化財保護課長	川上 美恵
	副参事兼課長補佐	鈴木 徳雄
	課長補佐兼埋蔵文化財係長	太田 博之
	主 幹	恋河内昭彦(調査担当)
	主 査	大熊 季広
	”	松澤 浩一
	主 任	松本 完
	臨 時 職 員	の野 善行
	調 査 補 助 員	日沖 剛史(有限会社毛野考古学研究所)
	”	浅間 陽(”)

整理・報告書刊行組織(平成26年度)

主 体 者	本庄市教育委員会	
	教 育 長	勝山 勉
事 務 局	事 務 局 長	関和 成昭
	文化財保護課長	川上 美恵
	課長補佐兼埋蔵文化財係長	太田 博之
	主 幹	恋河内昭彦(整理担当)
	主 査	大熊 季広
	”	松本 完
	主 事 補	栗原 秀太
	臨 時 職 員	の野 善行

目 次

序	
例言	
第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 長沖古墳群の概要	3
第Ⅲ章 長沖203号墳の発掘調査	5
1 古墳の現況	5
2 外表施設	8
a. 墳 丘	8
b. 葺 石	13
c. 基壇・外周施設	16
3 石 室	16
a. 天 井 石	16
b. 石室控積み	16
c. 羨 道 部	18
d. 玄 室	18
e. 掘 り 方	20
4 出土遺物	22
a. 石室内出土遺物	22
b. 墳丘出土遺物	29
c. その他の出土遺物	45
第Ⅳ章 調査の成果と課題	48
1 墳丘の変形について	48
2 模様積石室について	49
<引用・参考文献>	50
《付編》長沖203号墳・御堂坂2号墳出土重層ガラス玉の自然科学的調査	51
1 はじめに	51
2 資料と方法	51
a. 調査資料	51
b. 調査方法	51
3 結果と考察	52
a. 内部構造と製作技法	52
b. 化学組成	53
写真図版	
報告書抄録	

第 I 章 発掘調査に至る経緯

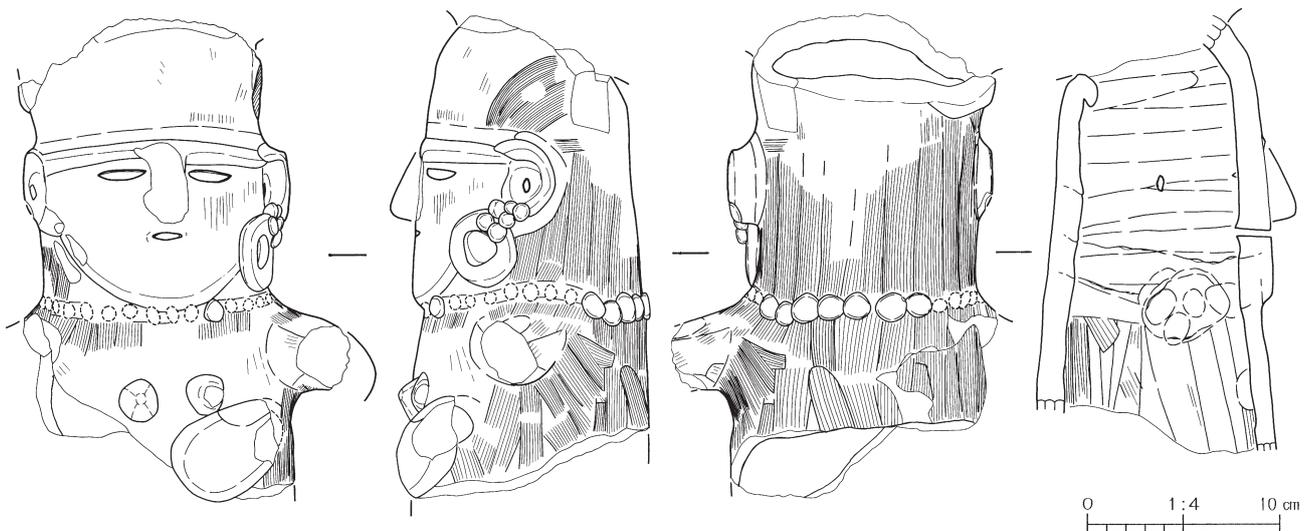
今回報告する長沖203号墳は、長沖古墳群の北東端にあたる児玉南土地区画整理事業地域内に位置している。当初は古墳の存在が明確ではなく、従来から全長50m以上の前方後円墳と考えられていた長沖31号墳の前方部と推測されていた場所である(菅谷他1980)。

この長沖31号墳の墳丘南側と西側の隣接地には、区画整理に伴う幅6mの区画道路の建設が予定されていた。平成23年10月に南側隣接地の道路建設工事に先立って予定地の試掘調査を行ったところ、建設予定地部分はすでに土取りによって破壊されており、文化財に関係するような遺構は残存していなかった。

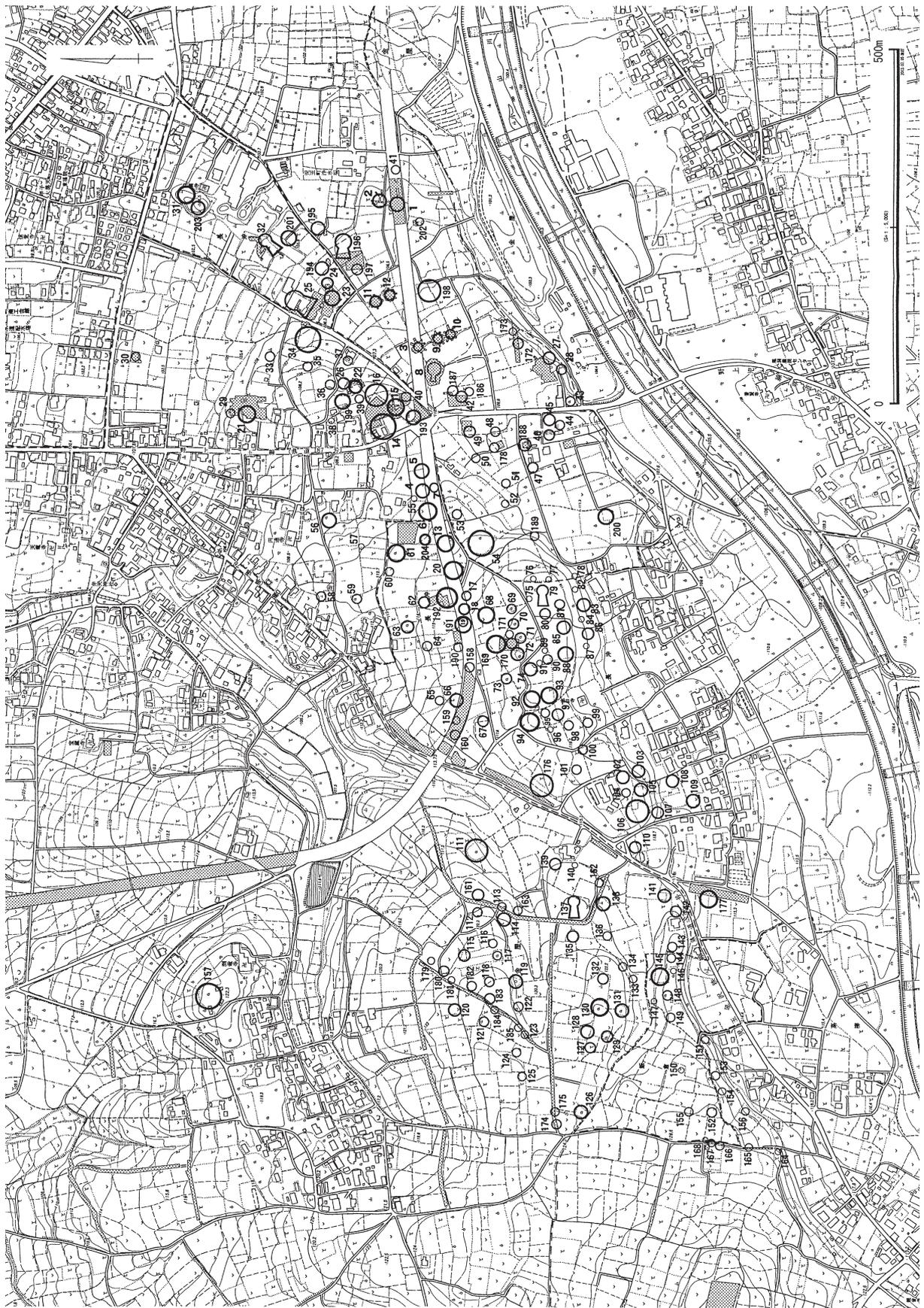
その後、道路工事が終了した平成24年3月末頃に、職員が現地の状況を確認に行ったところ、道路に面した墳丘の一部が削られ、その法面に石室の石組みの一部が露呈しているのを確認した。そのため、工事関係部局に長沖31号墳とは別の古墳が存在する可能性があることを伝え、古墳の保存について協議を行ったが、区画道路の路線変更はすでに困難であることから、事前に発掘調査を実施して記録保存の措置をとることになった。発掘調査は、平成24年度は調査予定がいっぱいであったため、翌年度の平成25年の4月から実施した。その調査期間は、4月22日から8月9日までの約3ヶ月半を要した。

書類上の手続きについては、文化財保護法第94条第1項の規定に基づいて、工事主体者の本庄市長吉田信解より平成25年4月4日付の本都計発第13号による「埋蔵文化財発掘の通知」が、文化財保護法第99条の規定に基づいて、調査主体者の本庄市教育委員会教育長茂木孝彦(当時)より平成25年4月8日付け本教文発第19号による「埋蔵文化財発掘調査の通知について」が、いずれも埼玉県教育委員会に提出されている。

なお、埼玉県教育委員会からは、平成25年5月7日付教生文第4-1642号による「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の指示が、本庄市長あてに通知された。



第2図 伝長沖古墳群出土女性人物埴輪



第3図 長沖古墳群古墳分布図(2014年現在)

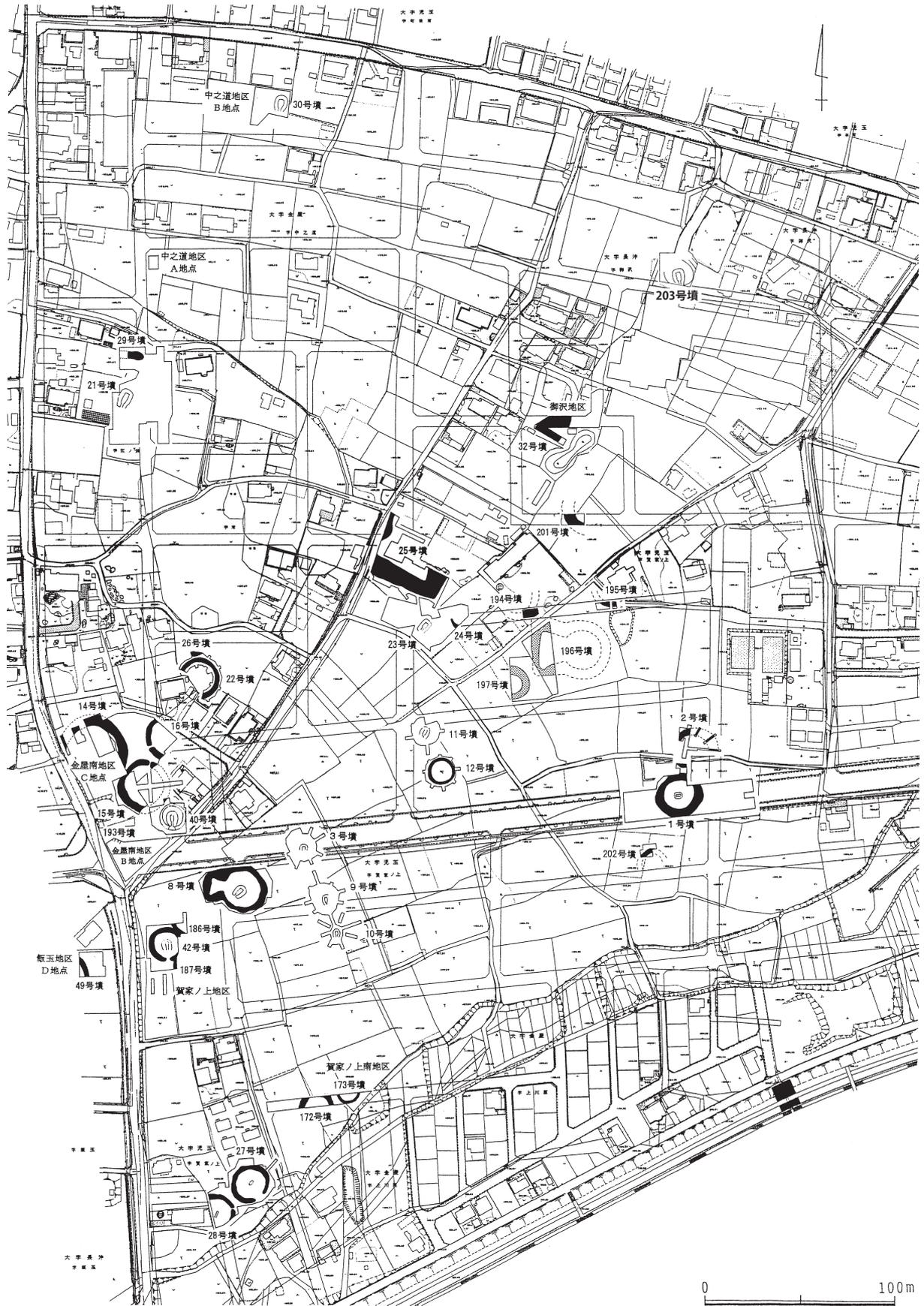
第Ⅱ章 長沖古墳群の概要

長沖古墳群は、上武山地内に源を発して北流する小山川(旧身馴川)が、山地内から平野部に出たあたりで、児玉丘陵の南側に沿って流路を北東方向から東西方向に変えた場所の左岸に立地している。その範囲は、東側の標高125mの丘陵部から、西側の丘陵先端下に広がる標高101m付近の氾濫原にかけて、東西約1700m、南北約500mの帯状に多数の古墳が分布している。古墳の数は、昭和55年(1980年)の段階では、前方後円墳5基(伝承の110号墳を含めると6基)を含む157基の古墳が知られていたが(菅谷他1980)、その後の試掘調査や発掘調査の進展により、平成26年(2014年)現在は前方後円墳6基を含む205基の古墳の存在が明らかになっている(第3図)。

古墳群は、県道76号線(児玉・金沢・秩父線)に沿って丘陵内に細長く湾入する谷によって、地形的に東西に大きく二分されている。かつては、この谷を境にして西側の高柳から金屋の丘陵部を主体に分布する一群を「高柳古墳群」、東側の長沖の丘陵部からその下の氾濫原にかけて分布する一群を「長沖古墳群」と呼称し、これらを総称して「高柳・長沖古墳群」と呼ぶことが提唱されたが(菅谷他1980)、両者は古墳の分布からも連続する一つの大古墳群として捉えるのが妥当と考えられ、現在ではこれらを総じて「長沖古墳群」とすることが一般化している。そして、かつての西側の高柳古墳群とした範囲を高柳支群、東側の長沖古墳群とした範囲を長沖支群と呼び変えている。

古墳群の形成は、現在までの調査の成果では、古墳時代中期の5世紀中頃に遡る。それ以前の古墳時代前期の状況は、長沖支群西部北西端の長沖久保遺跡(恋河内1984、大谷1999、大塚2014)で、小規模な集落が確認されているだけである。中期の古墳は、西側の高柳支群では谷を挟んで北側の丘陵頂部に単独で存在する157号墳、東側の長沖支群では丘陵尾根筋上に距離を置いて点在する34号墳と14号墳があり、中央部の54号墳も該期の可能性が高いとされている(菅谷他1980)。157号墳は、直径32mの大形円墳で、有黒斑のB種ヨコハケの円筒埴輪を伴っている。34号墳は、古墳はすでに削平されて不明であるが、野焼き焼成の一次タテハケ調整で突出した突帯を持つ円筒埴輪を伴ったようである。この次に続く14号墳は、墳丘直径28mの大形円墳で、赤彩された野焼き風と無黒斑の2種類のB種ヨコハケ円筒埴輪と少量の形象埴輪が出土している(恋河内2012)。後期の6世紀になると造墓活動は活発化し、直径10m～20m程度の円墳が多く作られ、有力古墳は5世紀の大形円墳から全長30m前後の前方後円墳に変わる。これらの前方後円墳は、その長軸方向を東西方向に向けるものと、北東方向に向けるものの2者があり、前者は高柳支群に1基(137号墳)、長沖支群西部に1基(十兵衛塚古墳：79号墳)、長沖支群東部南側に2基(8号墳、196号墳)が分布し、後者は長沖支群東部北側に2基(25号墳、32号墳)が集中している。この現状における前方後円墳の分布からすると、当古墳群は後期には最低この4つの地域に大別されるようである。これらの前方後円墳は、6世紀後半には姿を消し、有力古墳の系譜は大形横穴式石室を持つ若干規模の大きな円墳に変わる。7世紀には小形の円墳が主流となり、有力古墳の差異化は墳形や規模から副葬品の優劣の違いに変わるようである。

古墳の主体部は、中期古墳は不明であるが、後期古墳は6世紀前葉には礫郭風や箱式石棺風の小竪穴式石室が主体で、中葉には袖無型横穴式石室が採用され、石室平面形の短冊型から笏型への変化も見られる。後葉には両袖型横穴式石室に変わり、7世紀には「毛野型胴張り形態」(金井塚1976)と呼ばれる石室平面形が徳利状や変形羽子板状の地域的特徴を持つ、模様積みの両袖型胴張横穴式石室が主体となり、以後この石室の小型化と形骸化が進行する(大谷1999)。



第4図 児玉南土地区画整理事業地内調査地点位置図 (2014年現在)

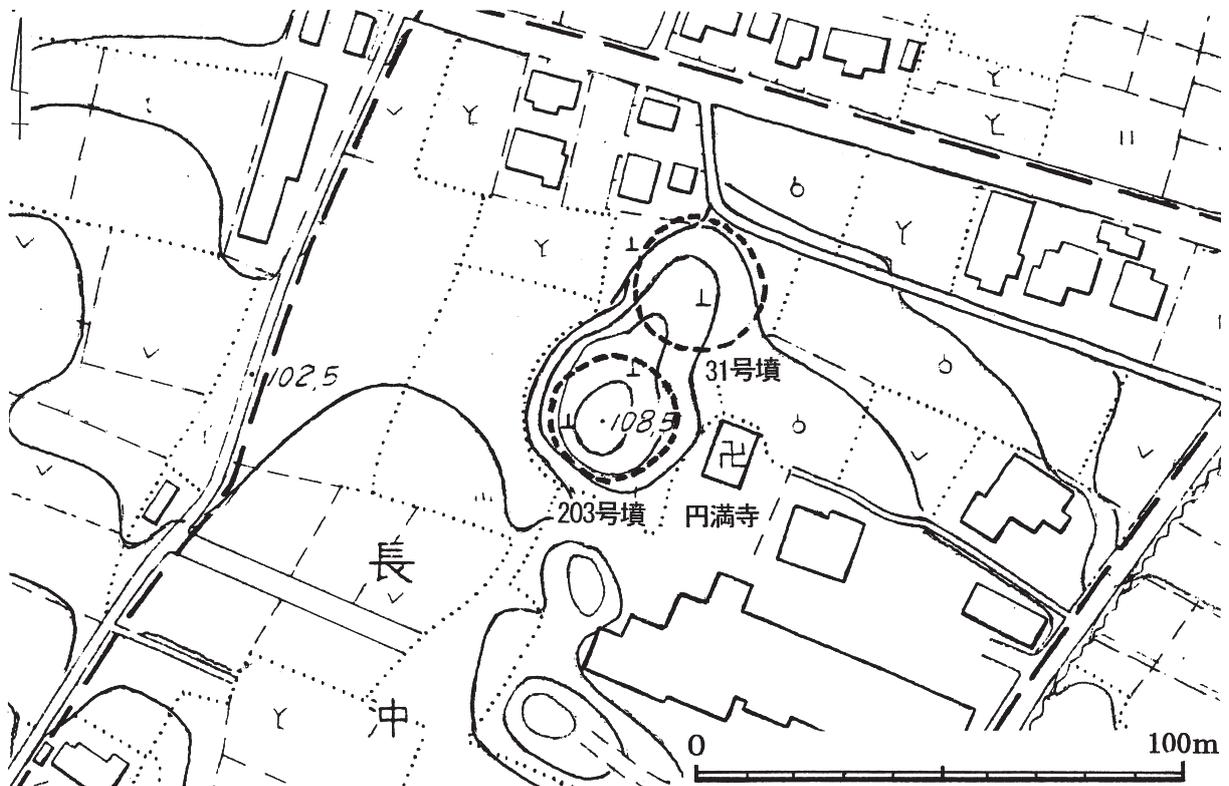
第三章 長沖203号墳の発掘調査

1 古墳の現況

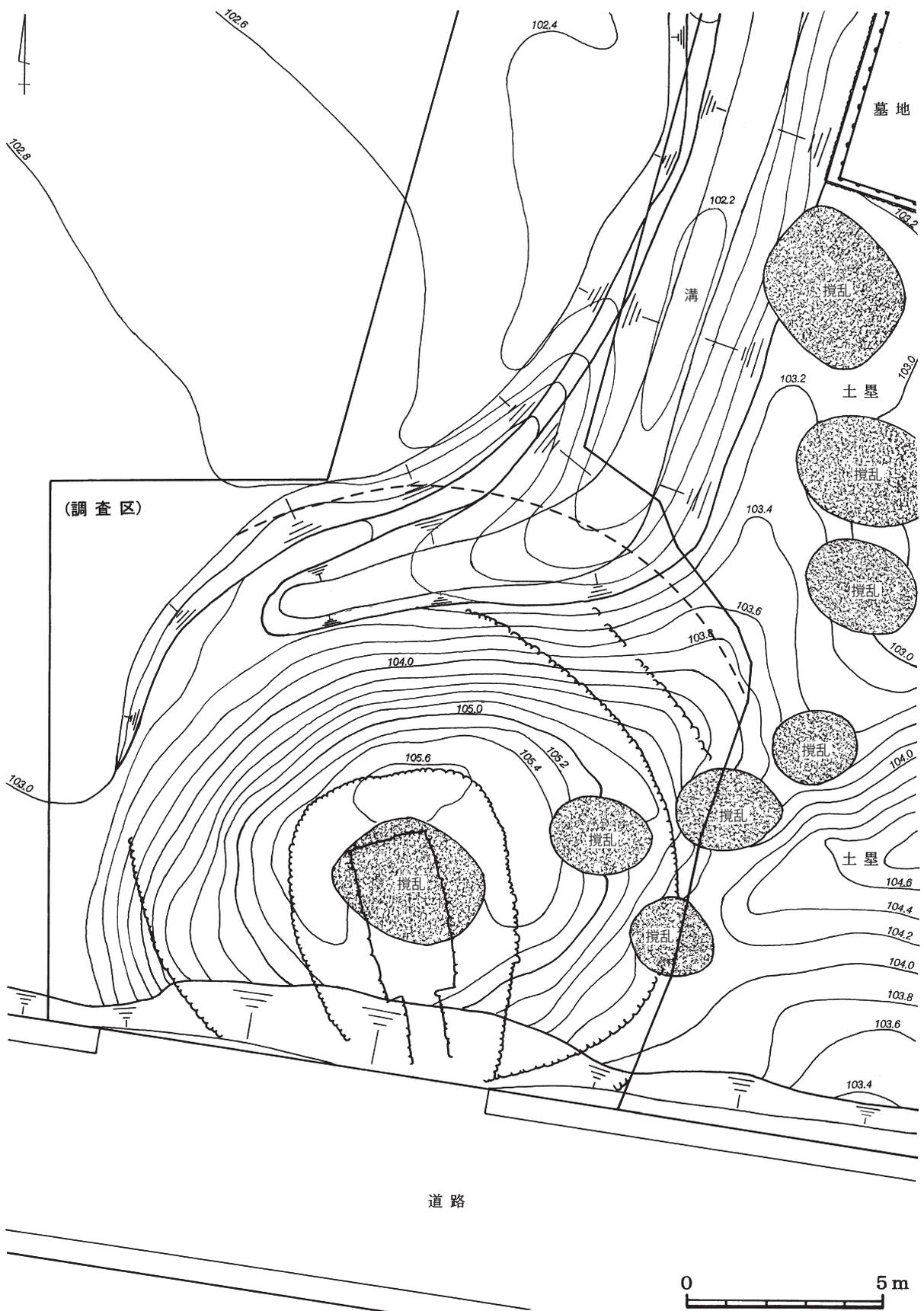
長沖203号墳は、長沖古墳群東側の長沖支群北東端に位置し、標高102mを測る丘陵下の氾濫原と接するあたりに立地している。本古墳は、前方後円墳とされた長沖31号墳(菅谷他1980)の前方部にあたる部分と思われていたが、今回の発掘調査で別の古墳であることが判明した。

長沖31号墳が前方後円墳として誤認されていた理由は、東側隣接地に所在する円満寺の廃絶によって木や篠等が生い茂る雑木林となり、また北側は墓地として造成されていたため、長い間詳細な墳形の確認が困難であったことによる。今回、発掘調査に先立って墳丘上やその周辺の伐採を行い、墳丘の一部の測量を実施したところ、これらは隣接する二つの小規模な古墳を土盛りによって連結し、更に203号墳から東方向に土手状に延ばした、円満寺西側の本堂の後背部を画する土塁として二次的に利用されていたものであることが判明した。円満寺は、江戸時代後期の『新編武蔵風土記稿』に記載があり、その建立は土塁周辺の出土遺物から見て、中世後期以前に遡る可能性も考えられる。

墳丘の現状は、南北方向が約16m、東西方向が約18mの楕円形ぎみの形態で、現地表面から2.6mの高さがある。墳丘の周りは、東側以外はすべて土取りによる攪乱が粘土層下まで及んでおり、墳丘北側の第1葺石付近を根切り溝と思われる第1号溝跡が切っている。墳丘上は、墳頂部に盗掘坑を利用した大きなゴミ穴があり、東側土塁の尾根筋上に大小様々なゴミ穴が列状に掘られている。この墳頂部の盗掘坑を利用したゴミ穴からは、周辺の土取り跡の攪乱内と同じく現代瓦の破片が最も多く出土しているが、その中に布に包まれた犬と思われる動物の遺骸1体が埋葬されており、本古墳のものか不明であるが、その傍に後世の人によって円筒埴輪が2個(第23図No.1・2)横に並べて供えられた



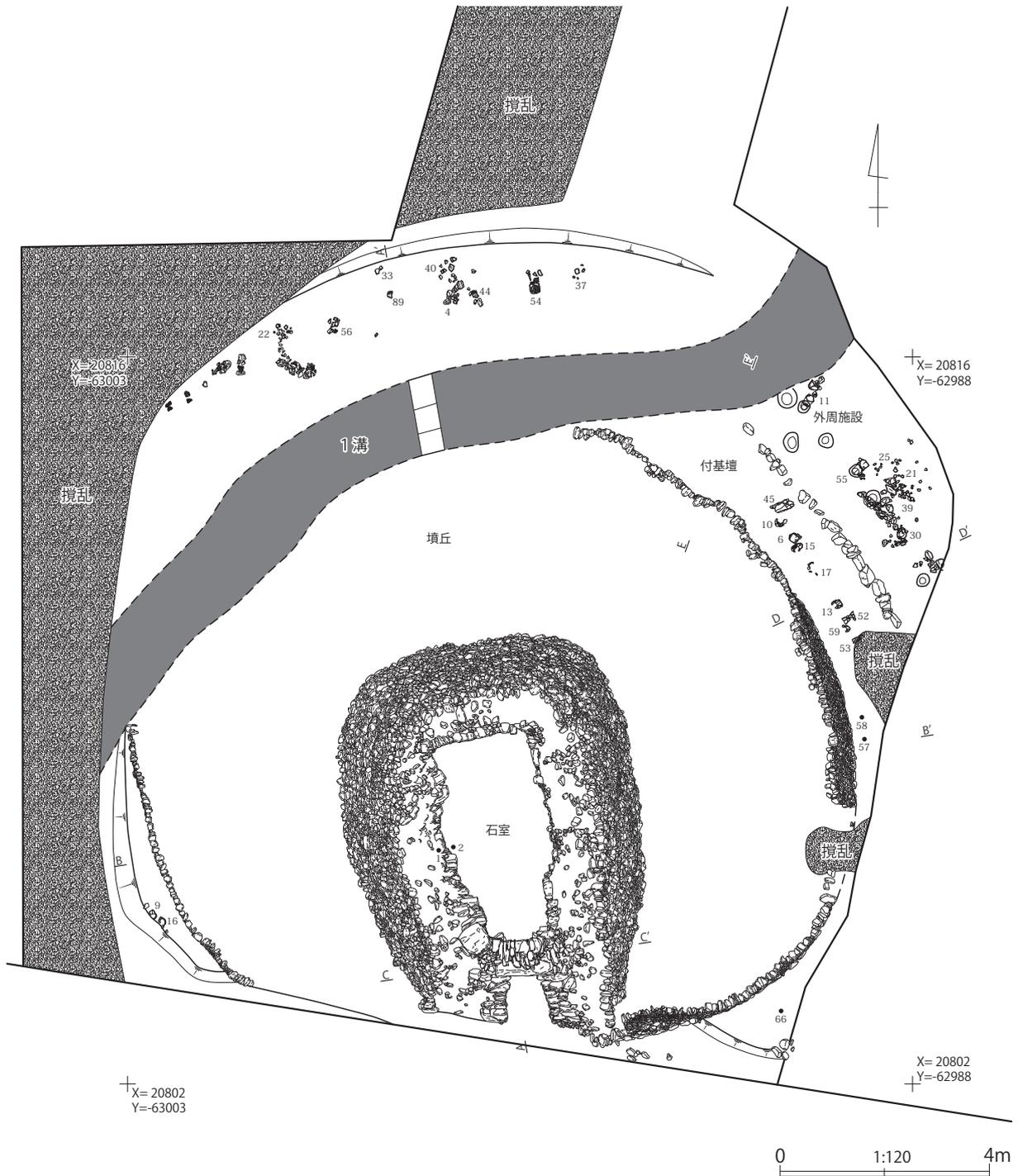
第5図 長沖31・203号墳と円満寺 (旧児玉町昭和44年測量1/2500地図より)



第6図 長沖203号墳墳丘測量図

ように置かれていた。また、この他に当地の近代史の一面が窺える資料として、太平洋戦争中に使用されていたと思われる20mm機関銃の実弾1発が出土している(平成25年5月22日に児玉警察署に提出)。

本古墳は、すでに盗掘を受けている。墳頂部の盗掘坑の存在からも分かるように、児玉地方の古墳群で一般的な「盗掘はほとんど真上から穴を掘り、ふた石をあばいて副葬品を盗み出す方法」によるもので、「大正から昭和にかけて大盗賊団が入ったことを、土地の人達は口をそろえて言っている」(大護1956)ということから、その頃によるものであろうか。

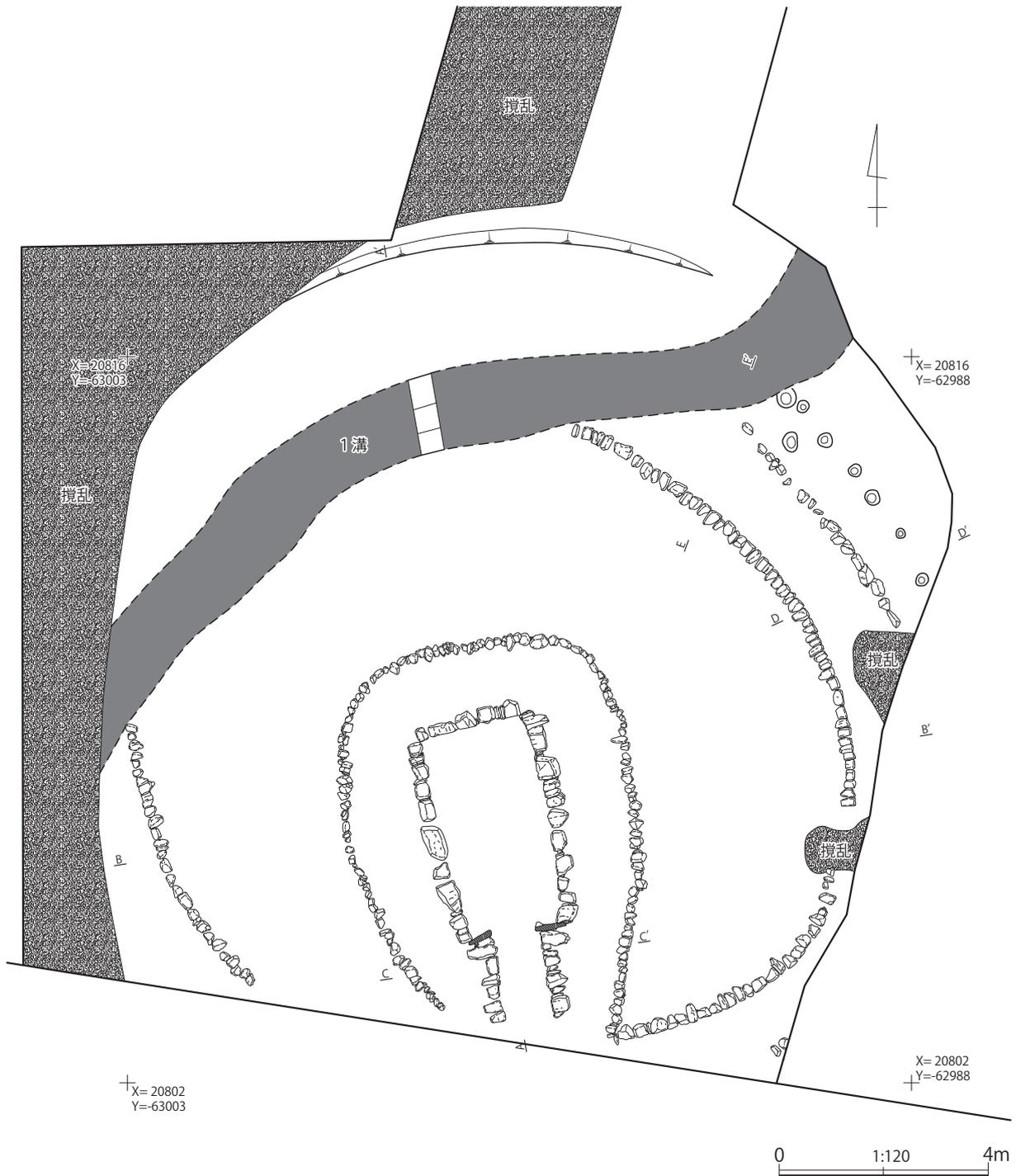


第7図 墓石平面図

2 外表施設

a. 墳 丘

本古墳は、主体部の横穴式石室の控積みを被覆する墳丘盛土の外側に、付基壇と外周施設を巡らせた円墳で、北西～南東方向は約19m、南西～北東方向は約22m残存している。調査区内では、古墳の周りに明確な周溝は見られない。墳丘を巡る付基壇の上には、埴輪が樹立されていたようで、多くの埴輪が破片になって出土している。



第8図 葺石・石室根石平面図

墳丘は、長沖古墳群の古墳の中では、比較的良く残っている方であるが、墳頂部から東側にかけてゴミ穴が多く列状に掘られている。平面形は、正円ではなく、現状で東西方向14.04m、南北方向12.00mの北西～南東方向に長軸を向けた楕円形を呈している。墳丘の盛土は、主に3段階の工程に分けることができる。第1工程は、横穴式石室の構築に伴うもので、石室の石の積み上げに合わせた控積みの押さえとして、非常に硬い土を斜方向に土盛りする三角堆積の部分である。これは石室への



第9図 墳丘土層断面図

石材の搬入と、天井石を引き上げて架設するためのスロープとして利用することを考えた盛土方法で、土層断面の観察では、石室の側壁側から天井石を引き上げたことが明確に判断できる。第2工程は、墳丘外周の第1葺石の構築に伴うもので、石垣状に積み上げる葺石の裏込めとして、葺石側と石室側からの双方向の土盛りによる細かな五目状堆積の部分である。石室外側のどの部分も、旧地表面から1.2m程度の高さでほぼ水平に土盛りされていることから、あるいはそれを1段目とした段築構造の墳丘を形成していたのかもしれない。第3工程は、墳丘上半の帯状に延びる層がほぼ水平に堆積する部分である。石室奥壁の外側では、厚い層と薄い層が明確に互層になっており、盤築状の土盛りを意識した意図的な盛土土層と言える。

長沖203号墳墳丘土層説明

<第1号溝跡>

- 第a層：暗褐色土層(ローム粒・白色粘土・黒色粘土・径0.5～3cmの小礫を中量、径5～10cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第b層：暗褐色土層(ローム粒を少量、白色粘土を中量、黒色粘土を少量、径0.5～1cmの小礫微量含む。しまりやや弱い。粘性やや弱い。)
- 第c層：暗褐色土層(ローム粒・径5cmの礫を中量、白色粘土・黒色粘土・径0.5～2cmの小礫を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第d層：暗灰黄色土層(白色粘土を多量、黒色粘土を少量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまりやや強い。粘性やや強い。)
- 第e層：淡黄褐色土層(径0.5～3cmの小礫を多量、ローム粒を中量、白色粘土・黒色粘土・径5cmの礫を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第f層：暗灰色土層(径5～20cmの礫を多量、径0.5～3cmの小礫を中量、ローム粒・黒色粘土を少量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第g層：暗灰色土層(径0.5～3cmの小礫を多量、ローム粒・白色粘土を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第h層：暗灰色土層(砂粒・径0.5～3cmの小礫を多量、ローム粒・白色粘土を少量含む。しまりややあり。粘性弱。)
- 第i層：灰黄褐色土層(ローム粒・白色粘土・径0.5～3cmの小礫を少量、径5～10cmの礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第j層：暗灰色土層(砂粒・径0.5～1cmの小礫を多量、ローム粒・径5cmの礫を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第k層：淡黄褐色土層(ローム粒を中量、径0.5～1cmの小礫・径5～10cmの礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第1層：淡黄褐色土層(ローム粒を中量、砂粒・径0.5～1cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)

<A-A'・B-B'>

- 第1層：暗褐色土層(径0.5～3cmの小礫・径5～20cmの礫を多量、ローム粒・白色粘土・黒色粘土を少量、黄褐色粘土を微量含む。しまり弱。粘性弱。)
- 第2層：暗褐色土層(白色粘土・径0.5～3cmの小礫・径5～15cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第3層：暗褐色土層(白色粘土を中量、ローム粒・黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第4層：黒褐色土層(ローム粒・白色粘土・黒色粘土を中量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第5層：灰黄褐色土層(白色粘土を多量、ローム粒・黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第6層：灰黄褐色土層(ローム粒・白色粘土・黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第7層：淡黄褐色土層(白色粘土を多量、ローム粒を中量、黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第8層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土・径0.5～3cmの小礫を中量、白色粘土・径5cmの礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第9層：暗褐色土層(径0.5～3cmの小礫・径5～40cmの礫を多量、ローム粒・白色粘土・黒色粘土・黄褐色粘土を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第10層：淡黄褐色土層(ローム粒・白色粘土・黒色粘土を中量、径0.5cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第11層：灰オリーブ色土層(径0.5～1cmの小礫・径5～30cmの礫を多量含む。しまり弱い。粘性なし。)
- 第12層：暗褐色土層(径0.5～1cmの小礫・径5～10cmの礫を多量含む。しまりやや弱い。粘性あり。)
- 第13層：灰黄褐色土層(白色粘土・黒色粘土を中量、ローム粒・径0.5～3cmの小礫、径5cmの礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第14層：淡黄褐色土層(ローム粒・黒色粘土・黄褐色粘土を中量、白色粘土・径5～15cmの礫を少量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第15層：灰オリーブ色土層(径0.5～1cmの小礫・径5～50cmの礫を多量含む。しまり弱い。粘性なし。)
- 第16層：黒褐色土層(径0.5～3cmの小礫・径5～20cmの礫・砂粒を中量、ローム粒を少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。)
- 第17層：暗褐色土層(径0.5～3cmの小礫を中量、ローム粒・白色粘土・黒色粘土・黄褐色粘土を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第18層：灰黄褐色土層(ローム粒・白色粘土・径0.5～3cmの小礫・径5～15cmの礫を中量、黒色粘土を少量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第19層：淡黄褐色土層(ローム粒を中量、白色粘土・黒色粘土・径0.5～3cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第20層：暗褐色土層(黒色粘土を多量、白色粘土を中量、ローム粒・径0.5～2cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第21層：暗褐色土層(径0.5～3cmの小礫を多量、径0.5～15cmの礫を中量、ローム粒・白色粘土・黒色粘土を少量含む。しまり弱。粘性弱。)
- 第22層：灰黄褐色土層(ローム粒・白色粘土を中量、黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第23層：淡黄褐色土層(ローム粒・白色粘土を多量、黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第24層：暗褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒・白色粘土を中量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第25層：淡黄褐色土層(ローム粒・白色粘土を多量、黒色粘土を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第26層：灰黄褐色土層(ローム粒・白色粘土・黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第27層：淡黄褐色土層(ローム粒・白色粘土を多量、黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第28層：淡黄褐色土層(ローム粒・白色粘土・黒色粘土を中量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第29層：黒褐色土層(砂粒・径0.5～2cmの小礫を中量、ローム粒・黒色粘土を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第30層：黒褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第31層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、砂粒・径0.5～1cmの小礫を少量、径5cmの礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第32層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、白色粘土を中量、黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第33層：淡黄褐色土層(ローム粒・白色粘土を中量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)

- 第34層：淡黄褐色土層(ローム粒・白色粘土を中量、黒色粘土を中量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第35層：淡黄褐色土層(ローム粒を中量、白色粘土・黒色粘土を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第36層：灰黄褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、白色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第37層：暗褐色土層(黒色粘土・径0.5～3cmの小礫を多量、ローム粒・径5cmの礫を少量含む。しまりややあり。粘性あり。)
- 第38層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、白色粘土・炭化粒を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第39層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、白色粘土・径0.5cmの小礫を少量、黄褐色粘土を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第40層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、白色粘土を中量、黒色粘土を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第41層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、白色粘土を少量含む。径0.5～2cmの小礫を多量含む。しまり強。粘性強。)
- 第42層：暗褐色土層(黒色粘土を多量、白色粘土を少量、径0.5～2cmの小礫を多量含む。しまりやや強。粘性強。)
- 第43層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、白色粘土を中量、黒色粘土を少量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第44層：黄褐色土層(黄褐色粘土を多量、ローム粒を少量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性強。)
- 第45層：灰黄褐色土層(白色粘土を多量、ローム粒を中量、径0.5～3cmの小礫を微量含む。しまり強い。粘性強い。)
- 第46層：暗灰黄色土層(ローム粒を少量、白色粘土を中量、黒色粘土を多量、径0.5～3cmの小礫を少量含む。しまりやや弱い。粘性あり。)
- 第47層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土を少量、径0.5～1cmの小礫を少量含む。しまり強い。粘性強い。)
- 第48層：灰黄褐色土層(ローム粒を中量、白色粘土を多量、径0.5～1cmの小礫を少量含む。しまり強い。粘性やや強い。)
- 第49層：暗灰黄色土層(ローム粒を中量、白色粘土を中量、黒色粘土を少量、径1～5cmの小礫を多量含む。しまり強い。粘性やや強い。)
- 第50層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、白色粘土を多量、黒色粘土を少量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまり強い。粘性やや強い。)
- 第51層：暗褐色土層(径1～2cmのロームブロックを少量、白色粘土を少量、黒色粘土を多量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまり強い。粘性強い。)
- 第52層：暗灰黄色土層(ローム粒を少量、白色粘土を中量、黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性強い。)
- 第53層：暗灰黄色土層(ローム粒を少量、白色粘土を少量、黒色粘土を多量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまり強い。粘性強い。)
- 第54層：暗灰黄色土層(ローム粒を少量、白色粘土を中量、黒色粘土を少量、径0.5～1cmの小礫を中量含む。しまりやや強い。粘性やや強い。)
- 第55層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第56層：暗褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫を中量、ローム粒・黒色粘土・径5cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第57層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、径0.5～3cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第58層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、径0.5cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第59層：黒褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒・径0.5～3cmの小礫を中量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第60層：淡黄褐色土層(砂粒・径0.5～3cmの小礫を多量、径5cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第61層：暗褐色土層(砂粒・径0.5～3cmの小礫を多量、径5～10cmの礫を中量、ローム粒を少量含む。しまりややあり。粘性なし。)
- 第62層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、白色粘土を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第63層：暗褐色土層(砂粒・径0.5～1cmの小礫を多量、ローム粒を微量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第64層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、径0.5～1cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第65層：淡黄褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第66層：暗褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第67層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土を中量、白色粘土を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第68層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～2cmの小礫を中量、径5cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第69層：黒褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第70層：暗褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫・径5～20cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性弱。)
- 第71層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第72層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫を中量、径5～10cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第73層：淡黄褐色土層(砂粒を多量、径0.5～2cmの小礫・径5cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第74層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫・径5～15cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第75層：黄褐色土層(砂粒を多量、径0.5～2cmの小礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第76層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、白色粘土・黒色粘土・径5～20cmの礫を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。)
- 第77層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫・径5～20cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性弱。)
- 第78層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第79層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第80層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第81層：暗褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第82層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、径1cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第83層：暗褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第84層：黒褐色土層(黒色粘土・砂粒・径0.5～1cmの小礫を中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第85層：淡黄褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫・径5cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第86層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～1cmの小礫を中量、黒色粘土を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第87層：暗褐色土層(砂粒を多量、ローム粒・黒色粘土・径0.5～1cmの小礫を中量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第88層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第89層：淡黄褐色土層(砂粒を多量、径0.5～2cmの小礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第90層：暗褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫を中量、径10cmの礫を微量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第91層：暗褐色土層(砂粒を多量、径0.5～1cmの小礫を中量、ローム粒を少量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第92層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～10cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性弱。)
- 第93層：灰黄褐色土層(ローム粒を少量、白色粘土を多量、径0.5～1cmの小礫を中量含む。しまり強い。粘性強い。)
- 第94層：暗褐色土層(白色粘土を少量、径0.5～3cmの小礫を多量、径5～10cmの礫を中量含む。しまりやや弱い。粘性やや強い。)
- 第95層：淡黄褐色土層(砂粒・径0.5～3cmの小礫を多量、ローム粒・径5～10cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第96層：暗灰黄色土層(白色粘土を多量、黒色粘土を少量、径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまりやや強い。粘性やや強い。)
- 第97層：黒褐色土層(白色粘土を微量、黒色粘土を少量、径0.5～3cmの小礫を多量含む。しまりやや弱い。粘性やや弱い。)
- 第98層：暗灰黄色土層(白色粘土を中量、黒色粘土を少量、径0.5～3cmの小礫を中量含む。しまりあり。粘性やや強い。)
- 第99層：暗褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土を中量、白色粘土を微量含む。しまり強。粘性あり。)
- 第100層：黒褐色土層(黒色粘土を多量、径0.5～3cmの小礫を中量、ローム粒・径5～10cmの礫を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)
- 第101層：黒褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒を中量、炭化粒を微量含む。しまり強。粘性あり。)

< A-A'・B-B'・C-C' 石室後込め >

- 第A層：淡黄褐色土層(砂粒を多量、径0.5～2cmの小礫を中量、径5～15cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第B層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫を中量、径5～20cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第C層：暗褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫・径5～20cmの礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第D層：黒褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫・径5～15cmの礫・暗褐色粘土中量含む。しまりややあり。粘性弱。)
- 第E層：淡黄褐色土層(砂粒を多量、径0.5～3cmの小礫を中量含む。しまり弱。粘性なし。)
- 第F層：黒褐色土層(砂粒・径0.5～3cmの小礫・径5～20cmの礫を多量、暗褐色粘土を少量含む。しまりややあり。粘性ややあり。)

墳丘東側付基壇D-D'土層説明

- 第1層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、砂粒を中量、黒色粘土・径0.5～1cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性やや弱。)
- 第2層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土・径0.5～3cmの小礫・径5～20cmの礫を中量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第3層：暗褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒を中量、径0.5cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第4層：黒褐色土層(径0.5～3cmの小礫を多量、砂粒を中量、ローム粒・黒色粘土・径5～20cmの礫を少量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。)
- 第5層：暗褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土・径0.5～1cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第6層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、径0.5～1cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第7層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土を少量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性ややあり。)
- 第8層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、径0.5cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第9層：黒褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第10層：淡黄褐色土層(ローム粒を多量、黒色粘土・砂粒・径0.5cmの小礫を少量含む。しまりあり。粘性ややあり。)

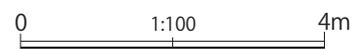
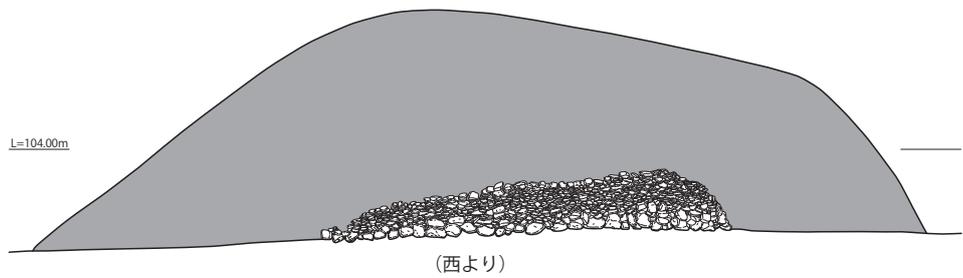
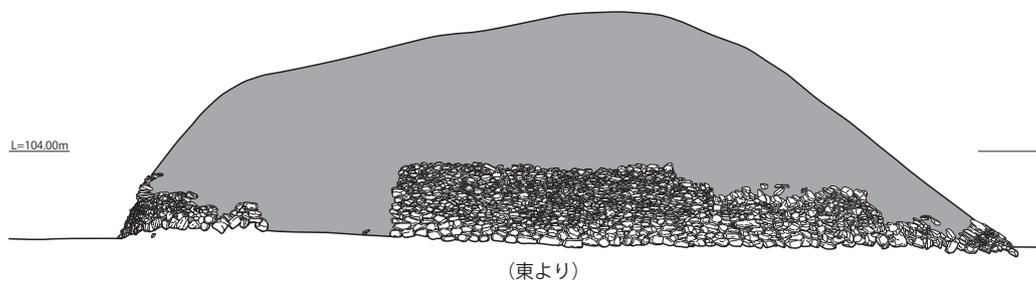
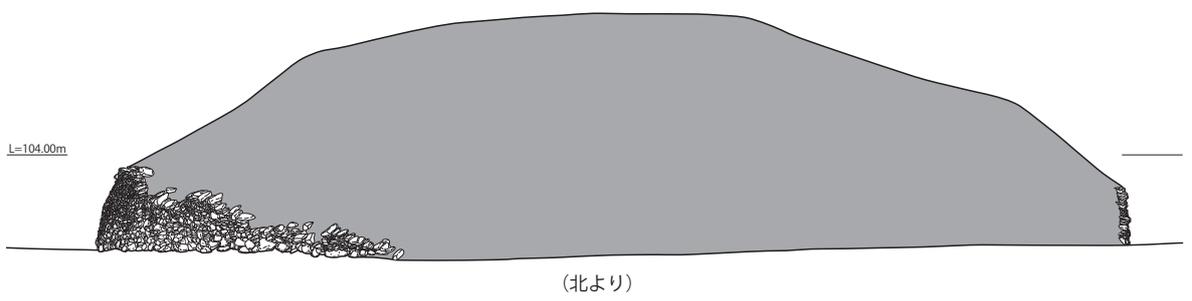
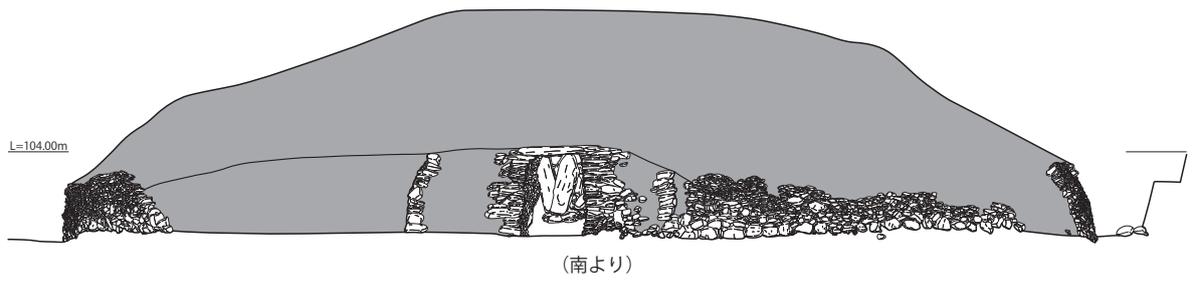
墳丘東側付基壇E-E'土層説明

- 第1層：暗褐色土層(径0.5～3cmの小礫を中量、径0.2cmの浅間山系A軽石・ローム粒・径5～10cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第2層：暗褐色土層(ローム粒・黒色粘土・径0.5～3cmの小礫・径5～15cmの礫を中量、径0.2cmの浅間山系A軽石・白色粘土を少量含む。しまり弱。粘性ややあり。1号溝埋没土。)
- 第3層：暗褐色土層(径0.5～3cmの小礫を多量、ローム粒を中量、白色粘土・黒色粘土・径5～10cmの礫を少量含む。しまり弱。粘性ややあり。)
- 第4層：淡黄褐色土層(ローム粒を中量、黒色粘土・径0.5～3cmの小礫を少量、白色粘土を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第5層：淡黄褐色土層(ローム粒・黒色粘土を中量、白色粘土を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第6層：暗褐色土層(黒色粘土を多量、ローム粒・白色粘土を少量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第7層：黄褐色土層(ローム粒を多量、白色粘土を少量、黒色粘土・径0.5～1cmの小礫を微量含む。しまりあり。粘性あり。)
- 第8層：暗褐色土層(ローム粒を少量含む。しまりあり。粘性あり。)

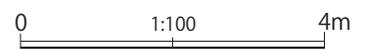
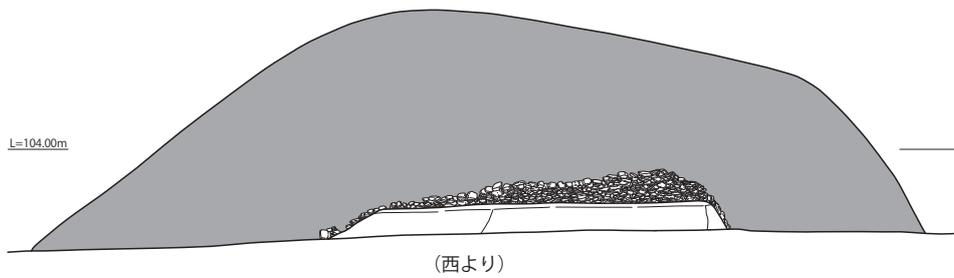
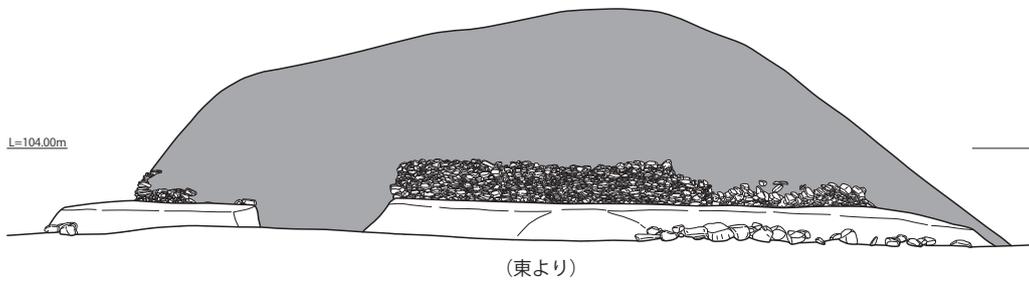
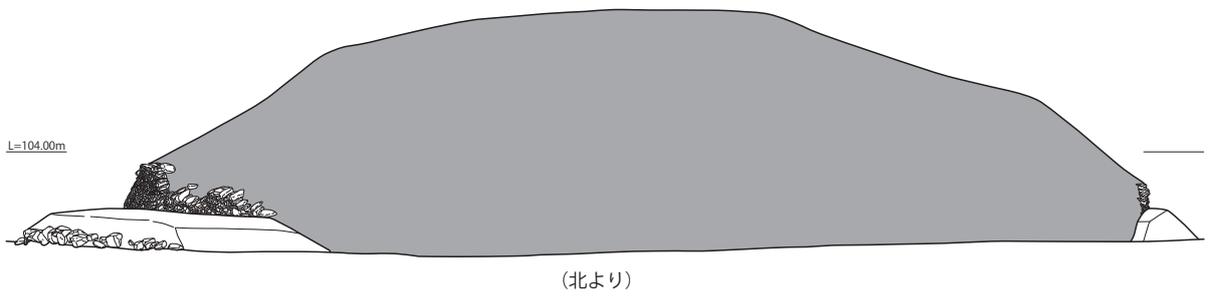
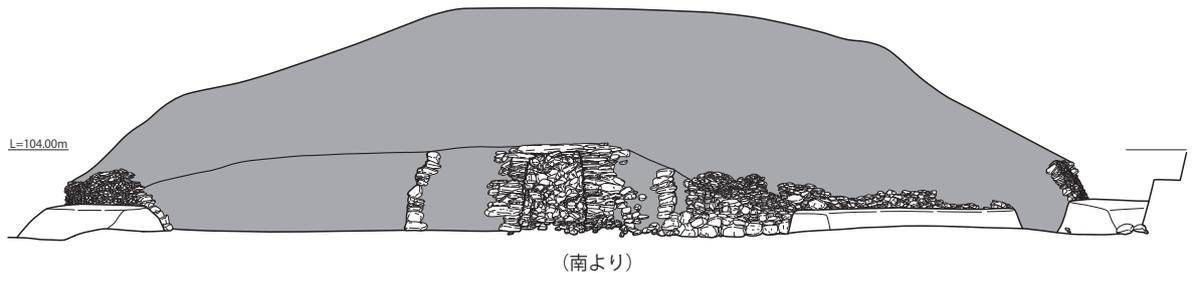
b. 葺石

葺石は、墳丘外周の第1葺石と、その外側を巡る付基壇外周の第2葺石が見られる。第1葺石は、墳丘西側の一部と東側の南東から北西にかけて見られ、南側は道路によって、北側は第1号溝跡によって切られている。墳丘の西側が最高84cm、南側が最高87cm、東側が最高110cmまで残存していた。石の積み方は、比較的大きめの根石を密に並べた上に、扁平で細長い川原石の小口面を揃えて積み上げた小口積みである。大きめの石から選んで順に積み上げているようで、上半に比べて下半の方にやや大きめの石が多いようである。葺石の裏込めには、砂粒や礫を多く含んだ黒褐色土を多用している。この第1葺石は、かなり歪みが見られ、特に墳丘の北東側と西側では、葺石の上半が外側に反り返ってオーバーハングしている。これは、墳丘盛土の崩落によるというよりも、墳丘の東西両側だけに顕著に見られることから、後世のある時期に墳丘の北東から南西の向きに横方向の大きな力が加わったためと推測され、おそらくかなり規模の大きな地震の影響によるものではないかと思われる。ちなみに、長沖古墳群の古墳の中で、本古墳のように南北方向に近い向きに長軸をもつ両袖型の横穴式石室では、玄室内の同じ積み方の壁面でも、本古墳と同じように南北方向の奥壁や前壁よりも東西方向の側壁側の方に壁面の歪みが顕著に見られる傾向が認められる。

第2葺石は、古墳北東側の付基壇の外側と南東側の調査区端に、一部その痕跡が見られるだけである。いずれも、葺石最下部の根石しか残存していないため、葺石の積み方は不明である。第2葺石の根石の配列は、北東側の残存する部分だけではあるが、やや大きめの石の狭い小口面ではなく、面の広い側面の方を外に向けて並べているものが多いようで、第1葺石の根石の配列が石の狭い方の小口面を揃えて比較的整然と並べられているのに対して、やや配列の仕方が雑な感じがする。



第10図 第1 葺石側面図



第11図 基壇側面図

c. 基壇・外周施設

基壇は、墳丘の南側以外でその一部が残存している。残存する部分から推測すると、同心円状に墳丘の周りを巡っていたようで、内側の基壇と外側の外周施設からなる。内側の基壇は、墳丘の西側と東～北東側にかけてその一部が残存している。幅が150cm～160cmの付基壇で、高さは西側で55cm、東側で60cmほど残存している。ローム土を主体とする淡黄褐色土と、小礫や砂粒を多く含む暗褐色土によって盛られている。

外側の外周施設は、墳丘の北東側～北側にかけてその痕跡が見られる。基壇のような意図的な土盛りは明確ではなく、外周端部の葺石の痕跡も見られない。北東側外周施設の埴輪の出土レベルが、内側の基壇外周の第2葺石の根石とほぼ同じレベルであることからすると、その端部の区画は削り出しによる段であった可能性が高い。ちなみに、この外周施設の北側には古墳に沿うような弧状の段が見られるが、これは後世の耕作によるもので、古墳端部の区画と一致するものかは不明である。外周施設の幅は、内側の付基壇と同程度と思われる。

基壇とその外側の外周施設とも、埴輪が多く出土しており、中央に列状に並んで巡っていた様相が窺える。すでに倒壊して元位置を保っていないものが多いが、いずれも円筒埴輪・朝顔形埴輪と形象埴輪が混在して見られ、外側の外周施設には据え穴のような浅いピットが列状に並んでいる。

3 石 室

主体部は、石室の外側に控積みをもつ川原石積みの両袖型横穴式石室である(第12・13図)。主軸方位は、N—12°—Wをとり、やや南東方向に向いて開口している。玄室から羨道部の一部までが残存しており、羨門付近から前庭部はすでに削平されている。残存する石室の規模は、羨門の推定位置から玄室奥壁の控積みまでの南北方向が最長8.30m、玄室東西両側壁の控積みまでの東西方向が最大幅5.70mある。高さは、玄室奥壁側の控積みで最高2.53mまで残存している。

a. 天 井 石

玄室内から天井石が3枚出土しているが、これだけでは玄室の天井を覆いきれないため、何枚かはすでに持ち去られたものと思われる。いずれも長さ1.80m～2.00mの板状の緑泥片岩で、一枚は奥壁際の棺床面上から、一枚は東側の側壁に立てかけられたような状態で、一枚は玄室中央部の覆土中から水平になって出土している。いずれの天井石にも、目立った加工痕は見られなかった。

羨道部では、羨門に天井石が2枚架けられた状態で出土している。長さ130cm～150cm、幅30cm～55cm、厚さ10cm～15cmの板状の緑泥片岩を使用している。羨門直上の天井石よりもその後ろの羨道の天井石の方を石の厚さ分一段高くして、その段に閉塞板を外側から立てかけられるようにしている。

天井石の被覆には、盗掘坑の陥没土や墳丘上層の堆積土中に白色粘土が多く見られることから、白色粘土が主に用いられたものと思われる。

b. 石室控積み

石室外側の控積みは、高さが西側で1.45m、東側で1.80m、北側で2.53m程度残存している(第12図)。平面形は馬蹄形を呈し、玄室壁面からの幅は、東西両側がいずれも最大1.80m、北側が1.70mを測り、側壁に比べて奥壁側の幅が若干狭くなっている。羨道部壁面からの幅は、玄門で東西両側がいずれも1.95m、羨門付近で最狭1.30m程度である。

控積みの根石は、石室壁面や葺石の根石よりも若干小さめの長さ20cm前後の河原石を、部分的には石の平坦面を揃えて並べている所も見られるが、全体的には石の小口面や平坦面をあまり意識せずに馬蹄形状に並べている。その配列の仕方は、石の配列に粗密があったり、若干ずれが生じている所が見られることなどから、端から順に並べるのではなく、平面プランの所々に目印の石を配置して、その間を充填しながら並べる方法であったと思われる。

控積みの積み方は、20cm前後の礫状の転石を主体に、石の面を揃えないで乱石積み風に積み上げて



第12図 石室控え積み展開図

いる。その積み上げ角度は、石室壁面の持ち送り角度と一致し、石室の壁面とほぼ平行している。石室壁面と控積みの間の後込めは、基底面の壁面と控積みの根石の間に10cm～20cmのやや小形の礫状の転石を敷き詰めた後、淡黄褐色砂礫層と黒褐色砂礫層を互層にして盤築状に充填している。本古墳の場合、控積みの表面に、高さ60cm～70cm毎に水平方向に通る微妙な稜線や凹線が3段ほど見られる(第12図→の部分)。それらの場所は、内側の石室壁面の模様石が水平方向に揃えて積まれた目地の通る箇所(第13図→の部分)と概ね一致していることから、石室構築における石材積み上げ作業の作業単位として捉えられるものと思われる。

c. 羨道部

羨道部は、玄室の中心線から若干西側に曲がって設置されている。規模は、残存長が2.00mであるが、羨門推定位置から推測すると、羨道部の全長は2.60m程度と思われる。幅は棺床面で90cm、天井部で64cmあり、棺床面から天井部の高さは90cm～95cmを測る。

壁面は、玄室と同じく大形の根石の上に扁平で棒状の片岩系川原石を「二列交互重ね積み」の手法で積み上げ、要所要所に「模様石」(増田・小久保1977)・「親材」(田中1989)・「核石」(増田1996)などと呼ばれるやや大形の転石を配した「模様積み」で、天井に向かって徐々に狭くなるように持ち送っている。羨道部壁面の模様石は、玄室壁面の模様石に比べてやや小形の石を用いている。

床面は、玄室の棺床面よりも15cmほど高く、淡黄褐色の砂礫土を敷いた上に、長さ20cm前後のやや大きめの河原石を地山底面から30cm程度の高さまで敷き重ねて平坦面を作り出している。玄室との境は、玄門に長さ30cm・幅15cm・厚さ10cm程度の角状の転石を、小口面を揃えて並べて段にしている。

羨道部の閉塞は、玄門の天井石の南側に長さ80cm・幅20cm～30cm・厚さ5cmの板状の緑泥片岩2枚と結晶片岩2枚の計4枚(前3枚・後1枚)の閉塞板を、天井石の段に立てかけて並べて密閉し、その外側から羨門の間に、長さ20cm～30cmのやや大形の角状の転石を多数詰め込んで閉塞している。なお、玄門の密閉に使用した閉塞板の2枚の結晶片岩は、同一の板石を割って2枚にしたものである。

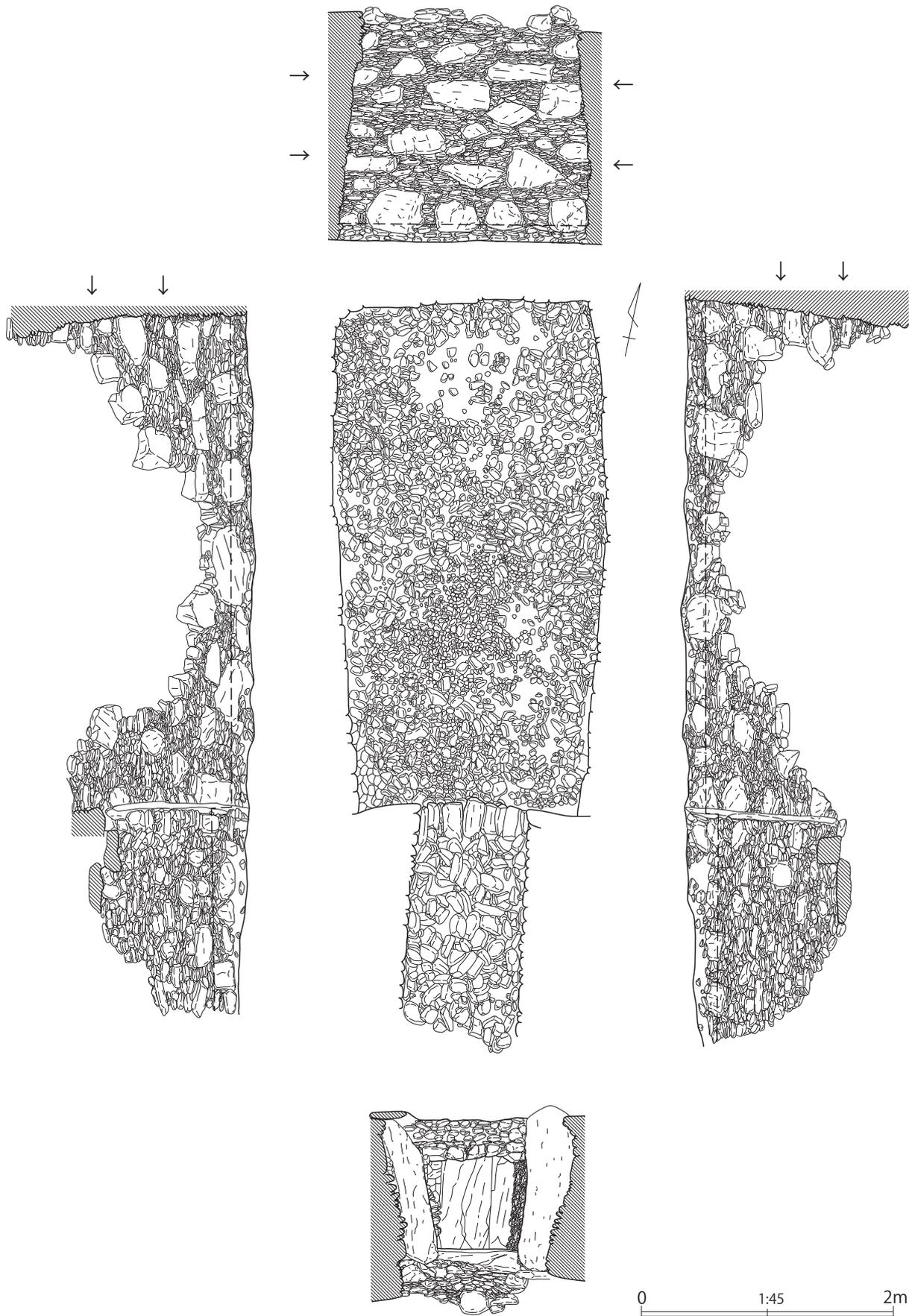
d. 玄室

平面形は、両袖型の長方形に近い形態を呈している。規模は、玄門から奥壁までの長さが4.00m、幅は奥壁側2.00m、中央部2.10m、玄門側1.66mを測る。東西両側壁では、西側壁が直線的であるのに対して、東側壁は若干湾曲みであるが、根石を配列するための帯状の掘り方(第15図)は、両方とも直線的な形態であることから、石室の平面形態に対する胴張りの意識はあまり高くないと思われる。

玄門は、長さ120cm～130cm・幅40cm～50cm・厚さ10cm前後の板状の緑泥片岩を、東西両側とも立てて門柱石にしている。規模は、高さが73cm、幅は天井部で65cm・床面で83cmある。玄室棺床面と羨道部床面は、玄門で段差によって区切られている。

壁面は、東側壁が最高162cm、西側壁が最高187cm、前壁が最高42cm、奥壁が最高190cmほど残存しているが、奥壁以外は壁面の崩落が著しく、遺存状態はあまり良好とはいえない。東西両側壁・前壁・奥壁とも扁平で棒状の片岩系川原石を「二列交互重ね積み」の手法で水平に積み上げ、本古墳では天井石や門柱石に次ぐ大きさの石材である角状の転石を要所要所に配した「模様積み」で、前壁以外はいずれの壁面も天井に向かって徐々に狭くなるように、緩やかな傾斜で持ち送っている。

棺床面は、ほぼ水平の地山底面に暗褐色の砂礫土を敷いた上に、長さ10cm～15cmのあまり大きくない扁平の川原石を、地山底面から玄門側と奥壁側で15cm程度、中央部で20cm程度の高さまで敷き重ね

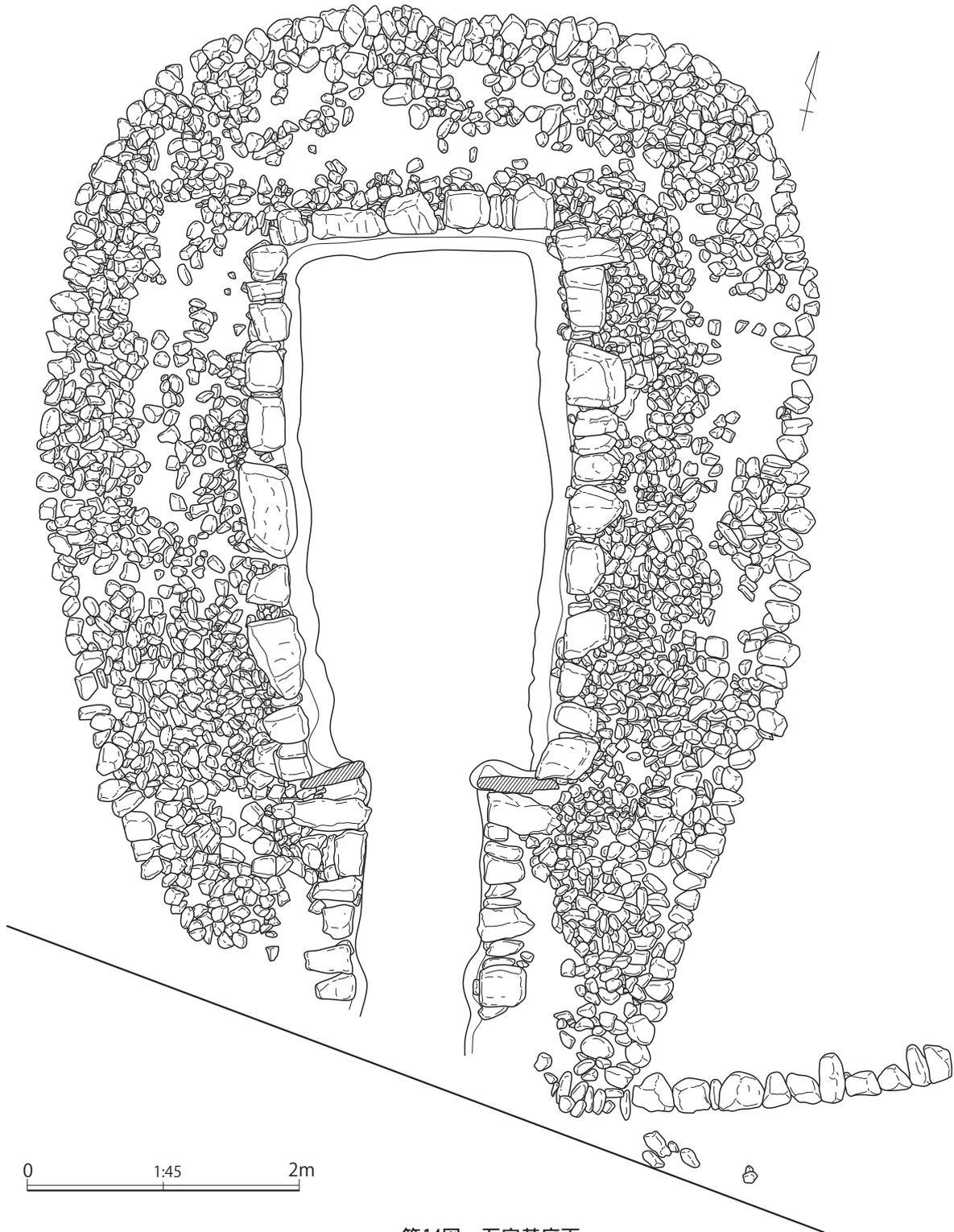


第13図 石室展開図

て、水平な平坦面を作り出している。

e. 掘り方

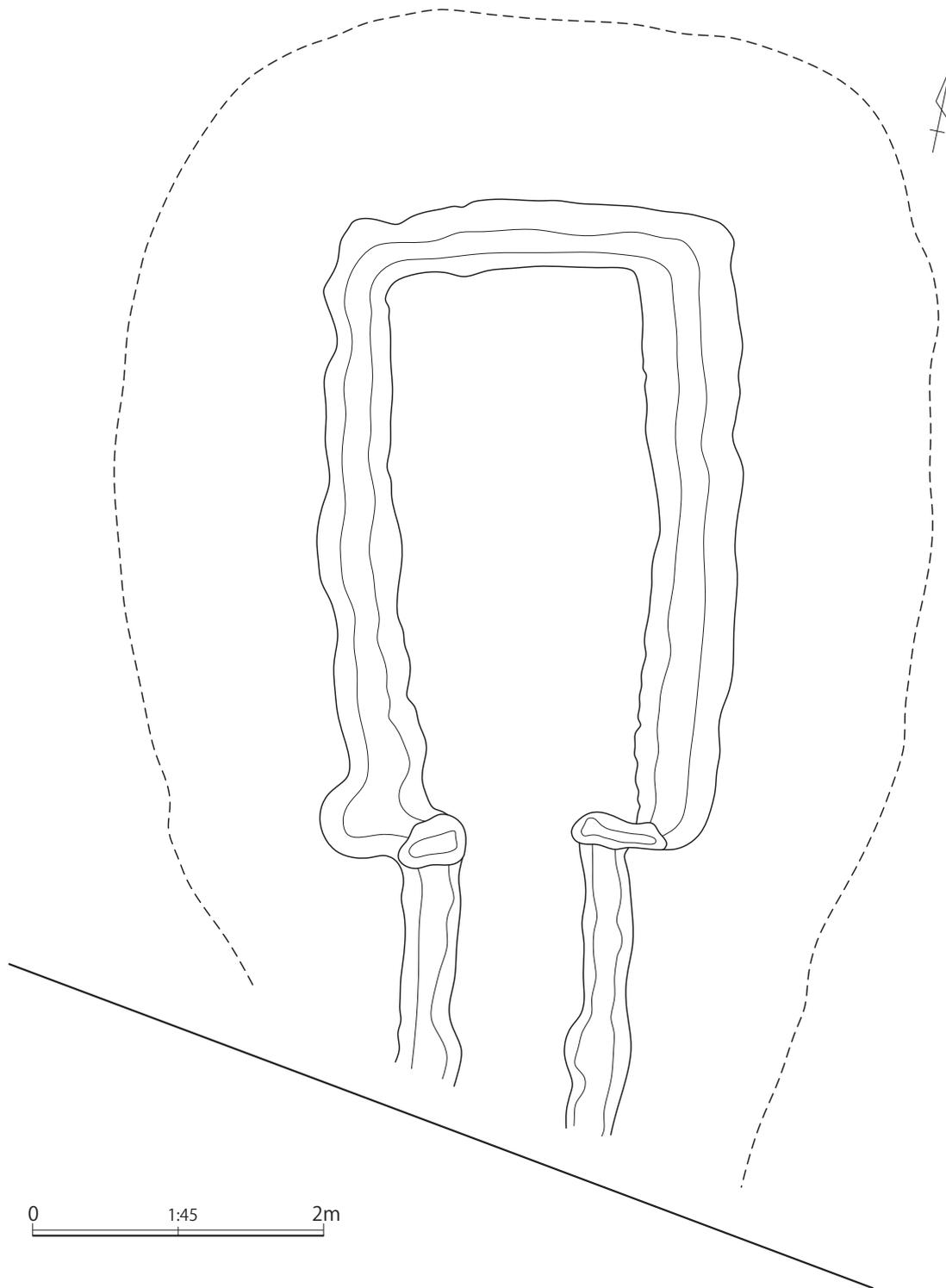
石室の掘り方は、羨道部と玄室の壁面の根石の下の部分に、浅い直線的な帯状の掘り込みが見られる(第15図)。規模は、羨道部で幅35cm~40cm、玄室側で幅45cm~70cm、深さ10cm~15cm程度を測り、玄室側に比べて羨道部側の掘り方の幅がやや狭くなっている。玄室側の掘り方の平面形態は、ほぼ長



第14図 石室基底面

方形を呈している。この帯状の掘り方は、長沖古墳群の両袖型横穴式石室を持つ古墳に多く見られるもので、その性格は石室壁面の根石の沈下を防ぐとともに「根石の配置や角度を調節するためのズリ石を入れるためのもの」（恋河内2011）と考えられる。

墳丘下の古墳時代当時の地表面には、本古墳南側の長沖古墳群の他の古墳では、いわゆる「漆黒の



第15図 石室掘り方

黒色土」(鈴木2007)と言われるような腐植土主体の黒色土が多く見られる。本古墳の場所は、やや茶色がかった暗褐色土で色調がやや異なるが、他の古墳の地山に見られる黒色土と同じように、耕作等によって攪拌されたような土ではなく、また地表面にも畝の畝のような具体的な耕作などの土地利用の痕跡は見られない。本古墳の石室下の地表面には、足跡のような細かな凹凸が多数見られる。これらは、棺床面の川原石の下に敷いた砂礫等の圧痕もあるが、多くは石室構築時の作業によってついたものと思われる。

4 出土遺物

本古墳から出土した遺物には、横穴式石室の玄室内から出土した人骨と思われる骨や歯の破片と武器や装身具等の副葬品(第17～21図)、墳丘の墳頂部や基壇上から出土した埴輪(第23～33図)などがある。これらは主体とする時期が異なり、前者の石室内から出土した副葬品の多くは7世紀前半頃の追葬に伴うもので、後者の墳丘上に樹立されていた埴輪は6世紀後葉の古墳の築造に伴うものと考えられる。この他には、表土層や第1号溝跡から中世以降の遺物が少量出土している(第34図)。

a. 石室内出土遺物

人骨と思われる骨の破片は、玄室内で散乱した状態で出土している。それらは、圧潰したものや小片になったものがほとんどであるため、盗掘で荒らされた時に攪拌され、元位置からかなり動いたものが多いのではないかとと思われる。体の部位が分かるようなものは、見られなかった。歯は、少数ではあるが、玄室中央部西側寄りの装身具の玉類が多数まとまって出土した付近に集中しており、おそらくその装身具を身に付けて埋葬された人物のものと考えられる。

副葬品は、盗掘によってすでに大形品など主要なものは持ち去られていると考えられ、主に武器や装身具の小形品の一部と須恵器が2点残存していただけである。

武器は、直刀・刀装具・刀子・弓金具・鉄鏃などが見られる(第17～18図)。

直刀は、第17図No.2の目釘穴のある茎部の破片1片だけで、北東側コーナー一部の壁際付近から複数に細かく割れた状態で出土している。身の部分は、破片すら見られないことから、すでに盗掘時に持ち去られたものと思われる。

刀装具は、第17図No.6の柄尻金具だけで、南東側コーナー部近くの壁際の棺床面から出土している。第17図No.3の板状の鉄片も、柄尻金具の一部と思われ、中央部の棺床面から出土している。

刀子は、第17図No.7の1振だけで、複数の小片になって玄門付近の棺床面から出土している。刃部から茎部にかけての破片で、その境には銅製の鏹が巻かれ、茎部には柄の木質が付着している。

弓金具は、第17図No.4とNo.5の2個がある。いずれも、鉄鏃が集中する北東側コーナー部の壁際から出土しており、鉄鏃と関係性の強い遺物と言える。

鉄鏃は、ほとんどが長頸鏃と考えられるが、完形品は少なく、その大半は破片である。鏃身は、片刃式・端刃式・鑿箭式・三角式の4形態が見られる。片刃式は、第17図No.9の1本だけで、平造りの片刃の下端に関をもつ形態である。端刃式は、第17図No.10～No.17の8本がある。平造りか切刃造りの刃先は、直線ぎみなものと丸みを帯びて湾曲するものがある。鑿箭式は、第17図No.11bと第17図No.18～第18図No.26の10本がある。いずれも片丸造りで、鏃身の下端に関を持たない形態であるが、大きさはまちまである。三角式は、No.27の1本だけである。鏃身が比較的小さいもので、平造りの身の両側

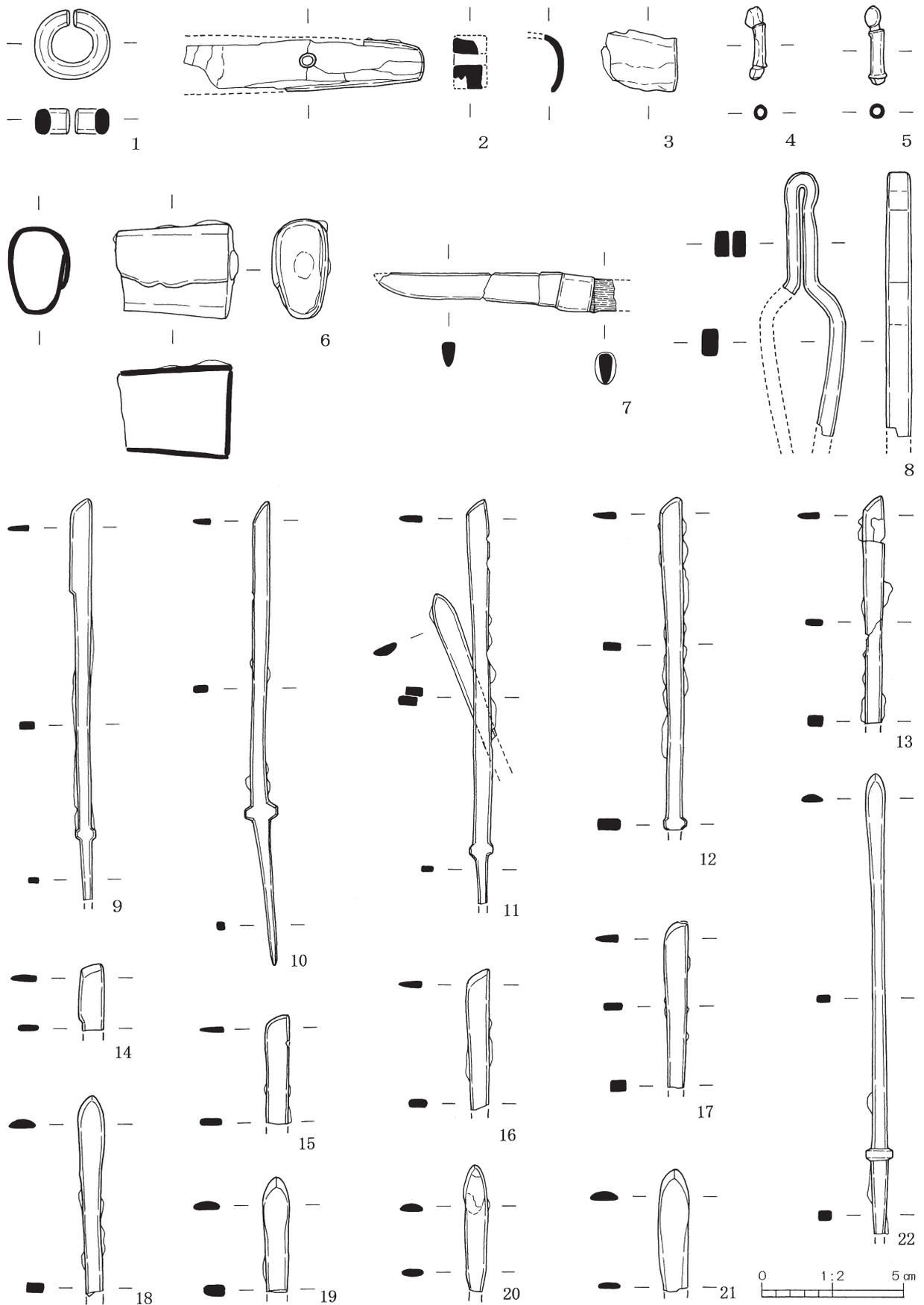
に逆刺を持っている。柄(頸~茎)部の関の形態が分かるものは、全て棘状関である。頸部と茎部の断面の形態は、長方形が多いが、少数ながら方形ぎみのものも見られる。出土した鉄鏃の主体をなす平造りか切刃造りの端刃式と片丸造りの鑿箭式は、その形態から見て7世紀前半頃の追葬に伴うものと思われる。

装身具は、耳環と玉類が残存している。

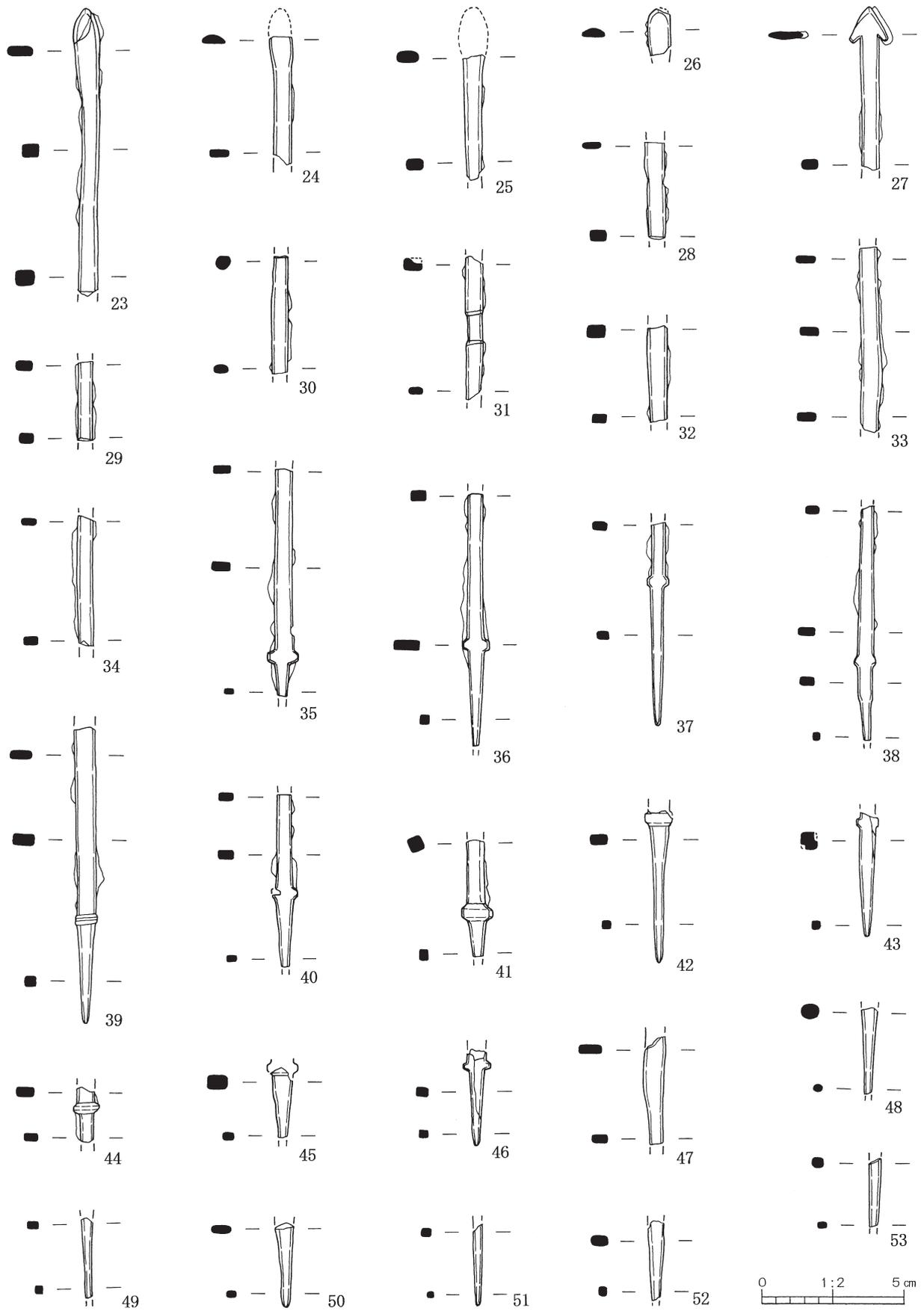
耳環は、中実式で銅地銀貼り製の第17図No.1の1点だけで、中央部西側寄りの棺床面から、多数の玉とともに出土している。おそらく、玉類の装身具とともに被葬者が身に着けていたものと思われる



第16図 石室内遺物出土位置図



第17图 石室内出土金属製品（1）



第18图 石室内出土金属製品（2）

石室内出土金属製品観察表

1	耳環	A. 直径2.7×2.5、厚さ0.9、重さ18g。B. 鍛造。C. 中実式銀貼り。D. 銅製。F. 完形。G. 銅地銀貼り。H. 中央部棺床面。
2	刀	A. 残存長8.5、残存幅1.8、厚さ1.0、重さ22g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎部1/2。G. 目釘穴あり。H. 北東側コーナー部棺床面。
3	刀装具?	A. 残存長2.7、残存幅2.2、厚さ0.1、重さ3g。B. 鍛造。鉄板を巻いて筒状にしたものの一部と思われる。D. 鉄製。F. 尻金具の破片?。H. 中央部棺床面。
4	弓金具	A. 長さ2.8、幅0.5、重さ2g。B. 鍛造。筒状の金具の両端に円頭状の金具を差し込む。D. 鉄製。F. ほぼ完形。H. 北東側コーナー部棺床面。
5	弓金具	A. 長さ2.6、幅0.4、重さ2g。B. 鍛造。筒状の金具の両端に円頭状の金具を差し込む。D. 鉄製。F. ほぼ完形。H. 北東側コーナー部棺床面。
6	柄尻金具	A. 長さ4.2、最大幅3.3、厚さ2.0、重さ33g。B. 鍛造。鉄板を巻いて筒状にし、端部に楕円形の鉄板をはめ込む。D. 鉄製。F. 完形。H. 南東側コーナー部棺床面。
7	刀子	A. 残存長8.4、刃部幅1.2、厚さ0.4、重さ12g。B. 鍛造。D. 身-鉄製、鏕-銅製。F. 刃部のみ。G. 茎部には柄の木質が残り、刃部との境には銅製の鏕が巻いてある。H. 北東側コーナー部棺床面。
8	吊金具	A. 残存長9.4、残存幅2.2、重さ18g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 2/3。H. 中央部西側壁際棺床面。
9	鎌	A. 残存長14.2(鎌身~頸部12.1、茎部2.1)、厚さ0.2、重さ9g。B. 鍛造。C. 平造り。D. 鉄製。F. 茎端部欠損。G. 片刃式。H. 南東側コーナー部棺床面。
10	鎌	A. 長さ16.4(鎌身~頸部11.3、茎部5.1)、厚さ0.25、重さ11g。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 完形。G. 端刃式。H. 中央部東側壁際棺床面。
11a	鎌	A. 残存長14.3(鎌身~頸部12.7、茎部1.6)、厚さ0.3、重さ15g(11bを含む)。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 茎端部欠損。G. 端刃式。H. 中央部東側壁際棺床面。
11b	鎌	A. 残存長5.3、厚さ0.3、重さ15g(11aを含む)。B. 鍛造。C. 片丸式。D. 鉄製。F. 頸~茎部欠損。G. 鑿箭式。H. 中央部東側壁際棺床面。
12	鎌	A. 残存長11.8、幅0.6、厚さ0.3、重さ8g。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 茎部欠損。G. 端刃式。H. 南東側コーナー部棺床面。
13	鎌	A. 残存長8.1、幅0.6、厚さ0.2~0.4、重さ5g。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 茎部欠損。G. 端刃式。H. 南東側コーナー部棺床面。
14	鎌	A. 残存長2.4、幅0.9、厚さ0.2、重さ1g。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 鎌身のみ。G. 端刃式。H. 南東側コーナー部棺床面。
15	鎌	A. 残存長3.9、幅0.8、厚さ0.2、重さ2g。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 頸部以下欠損。G. 端刃鎌。H. 南東側コーナー部棺床面。
16	鎌	A. 残存長5.0、幅0.9、厚さ0.2、重さ3g。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 頸部以下欠損。G. 端刃鎌。H. 南東側コーナー部棺床面。
17	鎌	A. 残存長5.9、幅0.9、厚さ0.2、重さ4g。B. 鍛造。C. 平造りか切刃造り。D. 鉄製。F. 頸部以下欠損。G. 端刃鎌。H. 南東側コーナー部棺床面。
18	鎌	A. 残存長7.1、厚さ0.3、重さ5g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 茎部欠損。G. 鑿箭式。H. 北側壁際棺床面。
19	鎌	A. 残存長4.1、幅0.9、厚さ0.4、重さ3g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 鎌身のみ。G. 鑿箭式。H. 北東側コーナー部棺床面。
20	鎌	A. 残存長4.5、幅0.8、厚さ0.3、重さ3g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 鎌身のみ。G. 鑿箭式。H. 北東側コーナー部棺床面。
21	鎌	A. 残存長4.4、幅1.1、厚さ0.25、重さ3g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 鎌身のみ。G. 鑿箭式。H. 北側壁際棺床面。
22	鎌	A. 残存長16.4(鎌身~頸部13.7、茎部2.7)、厚さ0.25~0.35、重さ16g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 茎端部欠損。G. 鑿箭式。H. 南東側コーナー部棺床面。
23	鎌	A. 残存長10.2、厚さ0.6、重さ9g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 茎部欠損。G. 鑿箭式。H. 北東側コーナー部棺床面。
24	鎌	A. 残存長4.5、幅0.8、厚さ0.2、重さ3g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 鎌身~頸部。G. 鑿箭式。H. 北側壁際棺床面。
25	鎌	A. 残存長4.4、幅0.7、厚さ0.4、重さ3g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 鎌身~頸部。G. 鑿箭式。H. 北東側コーナー部壁際棺床面。
26	鎌	A. 残存長1.7、幅0.8、厚さ0.3、重さ1g。B. 鍛造。C. 片丸造り。D. 鉄製。F. 鎌身のみ。G. 鑿箭式。H. 中央部東側壁際棺床面。
27	鎌	A. 残存長5.8(鎌身1.3)、厚さ0.35、重さ5g。B. 鍛造。C. 平造り。D. 鉄製。F. 茎部欠損。G. 三角鎌。H. 中央部東側壁際棺床面。
28	鎌	A. 残存長3.4、幅0.6、厚さ0.45、重さ2g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部のみ。H. 南東側コーナー部壁際棺床面。
29	鎌	A. 残存長2.8、幅0.5、厚さ0.3、重さ3g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部のみ。H. 北側壁際棺床面。
30	鎌	A. 残存長4.2、幅0.5、厚さ0.5、重さ4g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部のみ。H. 北側壁際棺床面。
31	鎌	A. 残存長5.1、幅0.6、厚さ0.45、重さ3g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部のみ。H. 北東側コーナー部棺床面。
32	鎌	A. 残存長3.4、幅0.7、厚さ0.4、重さ3g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部のみ。H. 北東側コーナー部壁際棺床面。
33	鎌	A. 残存長6.6、幅0.7、厚さ0.3、重さ5g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部のみ。H. 南東側コーナー部壁際棺床面。
34	鎌	A. 残存長4.6、幅0.5、厚さ0.25、重さ3g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部のみ。H. 南東側コーナー部壁際棺床面。
35	鎌	A. 残存長8.0、幅0.65、厚さ0.3、重さ6g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部~茎部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。
36	鎌	A. 残存長8.9、幅0.5、厚さ0.35、重さ6g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部~茎部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。
37	鎌	A. 残存長7.2(茎部4.9)、厚さ0.3、重さ4g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部~茎部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。
38	鎌	A. 残存長8.3、幅0.6、厚さ0.3、重さ4g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部~茎部。H. 南東側コーナー部壁際棺床面。

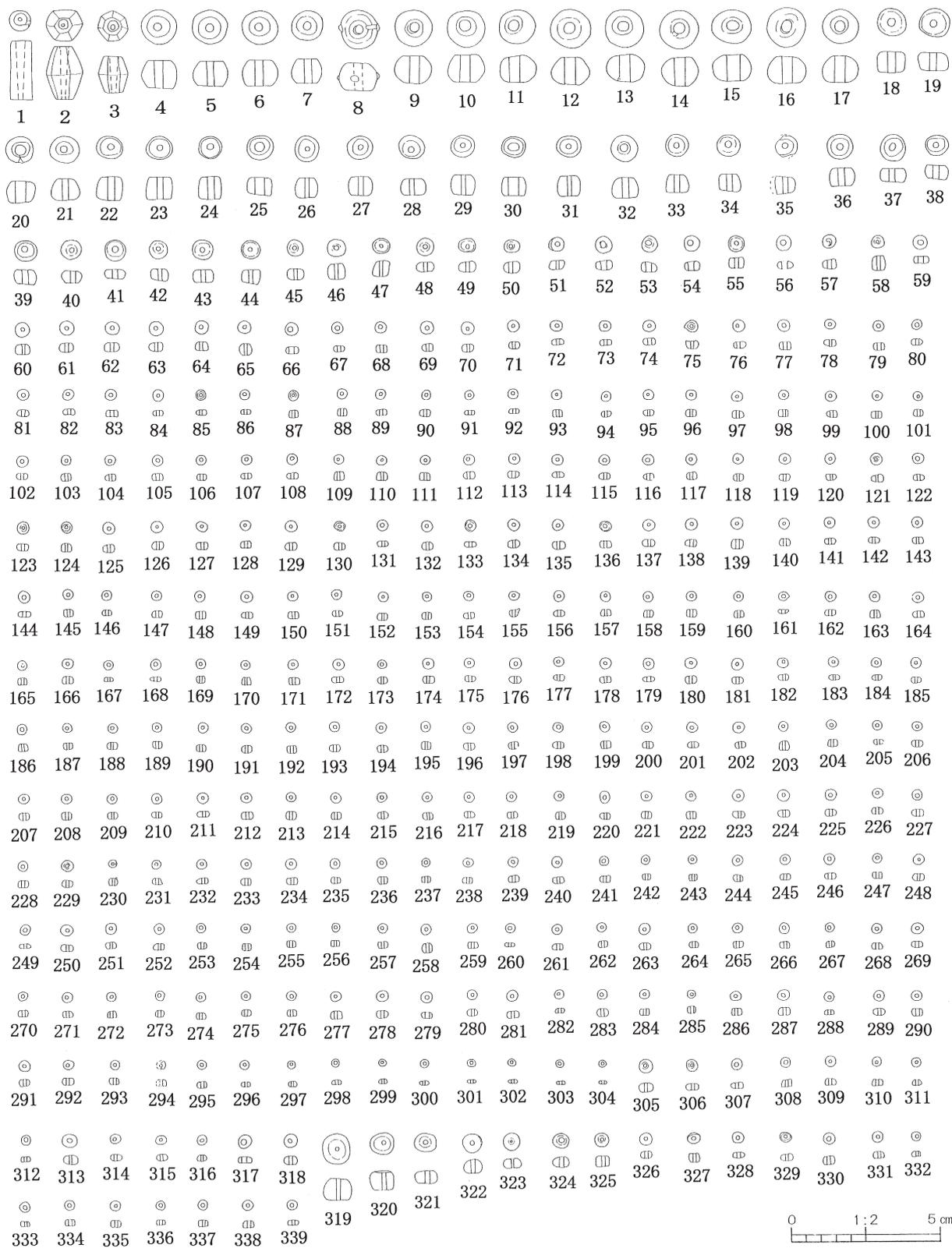
39	鏃	A. 残存長10.5(茎部長3.5)、幅0.7、厚さ0.4、重さ9g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部～茎部。H. 北東側コーナー部棺床面。
40	鏃	A. 残存長6.1、幅0.5、厚さ0.3、重さ4g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部～茎部。H. 南東側コーナー部壁際棺床面。
41	鏃	A. 残存長4.1、幅0.5、厚さ0.5、重さ5g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部～茎部。H. 北東側コーナー部棺床面。
42	鏃	A. 残存長5.4(茎部長4.8)、厚さ0.4、重さ2g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎部のみ。H. 北東側コーナー部棺床面。
43	鏃	A. 残存長4.4(茎部長3.9)、厚さ0.6、重さ2g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。
44	鏃	A. 残存長2.0、幅0.6、厚さ0.35、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 頸部～茎部。H. 南東側コーナー部壁際棺床面。
45	鏃	A. 残存長2.5、幅0.7、厚さ0.5、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎端部のみ。H. 北側壁際棺床面。
46	鏃	A. 残存長3.4(茎部長2.7)、厚さ0.3、重さ2g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎部のみ。H. 北側壁際棺床面。
47	鏃	A. 残存長3.8、幅0.8、厚さ0.3、重さ2g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。
48	鏃	A. 残存長3.1、幅0.6、厚さ0.5、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎端部のみ。H. 北東側コーナー部壁際棺床面。
49	鏃	A. 残存長2.9、厚さ0.2、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎部のみ。H. 南東側コーナー部棺床面。
50	鏃	A. 残存長3.0、幅0.7、厚さ0.3、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎端部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。
51	鏃	A. 残存長2.9、幅0.3、厚さ0.3、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎端部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。
52	鏃	A. 残存長2.8、幅0.6、厚さ0.4、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎端部のみ。H. 北東側コーナー部棺床面。
53	鏃	A. 残存長2.5、幅0.4、厚さ0.35、重さ1g。B. 鍛造。D. 鉄製。F. 茎端部のみ。H. 中央部東側壁際棺床面。

るが、対になるもう一つの耳環は、すでに持ち去られたのであろう。

玉類は、石製とガラス製のものがあり、全部で342個以上が出土している(第19・20図)。出土場所は、主に玄室内の中央部西側寄り、玄門付近、北東側コーナー部の3箇所、中央部西側寄りでは多数密集した状態で、玄門付近と東側コーナー部では、まとまらずに散在した状態で出土している。

石製の玉類は、管玉1個、切子玉2個、丸玉4個があり(第19図No.1～7)、すべて玄室中央部西側寄りの棺床面上から多数のガラス玉と混在して出土している。管玉(第19図No.1)は、濃緑色の凝灰性硬質頁岩製で、高さ2.0cm、最大径0.74cm、重さ1.9gあり、片面側から穿孔が施されている。切子玉(第19図No.2・3)は、いずれも水晶製で片面側から穿孔が施されている。大ききや形態に差があり、大きき方は高さ1.83cm、最大径1.25cm、重さ3.2gで、側面が上下6面ずつの12面カット、小さき方は高さ1.29cm、最大径1.05cm、重さ1.8gで、側面が上下7面ずつの14面カットである。丸玉(第19図No.4～7)は、高さ8.3cm～9.7cm、最大径1.06cm～1.24cm、重さ1.1g～1.9g程度の薄緑色の蛇紋岩製で、表面の研磨や穿孔は丁寧である。

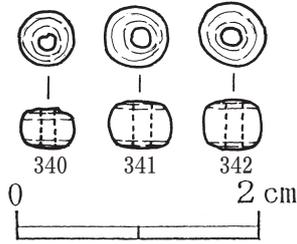
ガラス製の玉は、トンボ玉1個、重層玉3個、丸玉9個、小玉319個以上がある(第19図No.8～339)。トンボ玉(第19図No.8)は、高さ0.93cm、最大径1.39cm、重さ2.2gの大ききで、濃紺色をしており、側面に水色と黄色のガラスを小さな円形の文様として貼り付けている。重層玉(第20図No.340～342)は、連珠状に繋がっていたものを1個ずつに切り離して作られている。内部は二重構造で、いずれも銀箔の挟み込みが推察され、色調は黄褐色の透明をしている(付編参照)。田村朋美氏の御教示によれば、この重層玉はガラスの化学組成からみて、西アジアのササン朝ペルシャ領域内で生産された可能性が高いと考えられている。丸玉(第19図No.9～17)は、高さ0.90cm～1.00cm、最大径1.25cm～1.38cm、重さ1.8g～2.5g程度の大ききで、穿孔が施された上下面の平坦面が比較的小さい形態のものである。風化して白色化したものもあるが、他はいずれも若干緑がかった黒色ぎみの色調をしており、他の玉類とは色調が異なっている。小玉(第19図No.18～339)は、実測可能なものは319個であるが、この他に圧潰して小破片になったものも多数ある。大ききは、最大径1.0cm～0.2cm、高さ0.9cm～0.2cmまで様々で、形態も扁平のものからやや縦長のものまで多様であるが、直径0.4cm以下の扁平な形態のものが圧倒的に多い。色調は、濃紺色が最も多く、この他に黄色(第19図No.46・48～54・56・57・65～67・77・78・295・322・324・325)・マリンプルー(第19図No.323)・淡緑色(第19図No.64)なども少量見られる。



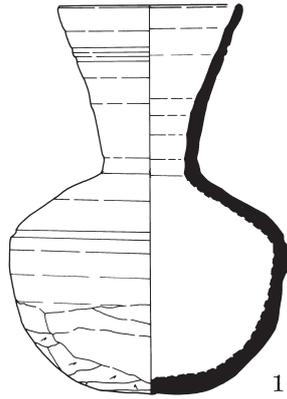
第19図 石室内出土玉類

須恵器(第21図)は、石室の玄室内からほぼ完形の長頸壺と横瓶が1個体ずつ出土している。長頸壺は、在地産で玄門東側の南東側コーナー部から横転した状態で出土している。横瓶は、湖西窯産で玄門西側の南西側コーナー部から正位の状態で出土している。時期は、いずれも6世紀末～7世紀前半

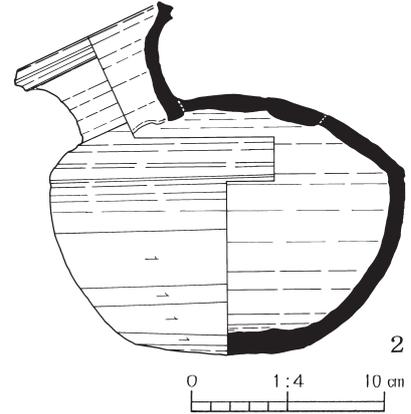
頃のもので、石室内の出土位置から見て、追葬の儀式等に関係して置かれたのではないと思われる。



第20図 石室内出土重層ガラス玉



第21図 石室内出土須恵器



石室内出土須恵器観察表

1	須長 須頸	器壺	A. 口縁部径(9.6)、器高20.3。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 外面回転ナデの後、胴部下半手持ち籠ケズリ。内面回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一暗灰色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面上半に降灰による薄い自然釉がかかる。在地産。H. 棺床面。
2	須横	器瓶	A. 口縁部径8.2、器高18.4、底部径9.0。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。胴部天井を粘土円盤で閉塞後、頸部貼り付け。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部外面回転ナデの後、下半回転籠ケズリ。内面回転ナデ。D. 白色粒、石英粒、雲母粒。E. 内外一暗白色。F. 完形。G. 外面上半にオリーブ色の薄い自然釉がかかる。湖西産。H. 棺床面。

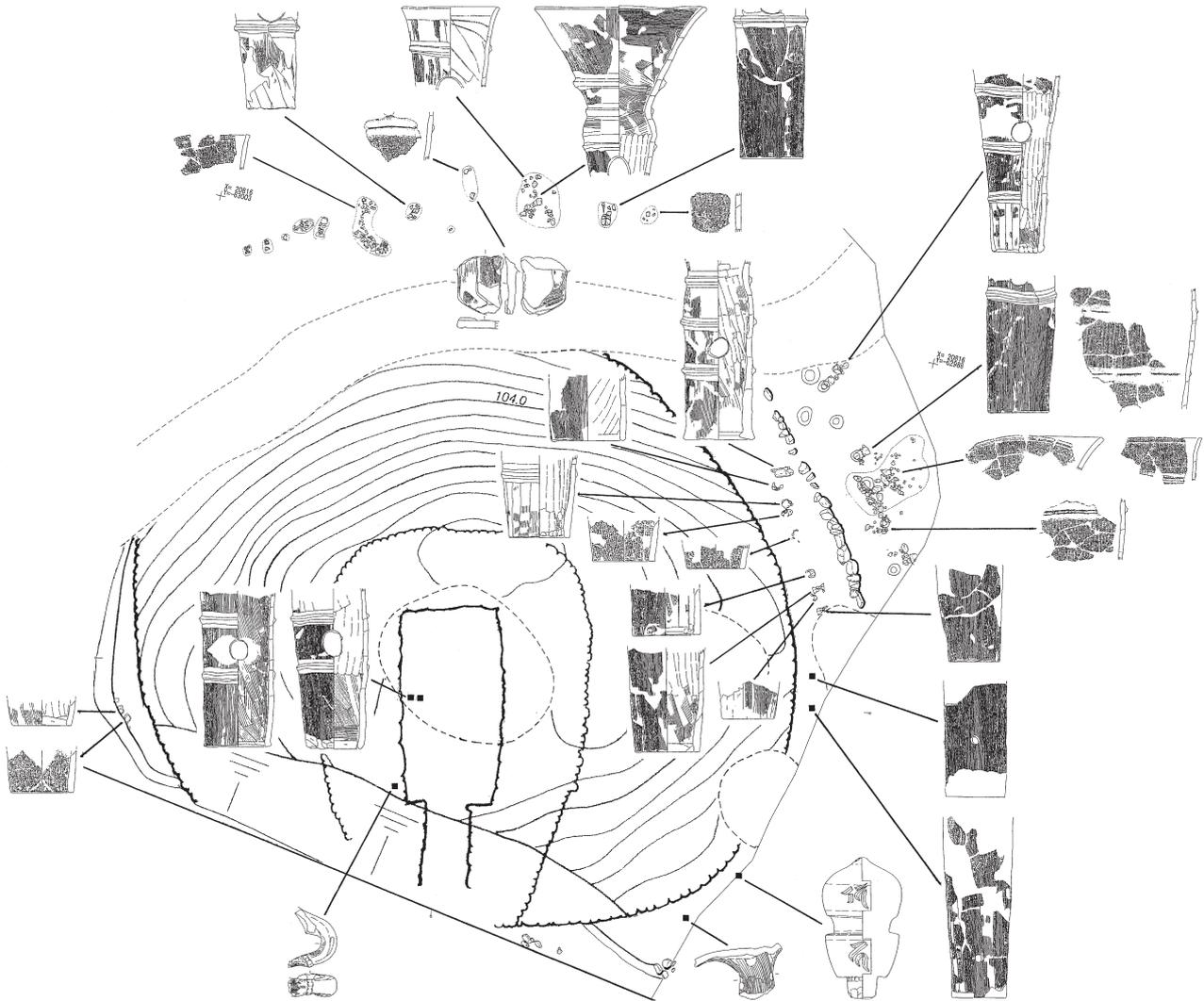
b. 墳丘出土遺物

古墳の墳頂部攪乱内、基壇上及びその外側の外周施設、北側と東側の墳丘崩落土などから、埴輪の破片が多数出土している(第23～33図)。埴輪は、円筒埴輪や朝顔形埴輪と形象埴輪があるが、いずれもその全容が分かるものではなく、底部や基台部だけ残存しているものが比較的多い。

円筒埴輪は、段構成がある程度判断できるものでは、4段以上と思われるものが複数見られる(第23図No.2・11、第25図No.25)。これらは、口縁部に向かって緩やかに傾斜して開く形態が主体であるが、胴部が垂直ぎみに立つ形態のもの(第23図No.2・5・10)も少数見られる。透孔はいずれも円形で、突帯の断面形態は低い台形や三角形である。線刻は、口縁部内面にやや長めの弧線状に複数線施されたもの(第23図No.3・4・5)と、外面に楕円状に施されたもの(第25図No.31)がある。

朝顔形埴輪は、口縁部の形状が、頸部から口縁部まで直線的に一気に成形し、外面やや下部に突帯を貼り付けて、二重口縁に見せかけるものである。段構成が判断できるものでは、胴部が3段のものがある(第27図No.45)。透孔はいずれも円形で、突帯の断面形態は台形が多い。線刻は、肩部外面に楕円状に施されたもの(第27図No.44)がある。

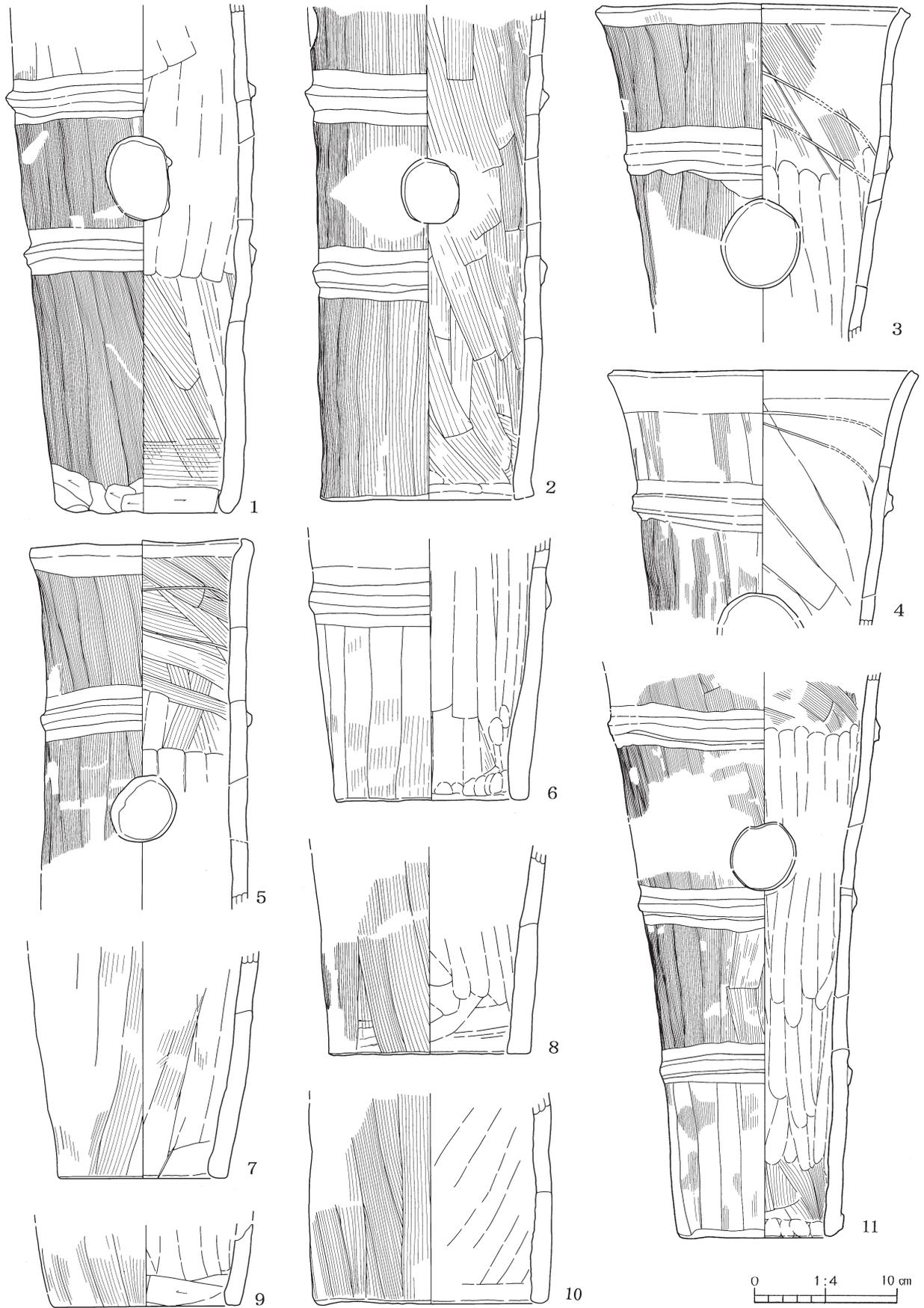
形象埴輪(第28図No.50～第33図No.102)は、その種類が分かるものでは家形埴輪・馬形埴輪・人物埴輪があるが、いずれも破片のためその形状はほとんどわからない。家形埴輪は、分かるものでは屋根部や基台部の破片がある。これらの破片は、墳頂部の攪乱等から出土したものが多く、家形埴輪は墳頂部に配置されていた可能性が高いと思われる。馬形埴輪は、頸部から胴部の小破片が少数見られる(第31図No.72～82)。また、小孔を伴う大形脚部の破片(第30図No.57・58)が、東側の基壇上から出土しており、そこに1体樹立されていたと考えられる。人物埴輪は、分かるものでは頭部(第31図No.60・61)、腕(第31図No.62・63)、脚(第31図No.66)、衣服裾(第31図No.64・65、67～71)などの小破片があり、墳頂部の攪乱内や南東側墳丘下から多く出土している。



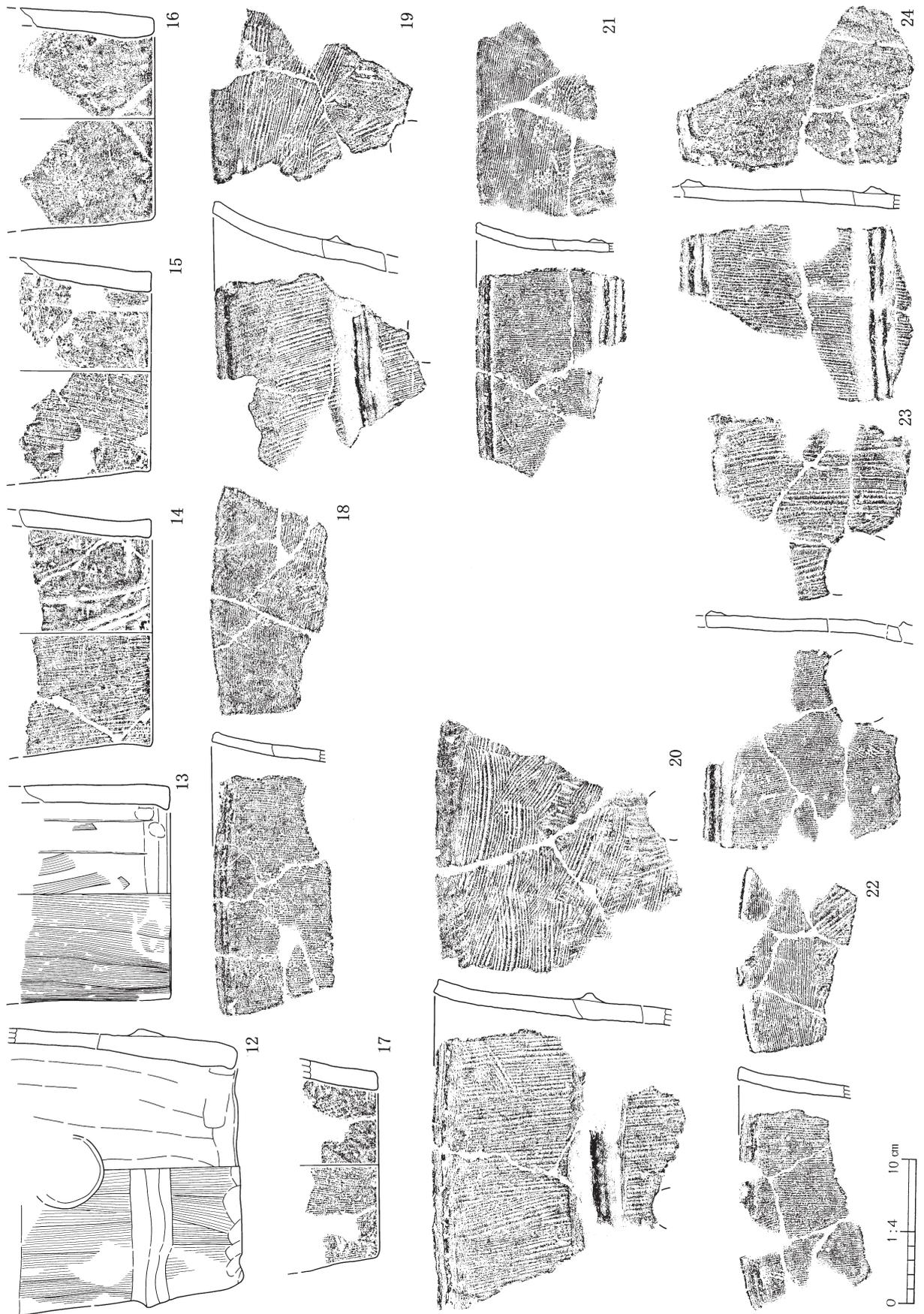
第22図 墳丘施設埴輪等出土位置図

墳丘出土埴輪観察表

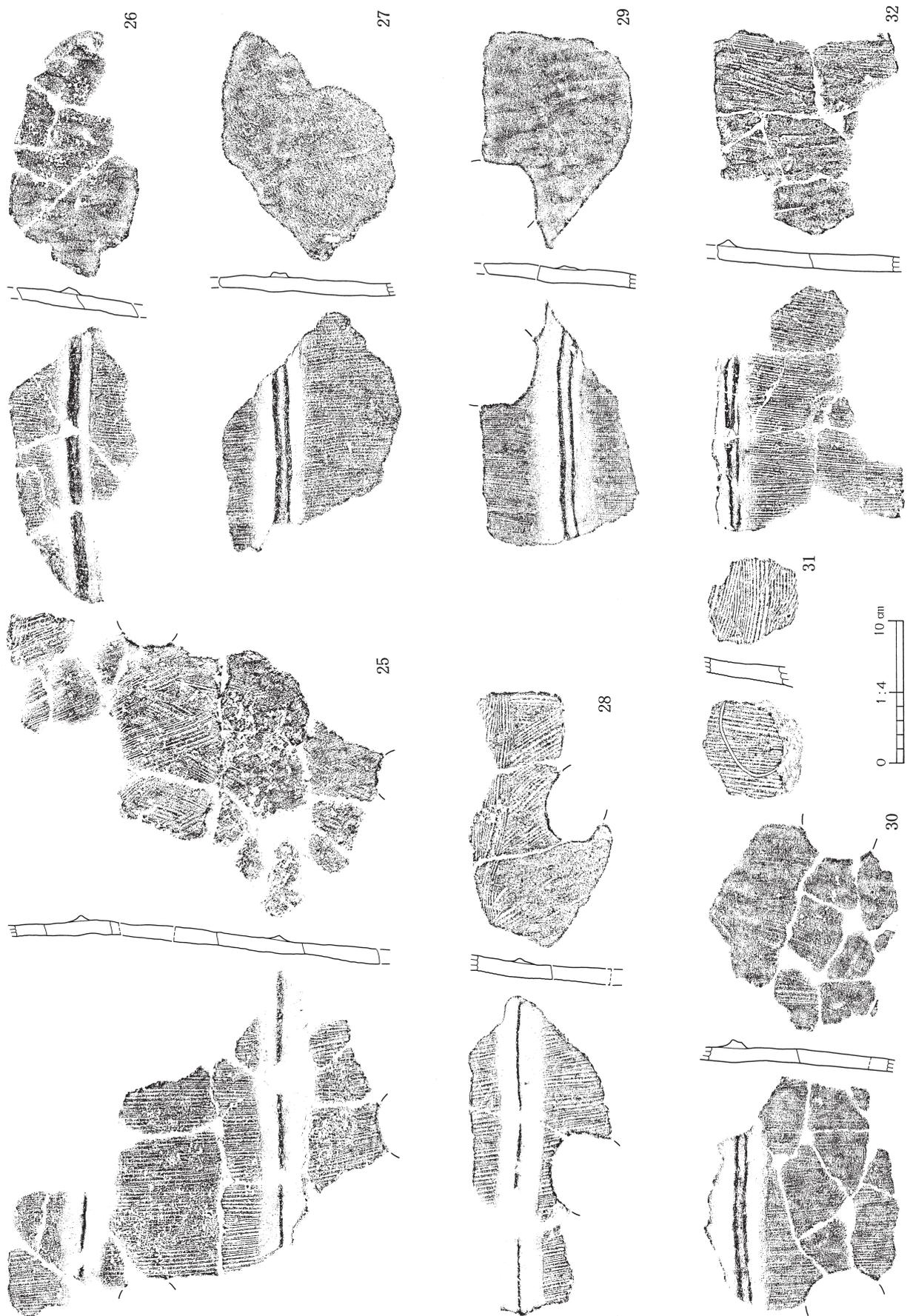
1	円筒埴輪	A. 1段高20.1、2段高12.3、底部径(13.2)。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、1段下端ケズリ。内面ハケ後上半ナデ、1段下端ケズリ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 1段~3段下位。G. 2段に透孔。H. 墳頂部攪乱内No2と並んで出土。
2	円筒埴輪	A. 1段高17.7、2段高13.0、底部径16.1。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 内外面ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1段~3段下位。G. 2・3段に透孔。H. 墳頂部攪乱内No1と並んで出土。
3	円筒埴輪	A. 口縁部径22.0、3段高10.5。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 口縁部ヨコナデ。外面ハケ、内面ハケの後下半ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 2段~口縁部1/3。G. 内面3段に線刻あり。H. 北東側基壇。
4	円筒埴輪	A. 口縁部径21.8、3段高8.8。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 口縁部ヨコナデ。外面ハケ、内面ヘラナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-にぶい橙褐色。F. 2段中位~口縁部1/2。G. 内面3段に線刻あり。H. 北側外周施設。
5	円筒埴輪	A. 口縁部径15.8、3段高12.4。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 口縁部ヨコナデ。外面ハケ、内面ハケの後下半ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 2段~口縁部2/3。G. 内面3段に線刻あり。H. 北側外周施設。
6	円筒埴輪	A. 1段高14.0、底部径13.3。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ。内面ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-明赤褐色。F. 1段~2段下位1/2。G. 外面摩耗顕著。H. 北東側基壇。
7	円筒埴輪	A. 残存高16.0、底部径(12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面タテハケ。内面ハケ後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-明赤色。F. 1段1/3。G. 外面の摩耗著しい。H. 北東側基壇。
8	円筒埴輪	A. 残存高14.7、底部径14.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。底面に棒状圧痕。D. 角閃石安山岩。E. 内外-にぶい褐色。F. 1段1/2。H. 試掘Tr3。
9	円筒埴輪	A. 残存高5.8、底部径13.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデの後下端ケズリ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 内外-にぶい褐色。F. 1段下位1/2。H. 西側基壇。



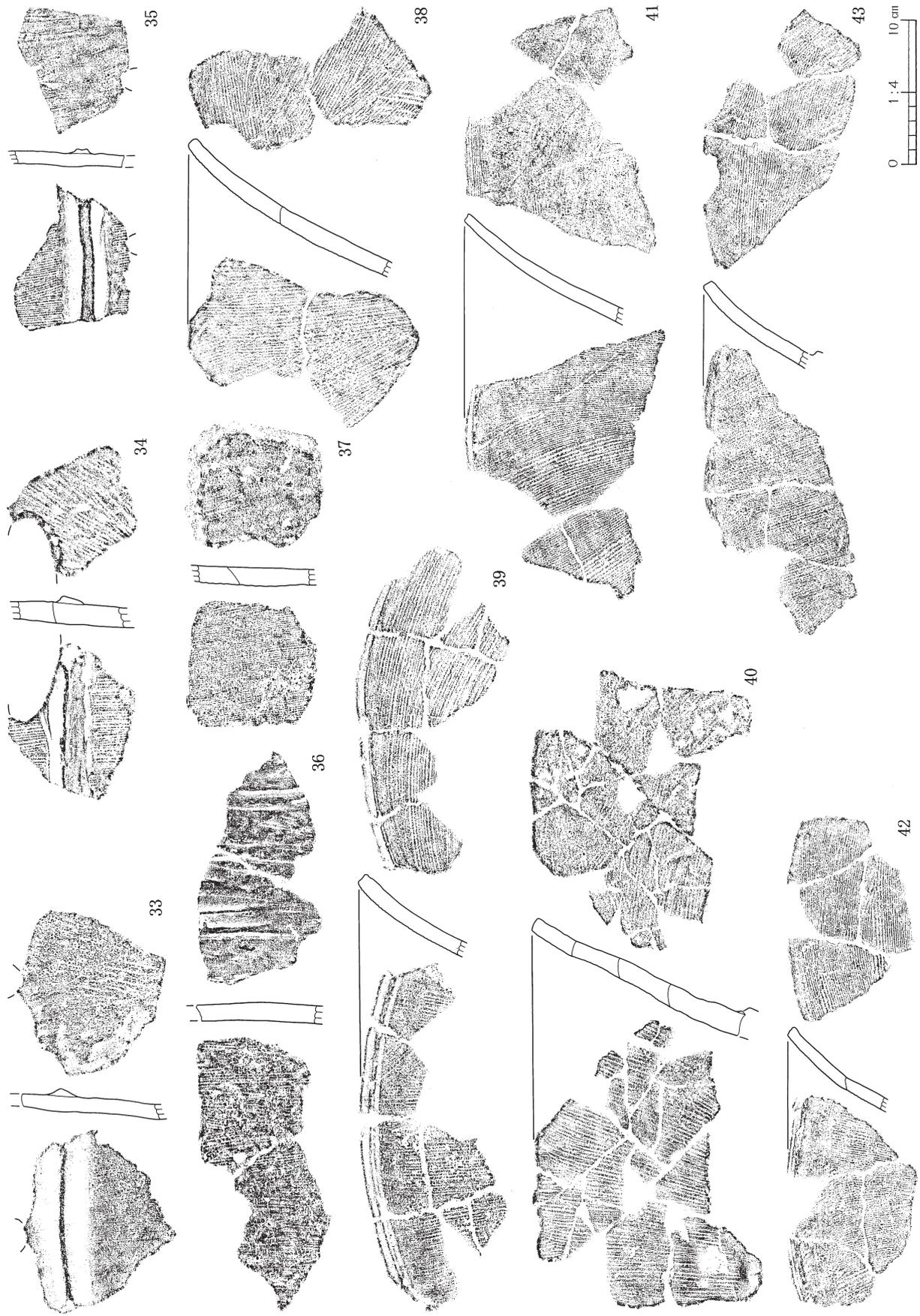
第23図 出土埴輪 (1)



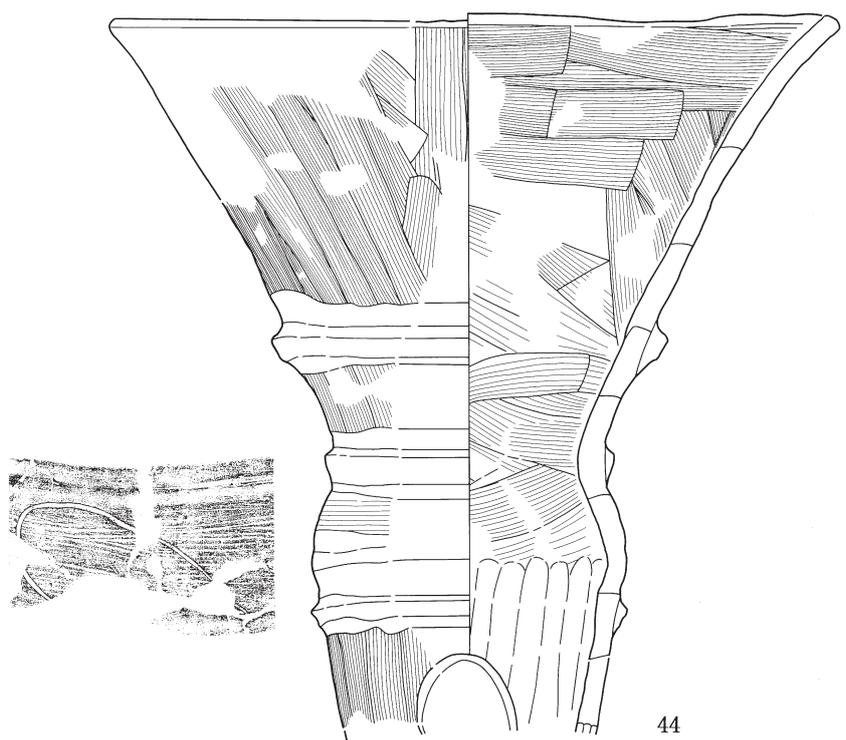
第24図 出土埴輪（2）



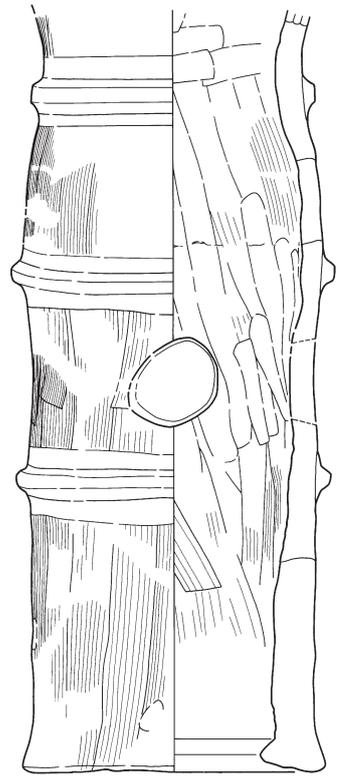
第25図 出土埴輪 (3)



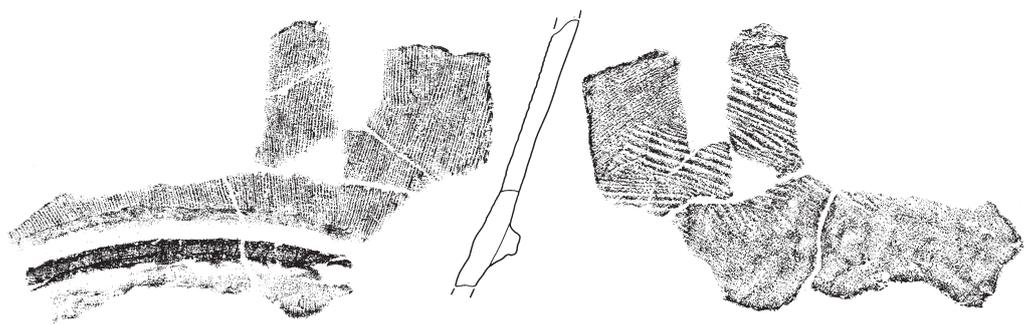
第26図 出土埴輪 (4)



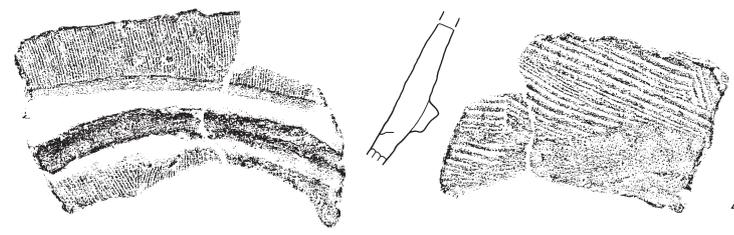
44



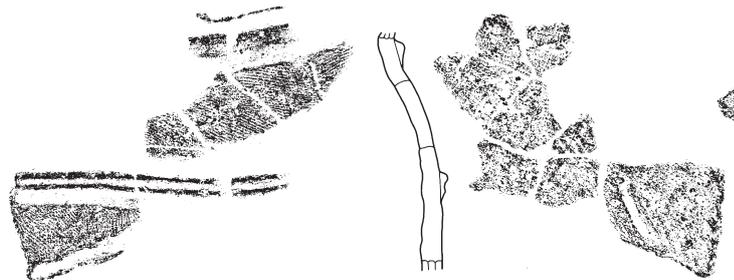
45



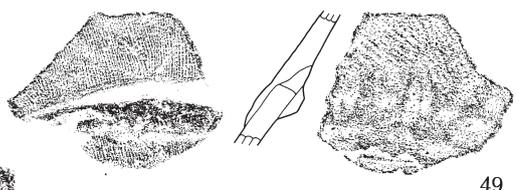
46



47



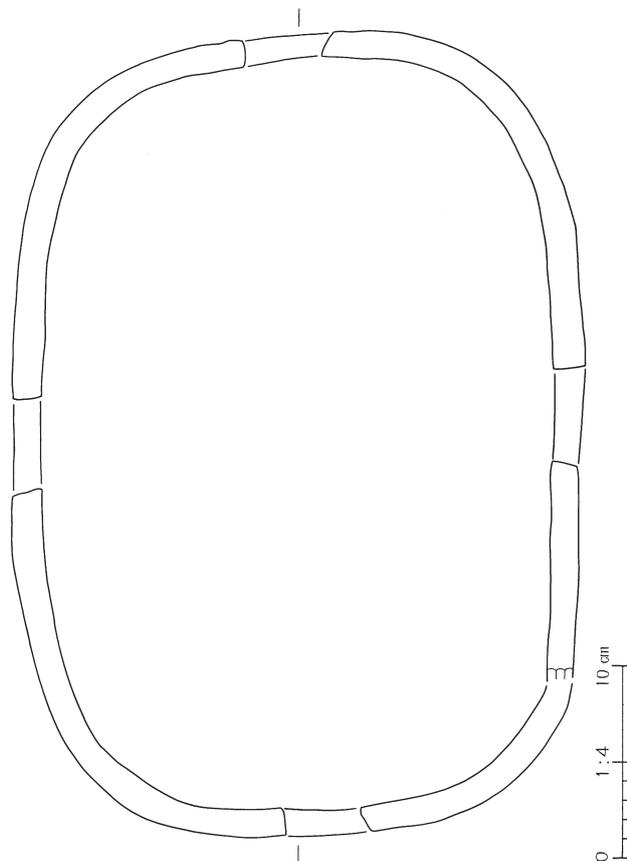
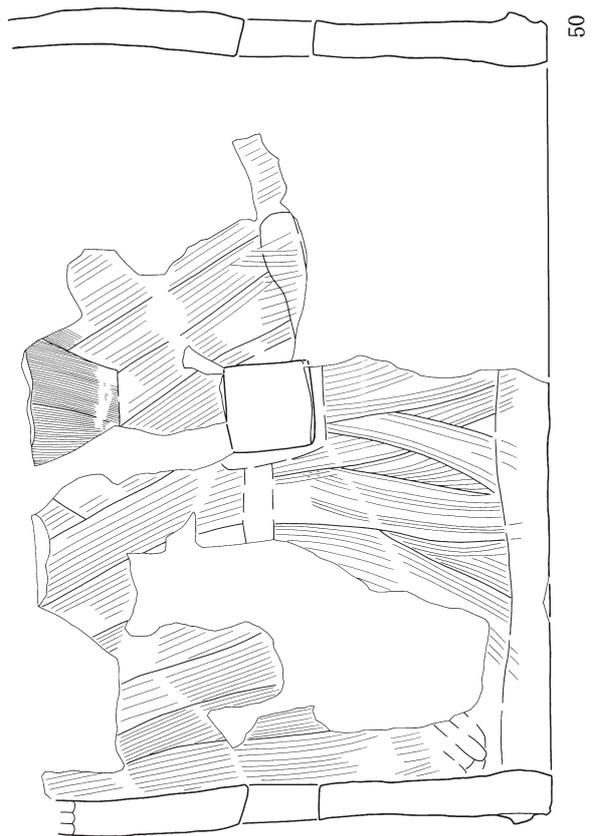
48



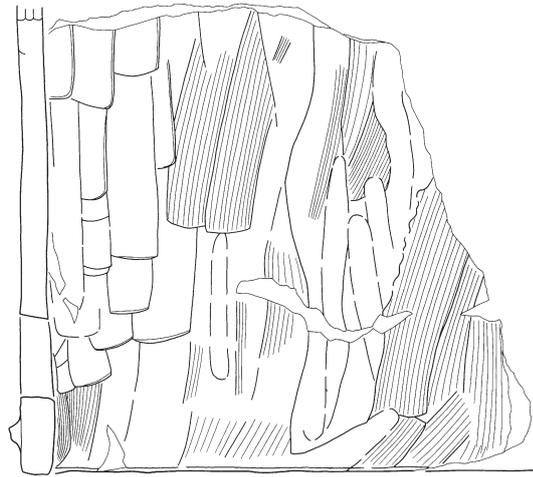
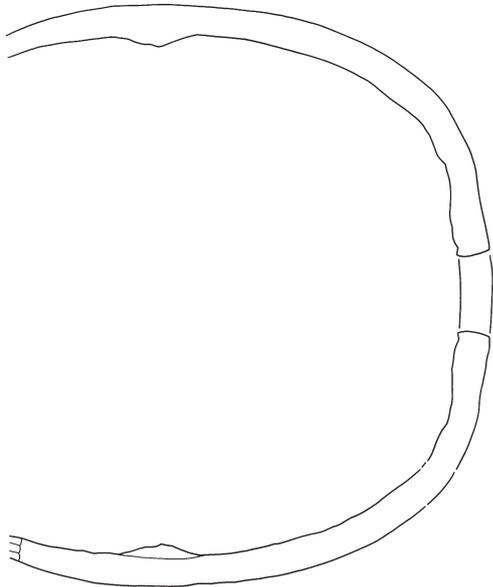
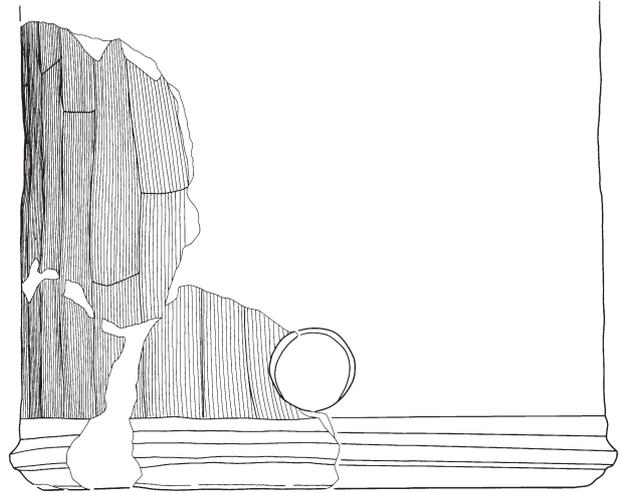
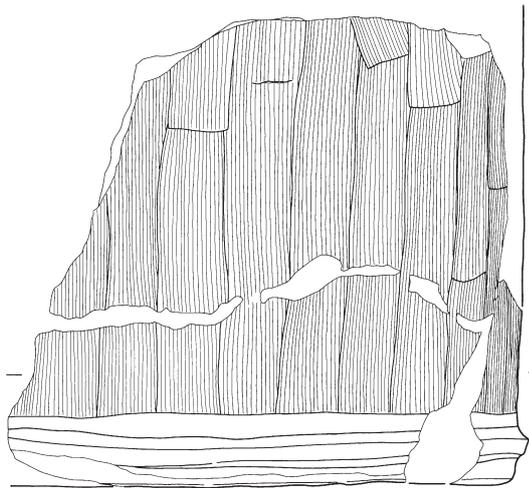
49



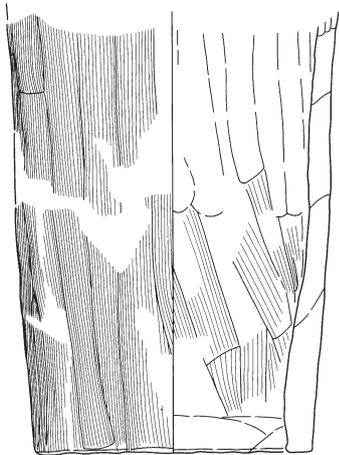
第27図 出土埴輪 (5)



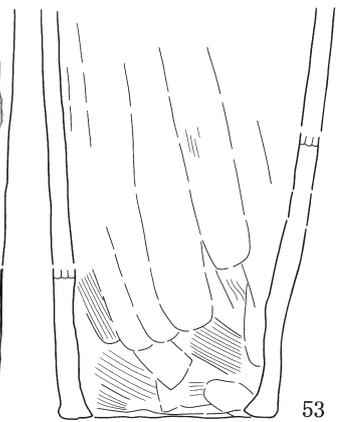
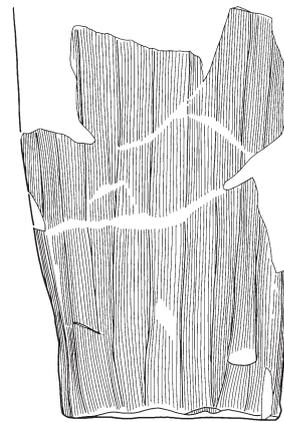
第28図 出土埴輪(6)



51



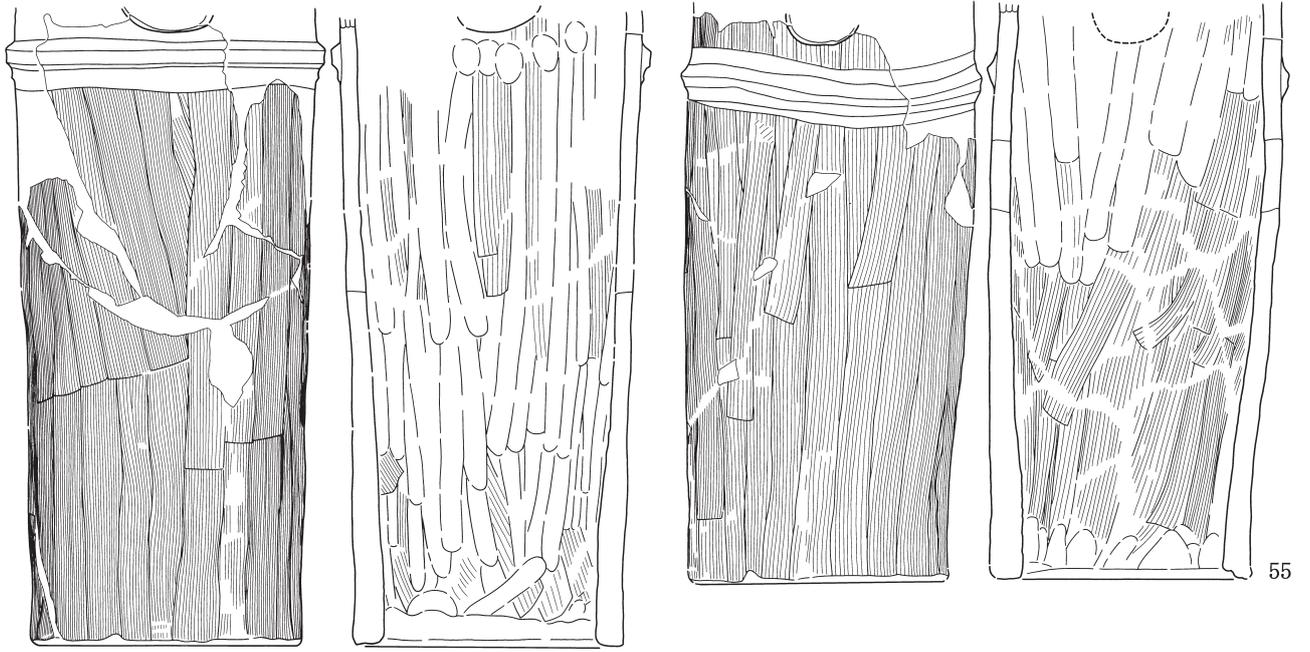
52



53

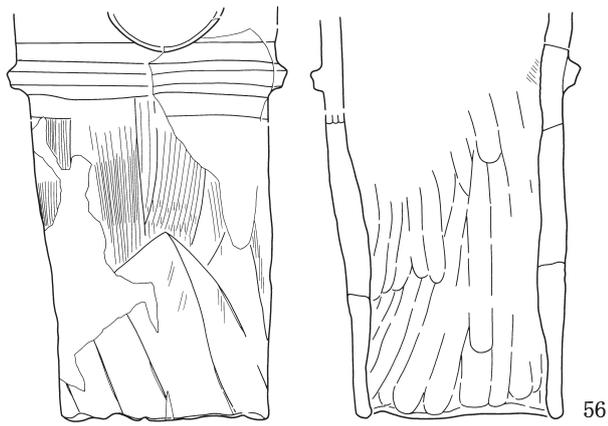
0 1:4 10 cm

第29図 出土埴輪 (7)

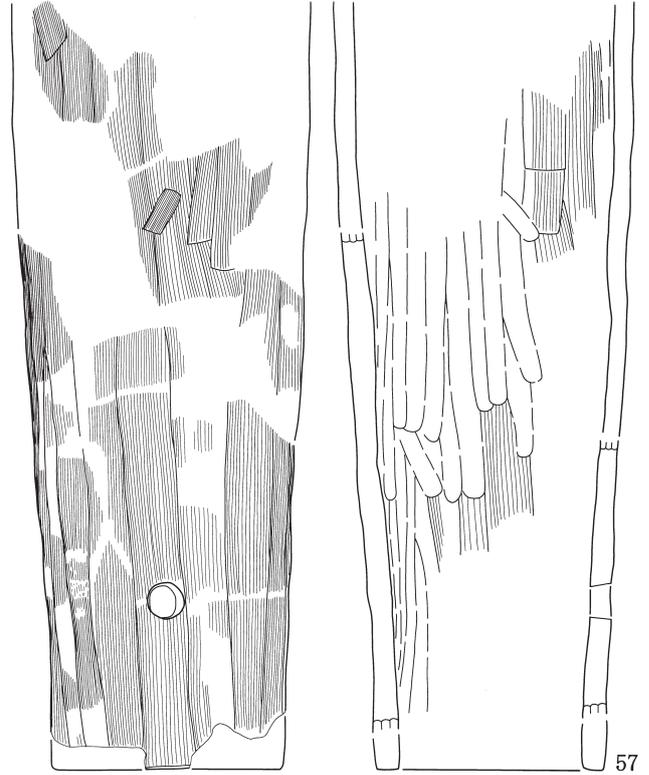


54

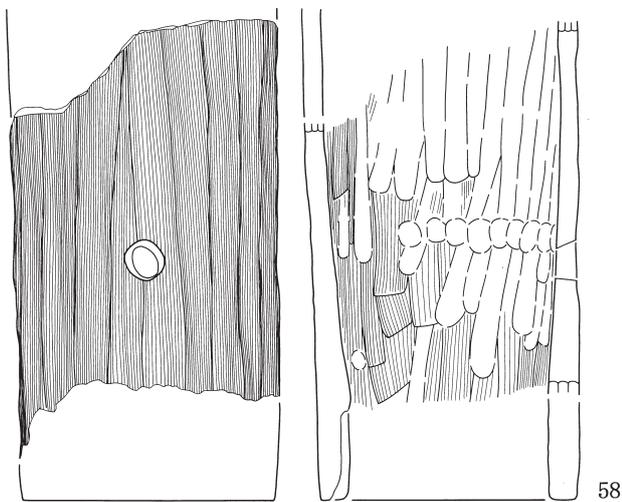
55



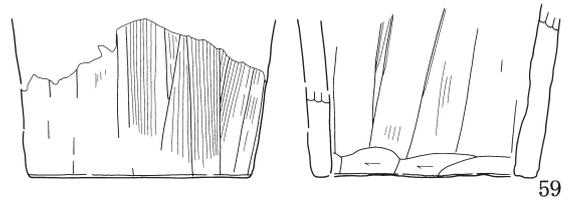
56



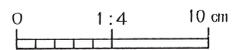
57



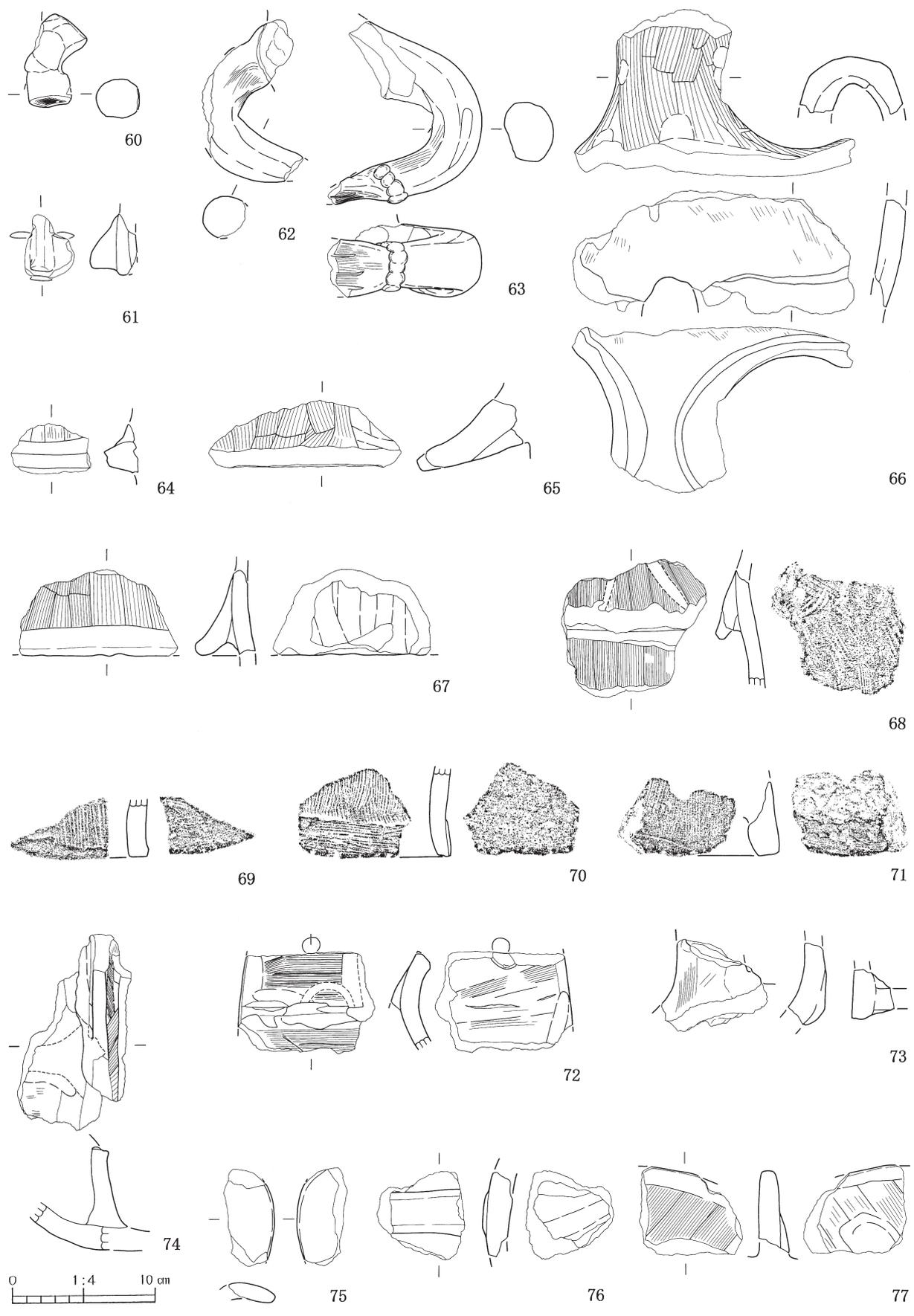
58



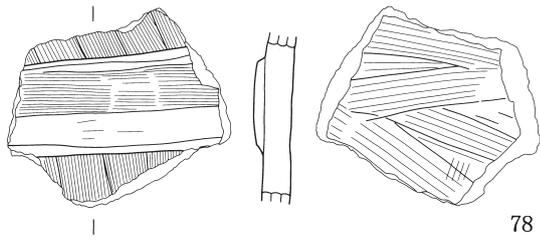
59



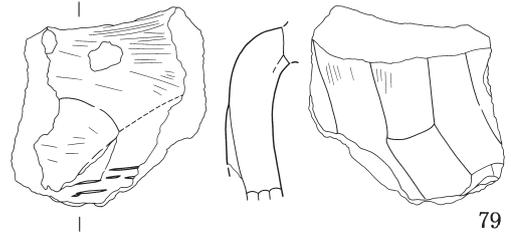
第30图 出土填翰（8）



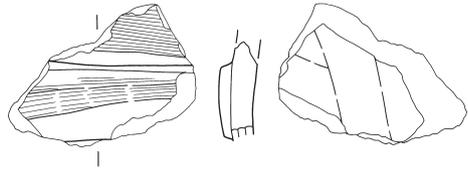
第31圖 出土埴輪（9）



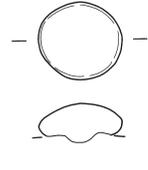
78



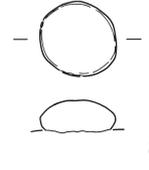
79



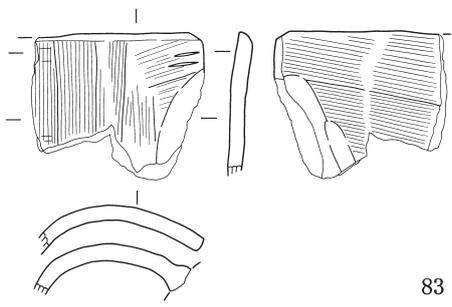
80



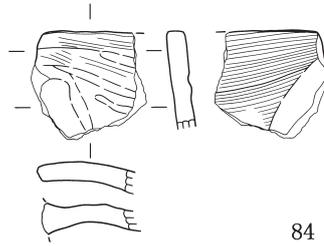
81



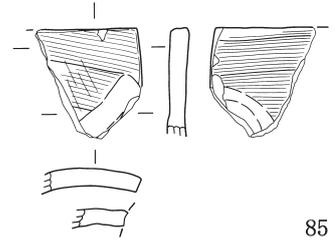
82



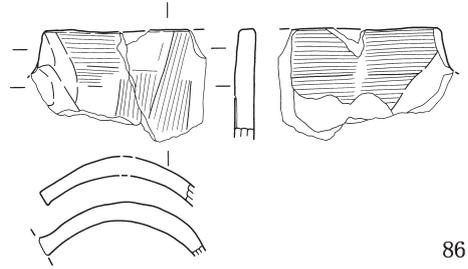
83



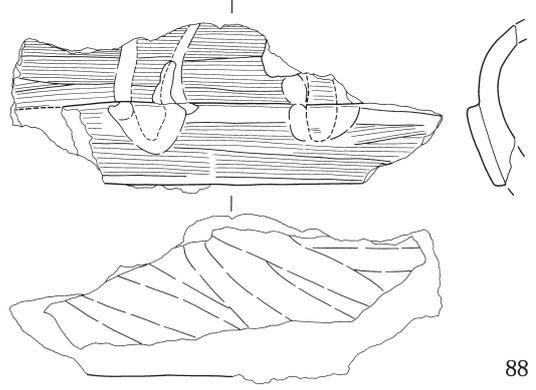
84



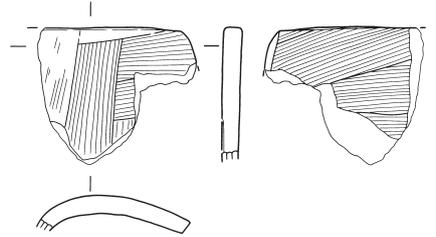
85



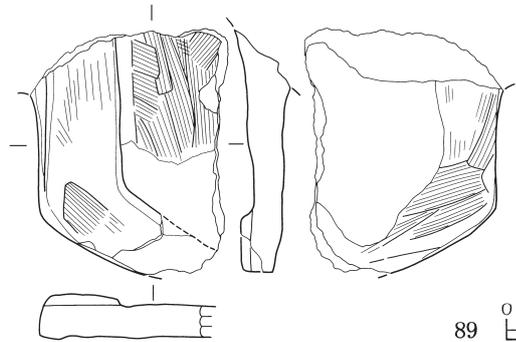
86



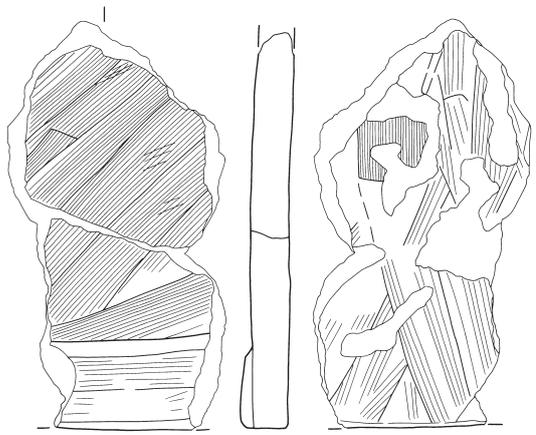
88



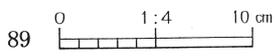
87



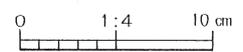
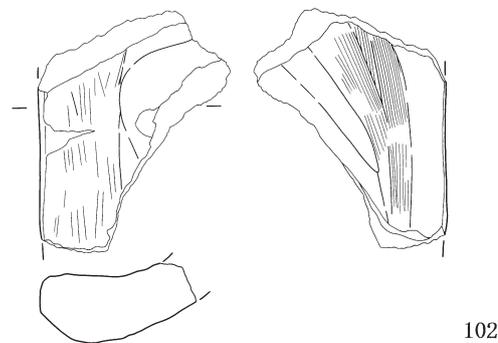
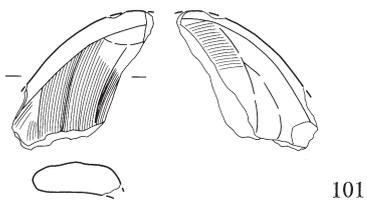
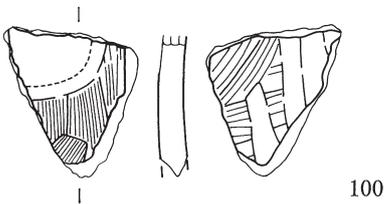
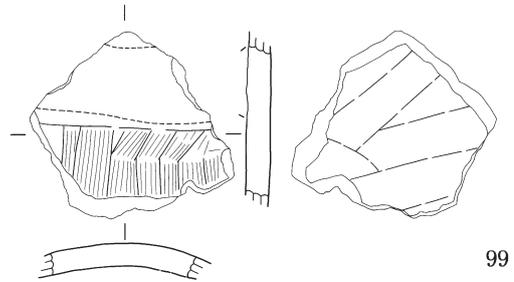
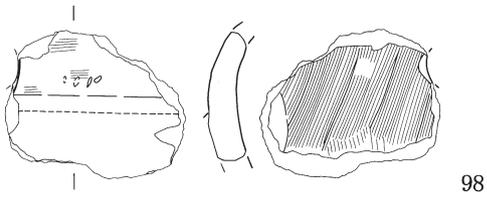
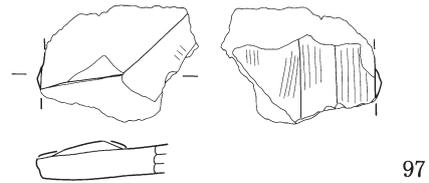
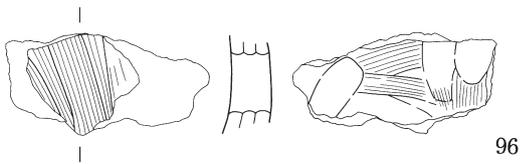
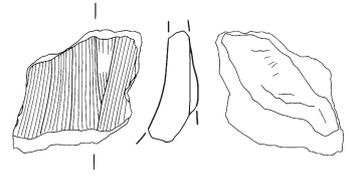
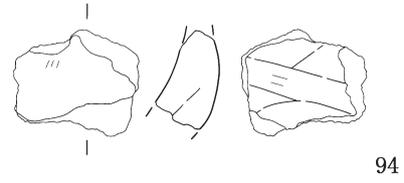
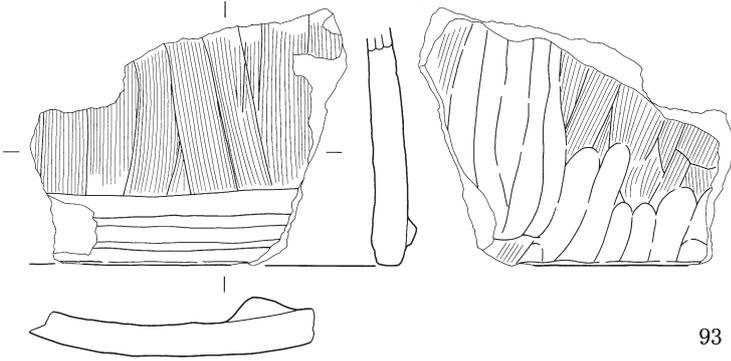
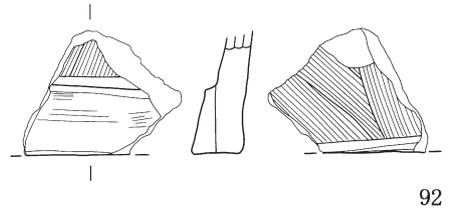
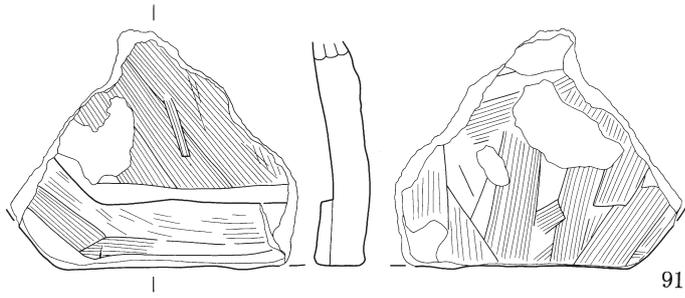
89



90



第32図 出土埴輪 (10)



第33图 出土埴輪 (11)

10	円筒埴輪	A. 残存高14.9、底部径16.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 内外-褐色。F. 1段1/5。H. 北東側基壇。
11	円筒埴輪	A. 1段高12.8、2段高13.1、3段高13.1、底部径12.5。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 1段~4段下位3/4。G. 2・3段に透孔。H. 北東側外周施設。
12	円筒埴輪	A. 1段高6.8、底部径16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-明赤褐色。F. 1段~2段1/3。G. 低位置突帯。H. 東側基壇。
13	円筒埴輪	A. 残存高10.2、底部径14.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ヘラナデ。D. 角閃石安山岩。E. 外-明赤褐色、内-にぶい赤褐色。F. 1段3/4。H. 北東側基壇。
14	円筒埴輪	A. 残存高9.3、底部径(15.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 1段1/3。H. 北東側外周施設。
15	円筒埴輪	A. 残存高9.2、底部径(14.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 1段片。H. 北東側基壇。
16	円筒埴輪	A. 残存高9.4、底部径(14.3)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩・粗粒チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 1段1/4。G. 外面摩耗顕著。H. 西側基壇。
17	円筒埴輪	A. 残存高5.5、底部径(13.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1段下位1/3。H. 北東側基壇。
18	円筒埴輪	A. 残存高7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。H. 北側外周施設。
19	円筒埴輪	A. 残存高16.7。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 口縁部ヨコナデ。内外面ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 2・3段片。H. 北東側基壇。
20	円筒埴輪	A. 残存高16.7。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 口縁部ヨコナデ。内外面ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 2・3段片。H. 北東側基壇。
21	円筒埴輪	A. 残存高9.6。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後下位ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部片。H. 北東側外周施設。
22	円筒埴輪	A. 残存高7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後下位ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 口縁部片。H. 北東側基壇。
23	円筒埴輪	A. 残存高13.2。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 内外面ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-赤褐色。F. 胴部片。H. 北側墳丘下基壇。
24	円筒埴輪	A. 残存高15.4。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-赤褐色。F. 胴部片。H. 墳丘東側。
25	円筒埴輪	A. 3段高14.0。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後下半ナデ。突帯ヨコナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 内外-赤褐色。F. 2~4段片。G. 2・3段に透孔。H. 北東側外周施設。
26	円筒埴輪	A. 残存高8.6。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-明褐色。F. 胴部片。H. 北側外周施設。
27	円筒埴輪	A. 残存高12.6。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 胴部片。H. 試掘 Tr 3。
28	円筒埴輪	A. 残存高9.5。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。H. 北側外周施設。
29	円筒埴輪	A. 残存高10.9。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 胴部片。H. 北東側第1基壇。
30	円筒埴輪	A. 残存高13.3。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。H. 北東側外周施設。
31	円筒埴輪	A. 残存高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 胴部片。G. 外面に線刻あり。H. 北東側基壇。
32	円筒埴輪	A. 残存高13.1。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。H. 墳丘下。
33	円筒埴輪	A. 残存高10.1。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 胴部片。H. 北側外周施設。
34	円筒埴輪	A. 残存高8.7。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 内外面ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部片。H. 北東側基壇。
35	円筒埴輪	A. 残存高8.0。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 胴部片。G. 小透孔あり。H. 北側外周施設。
36	(円筒埴輪)	A. 残存高8.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-橙色。F. 胴部片?。G. 馬形埴輪の脚部の可能性もあり。H. 北側外周施設。
37	円筒埴輪	A. 残存高8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-橙色。F. 胴部片。H. 北側外周施設。
38	朝顔形埴輪	A. 残存高14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部片。H. 墳頂部。
39	朝顔形埴輪	A. 残存高7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。内外面ハケ。D. 角閃石・白色粒。E. 外-橙色、内-にぶい褐色。F. 口縁部片。H. 北東側外周施設。
40	朝顔形埴輪	A. 残存高14.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 片岩・黒色粒・チャート。E. 内外-赤褐色。F. 口縁部片。H. 北側外周施設。
41	朝顔形埴輪	A. 残存高11.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。内外面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. 石室攪乱土。

42	朝顔形埴輪	A. 残存高7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。内外面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 口縁部片。H. 墳頂部。
43	朝顔形埴輪	A. 残存高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 口縁部片。H. 北東側外周施設。
44	朝顔形埴輪	A. 口縁部径(41.3)、3段高8.8、4段高6.3、5段高18.4。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面タテハケ、3段のみヨコハケ。内面ハケの後下半ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 2段中位~口縁部2/3。G. 外面3段に線刻あり。H. 北側外周施設。
45	朝顔形埴輪	A. 1段高16.9、2段高11.9、3段高10.3、底部径(17.0)。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 片岩・黒色粒・チャート。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1段~4段下位1/2。H. 北東側基壇。
46	朝顔形埴輪	A. 残存高14.0。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ナデの後ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-橙色。F. 5段片。H. 墳頂部。
47	朝顔形埴輪	A. 残存高7.0。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ナデの後ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 4・5段片。H. 北側外周施設。
48	朝顔形埴輪	A. 残存高12.6。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-明赤褐色。F. 2・3段片。H. 北側外周施設。
49	朝顔形埴輪	A. 残存高7.1。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ナデの後ハケ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-明赤褐色。F. 3・4段片。H. 北側外周施設。
50	家形埴輪	A. 残存高27.6。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 内外面ハケ。下端突帯内外面ヨコナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 外-灰褐色、内-にぶい褐色。F. 壁体部1/2。G. 平側の前後面に方形窓、妻側に円形透孔。H. 墳頂部石室攪乱土内。
51	(家形埴輪)	A. 残存高24.8。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。内面に補強粘土を貼付。C. 外面ハケの後下端突帯ヨコナデ。内面ハケの後ヘラナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 壁体部1/3。G. 妻側下方に円形透孔。双脚人物埴輪基台部の可能性もあり。H. 墳頂部石室攪乱土内。
52	形象埴輪	A. 残存23.2、底部径(14.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-赤褐色。F. 基台部もしくは馬形埴輪脚部下半1/3。H. 北東側基壇。
53	形象埴輪	A. 残存高21.8、底部径11.4。B. 粘土紐積み上げ。基部は粘土板成形。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-橙色。F. 基台部もしくは馬形埴輪脚部下半。H. 北東側基壇。
54	形象埴輪	A. 残存高33.4、底部径14.2。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 基台部4/5。G. 突帯上側に透孔。H. 北側外周施設。
55	形象埴輪	A. 残存高27.1、底部径13.8。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。基部は粘土板成形。C. 外面ハケ、内面ハケの後上半ナデ。突帯ヨコナデ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-にぶい橙色。F. 基台部4/5。G. 突帯上側に透孔。H. 北東側外周施設。
56	(形象埴輪)	A. 1段高18.4、残存高21.3、底部径10.9。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。C. 外面ハケの後1段下半板押圧による底部調整。内面ナデ。突帯ヨコナデ。D. 片岩・黒色粒・チャート。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 基台部か。G. 突帯上側に透孔。H. 北側外周施設。
57	馬形埴輪	A. 残存高40.7、底部径(12.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 外-にぶい黄褐色、内-赤褐色。F. 脚部。G. 下側に小孔。H. 東側基壇。
58	馬形埴輪	A. 残存高25.4、底部径(13.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-赤褐色。F. 脚部下半。G. 下側に小孔。H. 東側基壇。
59	(馬形埴輪)	A. 残存高8.4、底部径(12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ。内面ハケの後ヘラナデ、下端ケズリ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 脚部下位1/3。H. 北東側基壇。
60	人物埴輪	A. 長さ6.7。B. 中実造り。C. 外面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. にぶい赤褐色。F. 上げ美豆良。H. 南東側墳丘下。
61	人物埴輪	A. 残存長4.6。B. 中実造り。C. ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 橙色。F. 鼻部分で目・口の切れ込みが一部残る。H. 墳丘東側。
62	人物埴輪	B. 中実造り。C. ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 腕部。H. 1溝覆土中。
63	人物埴輪	B. 中実造り。C. ハケの後ナデ。線刻により指を表現。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 左腕部。G. 胸部に接合すると思われる。手首に飾玉貼付。H. 墳頂部攪乱土内。
64	(人物埴輪)	A. 残存長3.5。C. 外面ハケ、裾部と下側ナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 外-橙色。F. 衣裾部片か。H. 南東側墳丘下。
65	(人物埴輪)	A. 残存高4.8。B. 下側に粘土を付加して補強。C. 外面ハケ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 外-明赤褐色。F. 衣裾部片か。H. 墳頂部。
66	(人物埴輪)	A. 残存高8.8。B. 部分的に粘土を重ねる。下側に円筒状物の剥落痕2か所。C. 外面ハケの後ナデ、内面ハケ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 外-橙色、内-赤褐色。F. 双脚人物埴輪の股間部。H. 南東側墳丘下。
67	人物埴輪	A. 残存高6.1。B. 円筒部に裾部を貼付。C. 外面ハケ、裾部ナデ。内面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 衣裾部片。H. 墳頂部。
68	人物埴輪	A. 残存高9.8。B. 円筒部に裾部を貼付。C. 外面ハケ。内面ハケの後ナデ。D. 黒色粒・白色粒・チャート。E. 外-灰黄褐色、内-にぶい黄褐色。F. 衣裾部片。G. 裾部に紐状粘土の剥離痕あり。H. 北側外周施設。
69	(人物埴輪)	A. 残存長4.1。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 片岩・黒色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 衣裾部片か。H. 北側外周施設。
70	(人物埴輪)	A. 残存長6.4。B. 裾部に帯状粘土を貼付。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩・黒色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 衣裾部片か。H. 墳頂部。
71	(人物埴輪)	A. 残存長5.1。C. 外面ハケ、裾部ナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 外-橙色。F. 衣裾部片か。H. 1溝覆土中。

72	馬形埴輪	A. 残存長9.6。B. 筒状部に側板を貼付。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 鼻先部の破片。G. 鼻孔が残る。素環の鏡板・面繫等が剥落していると思われる。H. 墳丘下。
73	形象埴輪	A. 残存高6.5。B. 中空部を造る。C. 外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-橙色。F. 馬形埴輪の耳付近か。H. 1溝覆土中。
74	馬形埴輪	B. 本体部に前輪を貼付する。C. 外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 外-橙色、内-赤褐色。F. 首付近～前輪片。G. タテガミが剥落し、剥離部に貼付用の刻み。H. 南東墳丘下。
75	形象埴輪	A. 残存長6.9。C. 表裏面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 表裏-橙色。F. 周縁弧状の破片。馬形埴輪の耳か。H. 北東側基壇。
76	(馬形埴輪)	A. 残存長6.3。B. 帯状粘土を貼付。C. 内外面ナデ。D. 片岩・黒色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 帯状部は繫表現か。H. 北側外周施設。
77	馬形埴輪	A. 残存高6.3。B. 後面に尻繫端部の粘土を貼付。C. ハケ、周縁部ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 橙色。F. 後輪片。H. 墳頂部。
78	(馬形埴輪)	A. 残存長10.5。B. 帯状粘土を貼付。C. 外面ハケ、帯状部下側ナデ。内面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 外-にぶい褐色、内-赤褐色。F. 胸付近で胸繫表現か。H. 南東墳丘下。
79	(馬形埴輪)	A. 残存高10.5。B. 帯状粘土を貼付。C. 内外面ハケの後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 馬形埴輪片か。G. 部品の剥落痕があり、剥離部に装着用の刻み。H. 墳丘東側。
80	形象埴輪	A. 残存長7.5。B. 帯状粘土を貼付。C. 外面ハケの後に帯状部ナデ、内面ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 帯状部は馬形埴輪の繫表現か。H. 北側外周施設。
81	(馬形埴輪)	A. 径4.4。B. 下側に装着用の突起。C. ナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 橙色。F. 飾り金具か。H. 南東側墳丘下。
82	(馬形埴輪)	A. 径3.9。C. ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 赤褐色。F. 飾り金具か。H. 墳丘東側。
83	(家形埴輪)	A. 残存長7.7。C. 外面ハケの後ナデ、内面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-明赤褐色。F. 割竹形の堅魚木か。H. 墳頂部。
84	(家形埴輪)	A. 残存長5.7。C. 外面ハケの後ナデ、内面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-橙色。F. 割竹形の堅魚木か。H. 墳頂部。
85	(家形埴輪)	A. 残存長5.8。C. 外面ハケの後ナデ、内面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 外-明赤褐色、内-橙色。F. 割竹形の堅魚木か。H. 墳頂部。
86	(家形埴輪)	A. 残存長5.9。C. 外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-橙色。F. 割竹形の堅魚木か。H. 墳頂部、南東墳丘下。
87	(家形埴輪)	A. 残存長7.3。C. 外面ハケの後ナデ、内面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 内外-橙色。F. 割竹形の堅魚木か。H. 墳頂部。
88	形象埴輪	A. 残存長22.7。B. 筒状部に帯状粘土を貼付。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 家形埴輪の棟部か。G. 逆U字状の剥離痕(割竹形の堅魚木か)あり。H. 墳頂部。
89	形象埴輪	A. 残存長12.9。B. 粘土板の縁に屈曲する帯状粘土を貼付。C. 表面ハケ後に帯状部ナデ。裏面ハケ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 表裏-橙色。F. 馬形埴輪の障泥もしくは家形埴輪の屋根部片か。H. 北側外周施設。
90	形象埴輪	A. 残存長21.6。B. 粘土板の縁に帯状粘土を貼付。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 家形埴輪の屋根部片か。H. 南東墳丘下。
91	形象埴輪	A. 残存長12.2。B. 粘土板の縁に屈曲する帯状粘土を貼付。C. 表面ハケの後に帯状部ナデ、裏面ハケ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 表-橙色、裏-明赤褐色。F. 馬形埴輪の障泥もしくは家形埴輪の屋根部片か。H. 北側外周施設。
92	形象埴輪	A. 残存長6.6。B. 粘土板の縁に帯状粘土を貼付。C. 表面ハケの後に帯状部ナデ、裏面ハケ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 表-橙色、裏-明赤褐色。F. 馬形埴輪の障泥もしくは家形埴輪の屋根部片か。H. 墳頂部。
93	(家形埴輪)	A. 残存高24.8。B. 粘土紐積み上げ。突帯貼り付け。内面に補強粘土を貼付。C. 外面ハケ、下端突帯ヨコナデ。内面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 外-にぶい黄褐色、内-明赤褐色。F. 壁体部片。双脚人物埴輪基台部の可能性あり。H. 北側外周施設。
94	形象埴輪	A. 残存長6.6。C. 内外面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 内外-明赤褐色。F. 不明。H. 墳頂部。
95	形象埴輪	A. 残存長6.8。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 外-明赤褐色、内-橙色。F. 不明。H. 墳頂部。
96	形象埴輪	A. 残存長10.7。C. 外面ハケ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 外-明赤褐色、内-赤褐色。F. 不明。H. 石室攪乱内。
97	形象埴輪	A. 残存長8.4。B. 帯状粘土を貼付するが剥落。C. 表面ナデ、裏面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 表裏-橙色。F. 不明。H. 北側外周施設。
98	形象埴輪	A. 残存長9.5。B. 帯状の貼付痕。C. 外面ハケの後ナデ、内面ハケ。D. 角閃石安山岩。E. 外-橙色、内-赤褐色。G. 小孔の痕跡。F. 不明。H. 墳丘東側。
99	形象埴輪	A. 残存長9.9。B. 帯状の貼付痕。C. 外面ハケ、内面ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 外-橙色、内-赤褐色。F. 不明。H. 北側外周施設。
100	形象埴輪	A. 残存長8.0。B. 貼付痕あり。C. 内外面ハケの後ナデ。D. 角閃石・白色粒・チャート。E. 外-橙色、内-明赤褐色。F. 不明。H. 南東側墳丘下。
101	形象埴輪	A. 残存長7.4。C. 表面ハケ、周縁部ナデ。内面ナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 表裏-赤褐色、F. 周縁弧状の破片。H. 墳頂部。
102	形象埴輪	A. 残存長12.8。C. 表裏面ハケの後ナデ。D. 角閃石安山岩。E. 表裏-明赤褐色。F. 不明。H. 南東側墳丘下。

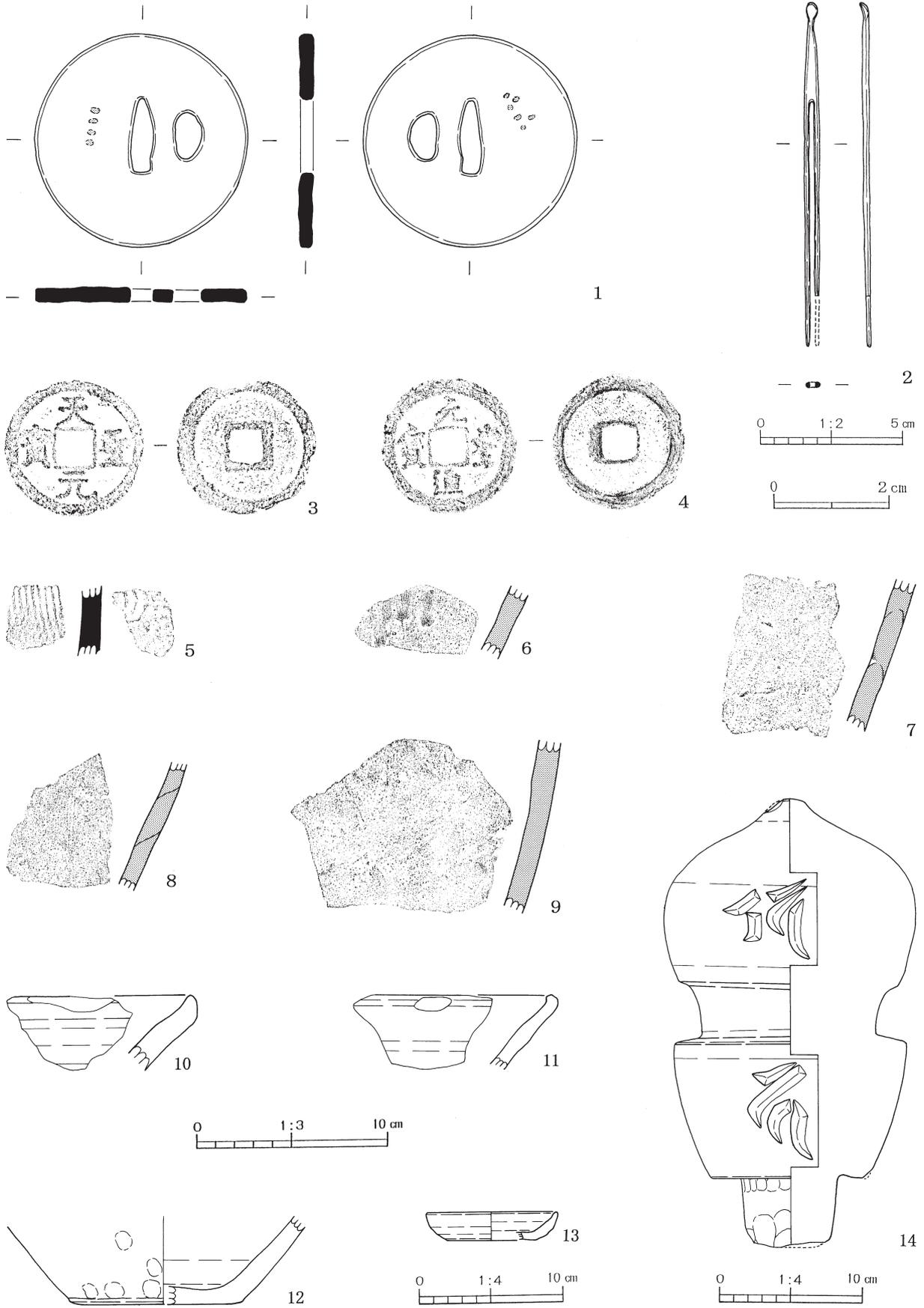
c. その他の出土遺物

本古墳の調査では、調査区内の表土層や墳頂部の攪乱内及び墳丘を切る第1号溝跡の覆土中から、前述した20mm機関銃の実弾の他に、古墳構築以後の土地利用状況を窺わせる中世以降の遺物がいくつか出土している(第34図)。このうち、須恵器甕の小破片(No.5)は古墳時代後期以降の古代のもので、刀の鐔(No.1)や簪(No.2)とかわらけの破片(No.13)などは近世以降と考えられる。それ以外の渡来銭の「天聖元寶」(No.3)や「元豐通寶」(No.4)は、模鑄の可能性もあるものの古代末～中世初頭、常滑窯製の甕(No.6～9)や在地産片口鉢(No.10～12)の破片、安山岩製の五輪塔の空風輪(No.14)などは、中世後期の所産と思われる。これらの中・近世の遺物は、本古墳と東側に隣接して存在した真言宗系寺院の円満寺と関係した遺物の可能性が高いのではないかとと思われる。この中で、特に五輪塔(空風輪)の出土は、この円満寺の建立時期を考えるうえで注目されるものである。

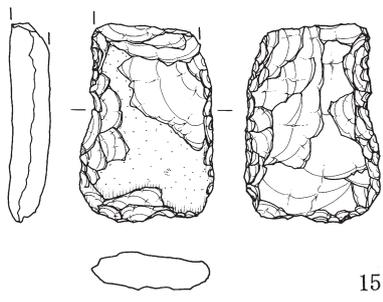
この他に、縄文時代と考えられる打製石斧が2点(No.15・16)と、中央に比較的大きな穿孔痕をもつ時期不明の板状の石器が1点(No.17)出土している(第35図)。これらの石器は、古墳の葺石等の石材として利用されたと思われるものであるが、本古墳の南西側約300mの丘陵上からその先端付近には、縄文時代前期後半(諸磯式後半段階頃)と中期中頃(勝坂Ⅲ式)～後半(加曾利EⅢ式)の集落である金屋南遺跡(恋河内2012・2013)が所在しており、おそらくそれらの集落と関係するものと思われる。

その他の出土遺物観察表

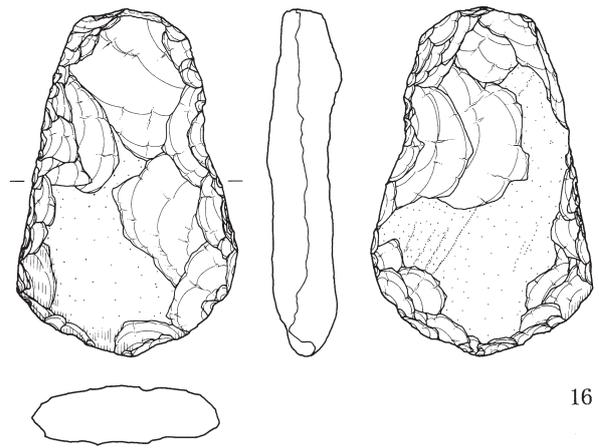
1	円形鐔	A. 直径7.5、厚さ0.5、重さ86g。B. 鍛造?。D. 鉄製。F. 完形。G. 表裏面に象嵌による文様の痕跡あり。H. 北側墳丘下表土。
2	簪	A. 全長12.1、最大幅0.5、厚さ0.2、重さ4g。B. 鑄造。D. 銅製。F. 松葉状足先の片側を欠損。G. 耳搔付簪。H. 墳頂部攪乱内。
3	古銭	A. 直径2.5、重さ3g。B. 鑄造。D. 銅製。F. ほぼ完形。G. 「天聖元寶」(初鑄1023年)。渡来銭(北宋)。H. 1溝覆土中。
4	古銭	A. 直径2.4、重さ3g。B. 鑄造。D. 銅製。F. ほぼ完形。G. 「元豐通寶」(初鑄1078年)。渡来銭(北宋)。H. 墳頂部攪乱内。
5	須恵器甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 胴部破片。G. 環元焰。H. 1溝覆土中。
6	常滑窯甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部内外面ナデ。D. 白色粒、淡橙褐色粒。E. 外-暗茶褐色、内-明茶褐色。F. 胴部破片。G. 外面に淡緑色の自然釉が垂れる。H. 1溝覆土中。
7	常滑窯甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面篋ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、暗茶褐色粒。E. 外-暗茶褐色、内-淡褐色。F. 胴部破片。H. 北側墳丘下。
8	常滑窯甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部内外面篋ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗褐色。F. 胴部破片。H. 調査区北東側表土。
9	常滑窯甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面篋ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 胴部破片。H. 試掘Tr3。
10	在地産片口鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 口縁部破片。G. 瓦質。H. 1溝覆土中。
11	在地産片口鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗赤褐色。F. 口縁部破片。G. 器表面は風化している。H. 墳頂部攪乱内。
12	在地産片口鉢	A. 底部径(17.0)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 体部内外面ナデ。底部外面糸切り。D. 白色粒。E. 外-黒灰色、内-暗灰色。F. 底部1/4。G. 瓦質。体部内面は良く擦れている。H. 北側墳丘下。
13	かわらけ	A. 口縁部径(9.2)、器高2.0、底部径(6.2)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 口縁部1/4。H. 墳頂部攪乱内。
14	五輪塔(空風輪)	A. 高さ31.6、空輪最大幅17.6、風輪最大径16.3、軸棒直径6.6、重さ8.3kg。B. 削り出し。C. 研磨。D. 安山岩。F. ほぼ完形。G. 梵字は葉研堀状。H. 調査区東端。
15	打製石斧	A. 残存長8.0、最大幅5.4、厚さ1.6、重さ96.13g。B. 礫皮をもつ剥片を素材とし、周縁に直接打撃による両面加工を施す。D. 砂岩。F. 2/3。G. 刃部に刃こぼれや摩耗痕あり。H. 北側墳丘下。
16	打製石斧	A. 長さ13.9、最大幅8.7、厚さ3.0、重さ391.54g。B. 扁平礫を素材とし、周縁に直接打撃による両面加工を施す。D. 砂岩。F. 完形。G. 刃部に摩耗痕あり。H. 墳丘下。
17	不明石器	A. 残存長9.4、残存幅5.8、厚さ1.3、重さ99.83g。B. 扁平礫を素材とし、中央部に穿孔痕あり。D. 片岩。F. 1/2。H. 北東側基壇。



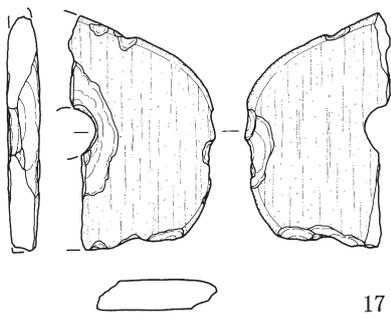
第34図 その他の出土遺物（1）



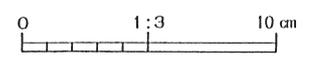
15



16



17



第35図 その他の出土遺物（2）



第IV章 調査の成果と課題

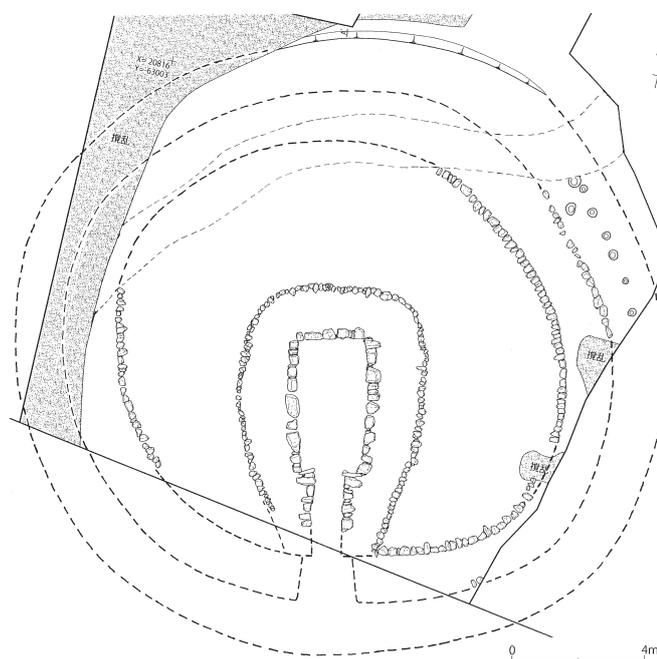
1 墳丘の変形について

今回報告した長沖203号墳は、主体部が石室外側に控え積みをもつ川原石積みの両袖型横穴式石室で、墳丘直径が19m～20m位の円墳と推測される。築造時期は、石室の玄室側壁があまり張らず、両袖型石室の中では比較的古い段階に位置づけられることや、埴輪の樹立が認められることから、6世紀後葉頃と考えられる。

墳形は、周溝が確認できなかったため明確ではないが、残存する第1葺石の根石の配列は、墳丘が北西～南東に長軸をもつ楕円形状に歪んだ形をしており、その外側の付基壇も墳丘北東側と南東側に一部残存する第2葺石の根石の配列からみて、おそらく正円ではなく第1葺石と相似的な楕円形状に巡っていたようである(第36図)。

このような、墳丘が楕円形ぎみに歪んだ形態を呈する古墳は、神流川右岸に立地する神川町の青柳古墳群城戸野支群15号墳(田村・金子1997)や二ノ宮支群19号墳(田村1993)、美里町の松久丘陵上に立地する猪俣北古墳群第1号墳(丸山・中沢1998)など、当地方の葺石が残存する古墳の中にいくつか例が見られる。これらの古墳は、墳丘の中心が石室の玄室奥壁か玄室内部かに関係なく、石室の羨門部側の墳丘半径が短くなることによって楕円形状に歪んでいるため、「葺石を羨門部に取り付けるために意図的になされた行為と思われる、墳丘の構築が石室に規制されていることが窺える例」(金子2006)と言われている。当地方の該期の群集墳を構成する横穴式石室をもつ小円墳の多くは、墳丘よりも先に石室が構築された「石室優先型」(青木2007)であるが、石室の羨門部側の半径を短くして墳丘を楕円形状に変形させた原因は、単なる設計ミスではなく当初の設計プランの一部変更と考えられ、墳丘規模は当初のまま、何だかの事情によって当初予定していた石室の規模を縮小しなければならなくなったためではないかと思われる。

本古墳の場合は、石室は玄室部長と羨道部長の比率が3：2の規格性の高いものであるが、楕円形を呈する墳丘の長軸を玄室の短軸方向に取っていない点でやや趣が異なっている。視点の置き方による測り方の違いによっては、墳丘の中心が玄室の奥壁にも玄室内部のどちらにもなりうることから、墳丘規格の構造がはっきりしないが、墳丘の楕円形長軸を墳丘直径とした場合、石室羨道部の南側から南西側の範囲が墳丘の歪みが最も大きいことから、先の他の古墳と同じ原因による変形の可能性が高いと思われる。また、墳丘の長軸方向を玄室の短軸方向ではなく北西～南東方向に向けているのは、本古墳が立地する低い尾根筋上の等高線の方と一致しており、おそらく微地形的な条件や、尾根筋上に存在した他の古墳との関係によるのではないかと思われる。



第36図 長沖203号墳墳形想定図

2 模様積石室について

本古墳の模様積石室の築造時期は、先にも述べたように6世紀後葉頃と考えられ、それは当地方の模様積石室の出現期にあたる。増田逸朗氏はこの出現期の模様積石室の特徴として、①いずれも古墳群における主墳格の大型円墳で、径20m以上のものが多い。②墳丘規模に応じて石室も大型で、7m以上が大部分である。③石室形態は、胴張が少なく、玄室の胴張が少ないのとうらはらに、羨道は必ず胴張を示す。④出現期の模様積石室は完璧な模様積みである。という点をあげている(増田1996)。本古墳の場合は、墳丘や石室の規模はこれらの特徴に近いものであり、羨道部の全容が不明ながら、これまでに報告されている明確な模様積みを呈する石室の中では、玄室の側壁の張り方が最も弱い形態であることが注目される。

模様積石室の出現の要因については、両袖型の胴張石室に限られることから、石室の胴張プランの採用と密接な関係があると言われている(金子1980、田中1989・1990、増田1996)。しかしながら、見た目において本古墳の石室と同程度の張りの弱い胴張形態は、当地域の青柳古墳群南塚原支群6号墳(増田・駒宮1973)、本庄市長沖古墳群第8号墳(菅谷他1980)、美里町白石古墳群久保1号墳・久保2号墳・後海道5号墳(長滝2003)などの笏形の袖無型石室や、美里町生野山古墳群第16号墳(菅谷1984)の片袖型石室など、乱石積みを主体とする両袖型以前の石室にも見られる。また、埴輪を伴いその石室の平面形態などから両袖型胴張石室の初期段階と考えられる青柳古墳群南塚原支群10号墳・40号墳(田村・金子2012)・45号墳(金子2014)・城戸野支群30号墳(田村・金子1997)、美里町猪俣南古墳群第2号墳(丸山1996)などは、いずれも模様積みではなく乱石積みである。このことから、当地域の石室における胴張形態と模様積み技法の採用には時間差が考えられ、石室の胴張形態の採用が早く、その時期に主流であった乱石積みの後に模様積み技法が普及するのではないかとと思われる。

模様積みの系譜については、増田逸朗氏が「現状では、乱石積の壁面空間に小石を詰め込み押さえる手法が存在し、これが模様の見える事から、系譜論的にはここに求めざるをえない」(増田1996)と述べられているのが唯一と思われる。先の両袖型胴張石室の初期段階と考えられる石室は、すべて乱石積みであるが、その中には青柳古墳群南塚原支群40号墳や城戸野支群30号墳のように、小口面が長方形ぎみの大形の自然石を横に据え、高さを揃えて目地が通るように列状にして水平に積み上げ、その隙間に小形の自然石を支え石として充填した、いわゆる「通目積み」風の積み方をしたものが見られる。模様積みも、大形の石材の高さを揃え、間隔をとって水平に点列状に据えながら、間に小形の自然石を充填して積み上げる技法(増田・小久保1977、青木2013)であることから、広義の通目積み的一种と言える。この模様積みの出現期には、長沖古墳群第21号墳(菅谷他1980)や本庄市秋山庚申塚古墳(田中1989)などのように、かなり大形の石材を多用し、水平方向の列状に密集した配列だけで、あまり千鳥状の配置を意識せず、壁面全体に対する大形石材の占める割合がかなり高いものが見られる。そのため模様積みは、両袖型胴張石室の初期段階と考えられる石室の一部に見られる通目積み風になった乱石積みから、大形石材の支え石として充填していた小形石材の部分を面積的に多くすることによって出現した技法の可能性が考えられるのではないだろうか。つまり、模様積みの技法は、石室の胴張形態や持ち送り技術との直接的な関係ではなく、もともと石室構築に適した大形石材が少なく、中小河川の小形の川原石が石材供給の中心であった地域集団が、古墳築造の増加に伴う大形や中形石材の不足という地域的事情に対処するため考え出した苦肉の石積み技法であったと思われる。

<引用・参考文献>

- 青木 敬 (2007) 「古墳における墳丘と石室の相関性」『日本考古学』第23号 日本考古学協会
- 青木 弘 (2013) 「模様積石室をもつ古墳の築造技術 ―群馬県伊勢塚古墳を対象に―」『技術と交流の考古学』同成社
- 大熊 季広 (2003) 『長沖古墳群Ⅳ ―第42号墳の調査―』児玉町文化財調査報告書第37集
- (2004) 『長沖古墳群Ⅴ ―飯玉地区E地点の調査―』児玉町文化財調査報告書第38集
- 太田 博之 (2014) 『長沖古墳群ⅩⅢ ―第194・195・196・197・201号墳の調査―』本庄市埋蔵文化財調査報告書第39集
- 大谷 徹 (1999) 『長沖古墳群』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第224集
- 大塚 昌彦 (2014) 『長沖古墳群ⅩⅣ ―久保地区D地点・第66号墳―』本庄市埋蔵文化財調査報告書第42集
- 金井塚良一 (1976) 「北武蔵の古墳群と渡来氏族吉士氏の動向」『北武蔵考古学資料図鑑』校倉書房
- 金子 彰男 (2006) 「模様積石室墳の築造規格について」『埼玉の考古学Ⅱ』埼玉考古学会 六一書房
- (2014) 『青柳古墳群 南塚原支群Ⅳ・出土遺物等整理報告』神川町埋蔵文化財調査報告第7集
- 金子 章 (1980) 「横穴式石室におけるいわゆる『模様積み』について」『土曜考古』第2号 土曜考古学研究会
- 恋河内昭彦 (1984) 「児玉町長沖古墳群の第7次調査」『第17回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉県考古学会他
- (2008) 『長沖古墳群Ⅷ ―久保地区C地点の調査―』本庄市遺跡調査会報告書第21集
- (2011) 『長沖古墳群Ⅸ ―長沖172号墳・長沖173号墳・長沖30号墳の調査―』本庄市埋蔵文化財調査報告書第24集
- (2012) 『長沖古墳群Ⅺ ―長沖14号墳・長沖15号墳・長沖40号墳・金屋南遺跡C地点の調査―』本庄市埋蔵文化財調査報告書第27集
- (2013) 『金屋南遺跡Ⅲ ―長沖古墳群内：縄文A地区・江ノ浜地区―』本庄市埋蔵文化財調査報告書第31集
- 恋河内昭彦・大熊季広 (2006) 『長沖古墳群Ⅵ ―第32号墳の調査―』本庄市埋蔵文化財調査報告書第2集
- 菅谷 浩之 (1984) 『北武蔵における古式古墳の成立』児玉町史史料調査報告書古代第1集
- 菅谷浩之他 (1980) 『長沖古墳群』児玉町文化財調査報告書第1集
- 鈴木徳雄・尾内俊彦 (2007) 『長沖古墳群Ⅶ ―久保地区B地点の調査―』本庄市遺跡調査会報告書第14集
- 鈴木徳雄・和久拓照 (2011) 『長沖古墳群Ⅹ ―飯玉地区B地点の調査―』本庄市遺跡調査会報告書第41集
- 大護 八郎 (1956) 『古墳調査報告書 第一編 ―本庄市及び児玉郡古墳調査―』埼玉県教育委員会
- 田中 広明 (1989) 「終末期古墳出現への動態Ⅰ」『研究紀要』第5号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- (1990) 「庚申塚古墳の横穴式石室 ―模様積石室と石材の供給(予察)―」『秋山古墳群』児玉町史資料調査報告古代第2集
- 田村 誠 (1993) 『二ノ宮19号墳』神川町遺跡調査会発掘調査報告第4集
- 田村 誠・金子彰男 (1997) 『青柳古墳群 城戸野・海老ヶ久保・十二ヶ谷戸・二ノ宮支群』神川町教育委員会文化財調査報告第16集
- (2012) 『青柳古墳群 南塚原支群Ⅲ』神川町埋蔵文化財調査報告第5集
- 徳山寿樹・大熊季広・西田親史 (2002) 『長沖古墳群Ⅲ ―村後地区・飯玉地区(C・D地点)―』児玉町文化財調査報告書第36集
- 永井 智教 (2005) 「宮内古墳群の提起する問題」『脊戸谷遺跡 ―宮内古墳群の調査―』児玉町遺跡調査会報告書第19集
- 長滝 歳康 (2003) 『白石古墳群Ⅱ 後海道地区・久保地区』美里町遺跡発掘調査報告書第14集
- 増田 逸朗 (1996) 「模様積石室小考」『調査研究報告』第9号 埼玉県立さきたま資料館
- 増田逸朗・小久保徹 (1977) 『塚本山古墳群』埼玉県遺跡発掘調査報告書第10集
- 増田逸朗・駒宮史朗 (1973) 『青柳古墳群発掘調査報告書』埼玉県遺跡調査会報告第19集
- 的野 善行 (2014) 『長沖古墳群Ⅻ―第202号墳の調査―・女池遺跡Ⅳ―E地点の調査―・西富田新田遺跡Ⅱ―C地点の調査―』本庄市埋蔵文化財調査報告書第36集
- 丸山 陽一 (1996) 『猪俣南古墳群・丸山遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第8集
- 丸山陽一・中沢良一 (1998) 『猪俣北古墳群・引地遺跡・滝ノ沢遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第9集

《付編》 長沖203号墳・御堂坂2号墳出土重層ガラス玉の自然科学的調査

田村朋美

1 はじめに

埼玉県本庄市の長沖203号墳(本報告)および御堂坂2号墳(増田1990)から、重層構造をもつ特殊なガラス小玉が出土している。これらのガラス小玉は、ガラスとガラスの間に金属箔を挟み込んで装飾効果を高めるといふ高度な技術を用いて製作されたもので、いわゆる「重層ガラス玉」(大賀2002)や「ゴールドサンドウィッチグラス」(福島1985)、「金層ガラス玉」(高橋1992)などと呼ばれている。日本列島で出土する重層ガラス玉には、金属箔の素材や基礎ガラスの異なる様々な種類が存在する。今回、これらの古墳から出土した重層ガラス玉について、自然科学的方法を用いて材質・構造調査を実施したので、以下にその結果を述べる。

2 資料と方法

a. 調査資料

本調査の対象は、長沖203号墳出土重層ガラス玉3点(第20図No.340、341、342:写真1)及び御堂坂2号墳出土重層ガラス玉1点(未報告:写真1)の合計4点である。

長沖203号墳出土品3点のガラス部分は、いずれも黄褐色透明を呈するが、No.340は他の2点に比べてやや濃い色調である。No.341とNo.342については、内層と外層のガラスの間に金属光沢を有する層が認められ、一部は黒色化している。No.340については、金属光沢を有する層を明確に認めることはできないが、内外のガラス間に黒色の付着物が見られる。

御堂坂2号墳出土品は破片資料である。黄褐色透明を呈するガラスが二層構造をなす。金属箔は認められない。

b. 調査方法

内部構造調査には、コンピューテッドラジオグラフィ法(Computed Radiography法、CR法)を適用した。撮影に用いた装置は、マイクロフォーカスX線拡大撮像システム(富士フィルム社製μFX-1000)とイメージングアナライザー(富士フィルム社製BAS-5000)である。イメージングプレート(Imaging Plate、IP)にはBAS-SR2025を使用した。撮影条件は、管電圧:40kV、管電流:50μA、露光時間60秒であった。

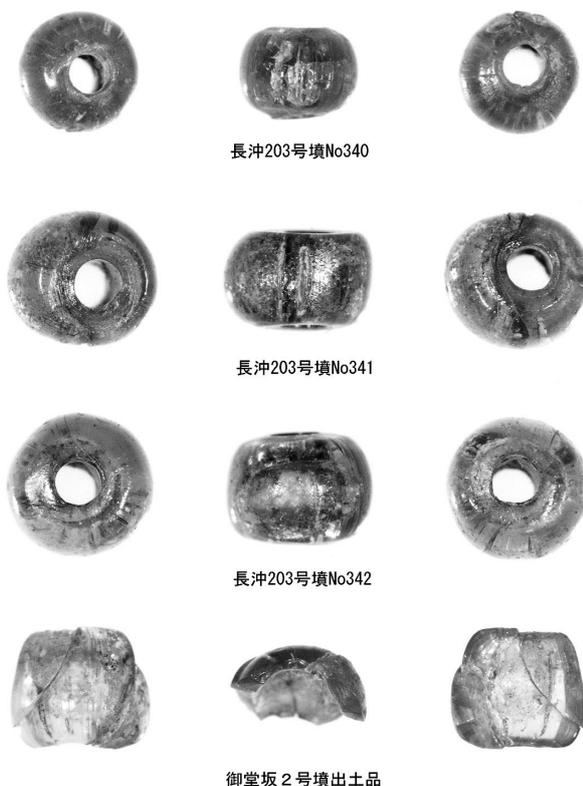


写真1 長沖203号墳・御堂坂2号墳出土重層ガラス玉

材質分析には、蛍光X線分析法を適用した。測定にあたっては、風化の影響をできるだけ排除するため、超音波およびエチルアルコールを用いて測定箇所表面を洗浄した。測定に用いた装置はE D A X社製エネルギー分散型X線分析装置E A G L E IIIである。励起用X線源はモリブデン(Mo)管球、励起電圧は20kV、管電流は100 μ A、X線照射径は112 μ m、計数時間は300秒とし、真空中で測定した。なお、ガラス部分の測定結果については、測定試料と近似する濃度既知のガラス標準試料(C G - 5、S G 5、S G 7、S G T 5、N I S T 620)を用いて補正した理論補正法(Fundamental Parameter method、FP法)により、検出した元素の酸化物の合計が100%になるように規格化した。

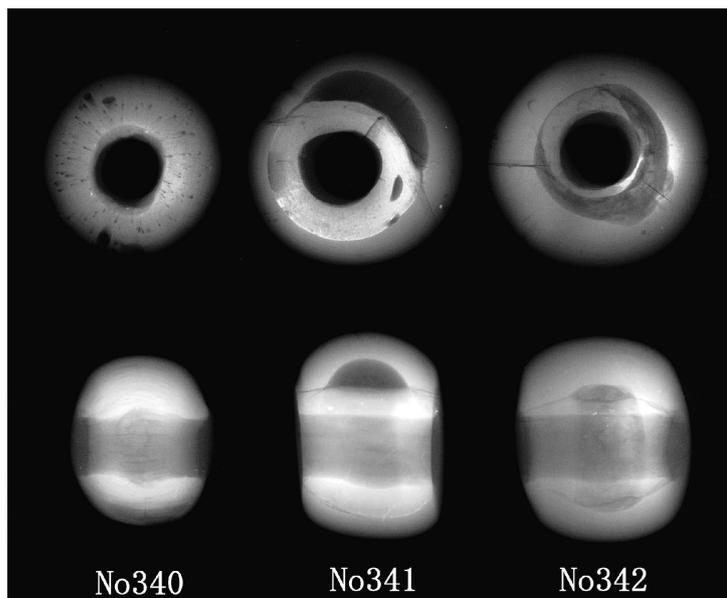


写真2 長沖203号墳出土重層ガラス玉のCR画像

CG-5、SG5、SG7、SGT5、NIST620)を用いて補正した理論補正法(Fundamental Parameter method、FP法)により、検出した元素の酸化物の合計が100%になるように規格化した。

3 結果と考察

a. 内部構造と製作技法

長沖203号墳出土品3点の重層ガラス玉のCR画像を写真2に示す。いずれも孔の形状が中央付近で内湾していることや、気泡が孔と同方向にガラスの曲面に沿って細長く伸びていることがわかる。No.341とNo.342は内層と外層の間に大きな空間が存在する。さらに、内層と外層の間にはガラス部分よりもX線の吸収の大きい薄層が認められる。No.340は内層と外層が比較的密着しているものの、内層と外層の間にはやはり僅かな隙間とガラス部分よりもX線の吸収の大きい薄層の存在が認められた。本来は金属層が挟まれていたが、風化によりその大部分が失われたと考えられる。

以上のことから、これらの重層ガラス玉の具体的な製作技法は、径の異なる2本のガラス管の間に金属箔を挟み込んで加熱し、工具で括れを入れて連珠状にしたものを分割して製作したと考えられる。No.340とNo.342の開孔部には連珠法によって製作されたガラス玉に特徴的な括れの痕跡が確認される。No.341に関しては、端面が研磨されており、括れの痕跡は確認できないものの、その他の特徴はNo.342と共通しており、同じ製作技法によると考えられる。なお、No.340は他の2点と比較してガラス部分に含まれる気泡が多い点が注目される。多くの気泡を含ませることで光の散乱を利用して装飾効果を高める意図があったと考えられる。

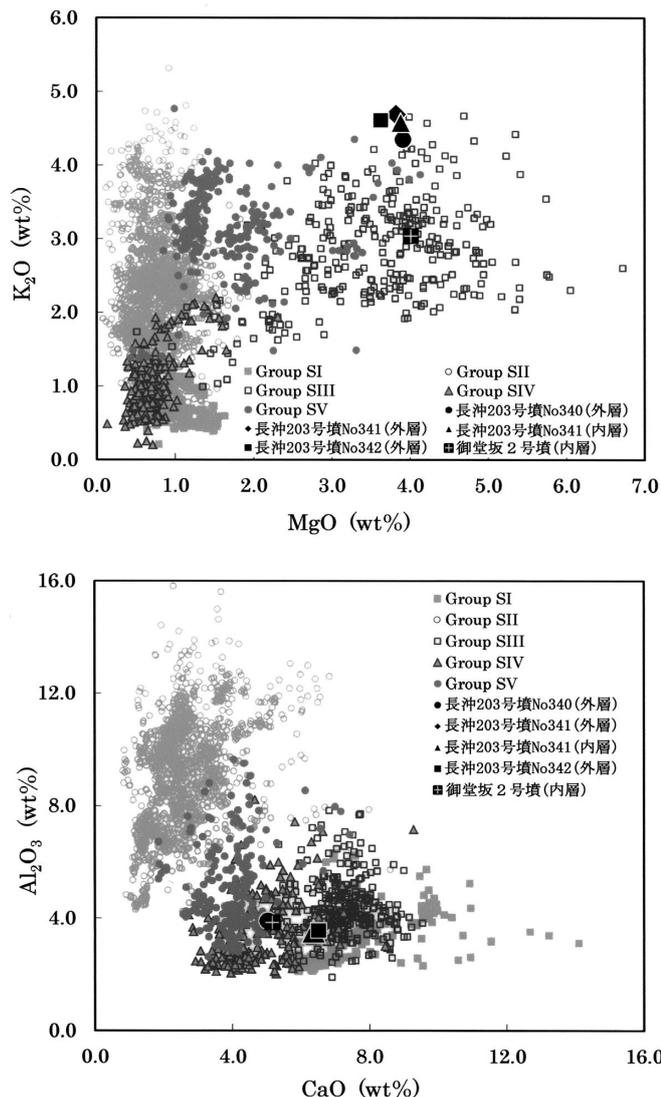
御堂坂2号墳出土品は、半分以上が欠損しており、詳細な構造を把握するのが困難であったが、気泡が孔と同方向にガラスの曲面に沿って細長く伸びている点や、わずかに残存する端面に括れを入れた痕跡が認められることから、基本的に長沖203号墳出土品と同じ製作技法である。ただし、金属箔は確認されなかった。日本列島では金属箔を挟まないタイプの重層ガラス玉も存在することが確認されている(田村2012)が、本資料は大部分が欠損しているため、もともと金属箔がなかったのか、風化

によって失われたのかについては断定できない。

b. 化学組成

ガラスの種類を明らかにするため、蛍光X線分析法による化学組成の分析調査を実施した。結果を表1に示す。なお、No.341は端面が研磨されており、内層と外層の両方が表面に露出していたため、それぞれ測定を実施した。

長沖203号墳および御堂坂2号墳出土の重層ガラス玉は、いずれも酸化ナトリウム(Na₂O)を17.5~19.6%前後含有するソーダガラスである。さらに酸化マグネシウム(MgO)と酸化カリウム(K₂O)がともに1.5%よりも多く、酸化カルシウム(CaO)が多く(> 5%)、酸化アルミニウム(Al₂O₃)が少ない(< 5%)という特徴から、植物灰タイプのソーダガラス(Group SIII、植物灰ガラスと呼ぶ)であると判断される(Oga and Tamura 2013) (第37図)。ただし、長沖203号墳の3点がいずれも MgO < K₂O であるのに対し、御堂坂2号墳出土品は MgO > K₂O である点が注目される。さらに、仔細にみると、御堂坂2号墳出土品は CaO 含有量もやや少ない傾向にある。なお、CaO 含有量については、長沖203号墳No.340もやや少ない。一方、長沖203号墳No.341およびNo.342は、極めて類似の化学組成を有する。これらは大きさや色調、気泡の量などの点でも類似点が多い。



第37図 重層ガラス玉の化学組成の特徴

表1 蛍光X線分析結果

遺構	No.	測定箇所	重量濃度 (%)															
			Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	CoO	CuO	PbO	Rb ₂ O	SrO	ZrO ₂
長沖203号墳	340	外層	17.9	3.9	4.7	58.5	0.6	4.4	5.0	0.23	0.16	4.37	0.03	0.07	0.03	0.03	0.05	0.06
	341	内層	18.3	3.9	3.5	58.9	0.5	4.6	6.4	0.16	0.19	3.38	0.03	0.03	0.04	0.03	0.07	0.06
		外層	18.3	3.8	3.5	58.6	0.6	4.7	6.5	0.15	0.20	3.44	0.04	0.02	0.05	0.01	0.06	0.10
	342	外層	17.5	3.6	3.6	59.2	0.7	4.6	6.5	0.16	0.22	3.59	0.06	0.02	0.02	0.02	0.08	0.05
御堂坂2号墳	-	内層	19.6	4.0	3.9	58.8	0.6	3.0	5.2	0.17	0.15	4.32	0.04	0.03	0.02	0.01	0.05	0.18

長沖203号墳出土品には、いずれも金属箔が挟み込まれているが、表出している部分がなかったため、元素分析により材質を明らかにすることはできなかった。ただし、遺存状態の良い部分では白銀色を呈することや、一部が黒変していることを考慮すると、銀箔である可能性が最も高いと推察される。

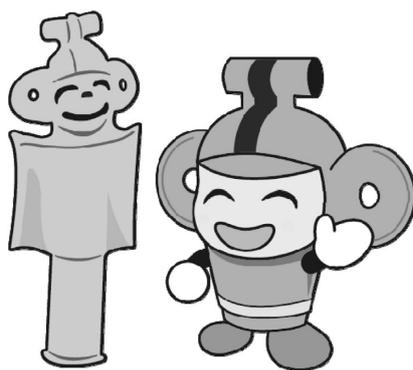
また、本調査資料はいずれもガラス部分が黄褐色透明を呈する。発色に関与する成分としては酸化鉄(Fe_2O_3)を3.38~4.37%含有している。一般に、アルカリガラスに炭素などの還元剤を添加すると、不純物として含まれる微量の硫黄と鉄がFe-S結合子を形成し、褐色を呈する(アンバーガラスと呼ばれる)と考えられている(伊藤1996)。日本列島で出土するアルカリガラスのうち、黄褐色透明を呈するものは、植物灰ガラスに偏って出現しており、古代ガラスにおいても上記のメカニズムによって発色していると考えて矛盾しない。

なお、日本列島におけるもっとも古い時期の重層ガラス玉のひとつに京都府長岡京市宇津久志1号墳出土品がある。宇津久志1号墳出土品は、アンチモンによって消色されたナトロンガラス製の無色半透明ガラスの間に金箔を挟み込んだものである(田村2013a)。長沖203号墳出土品は、黄褐色透明を呈するガラスの間に銀箔を挟み込むことで、金箔を挟み込んだ金層ガラス玉に類似の装飾効果をねらったものと推測される。日本列島で出土する重層ガラス玉の分析事例は少なく、いまだ十分なデータが蓄積されているとは言い難いが、先行研究や筆者がこれまでに分析を実施した資料において、金箔が使用されていた重層ガラス玉はナトロンガラス製に限られている(田村2013a、2013b)。今回調査を実施した長沖203号墳および御堂坂2号墳出土の重層ガラス玉についても、ガラス素材は植物灰ガラスで金属箔は銀箔もしくは箔無しタイプであり、重層ガラス玉のガラス素材と金属箔の材質には相関がある可能性が高い。

<引用・参考文献>

- 伊藤 彰 (1996) 『一ガラスにおける一炎と色の技術』 アグネ技術センター
- 大賀 克彦 (2002) 「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』 清水町埋蔵文化財発掘調査報告書V
- 高橋 進一 (1992) 「阿哲郡大佐町円通寺1号古墳出土の金層ガラス玉について」『古代吉備』第14号 古代吉備研究会
- 田村 朋美 (2012) 「日本列島における植物灰ガラスの出現と展開」『奈良文化財研究所創立60周年記念論文集 文化財論叢IV』
- (2013a) 「宇津久志第1号墳出土ガラス玉の自然科学的調査」『長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選(二)』
- (2013b) 「西方地域のガラス玉」『新市政10周年記念 秋の特別展 シルクロード～オリエントの世界～』 海の道むなかた館
- 福島 雅儀 (1985) 「ゴールドサンドウィッチガラスの玉・一例」『考古学と移住・移動』 同志社大学考古学シリーズII
- 増田 一裕 (1990) 『本庄遺跡群発掘調査報告書IV 一御堂坂第2号墳の調査一』 本庄市埋蔵文化財調査報告第16集
- Oga, K., Tamura, T. 2013 Ancient Japan and the Indian Ocean Interaction Sphere : Chemical Compositions, Chronologies, Provenances and Trade Routes of Imported Glass Beads in Yayoi-Kofun Period (3rd Century BCE-7th Century CE). *Journal of Indian Ocean Archaeology*, 9.

写真図版



本庄市マスコット

はにぽん

図版1



古墳調査前の状況（西より）



墳丘伐採・清掃後（北より）



墳丘盛土（上半）



墳丘盛土（下半）



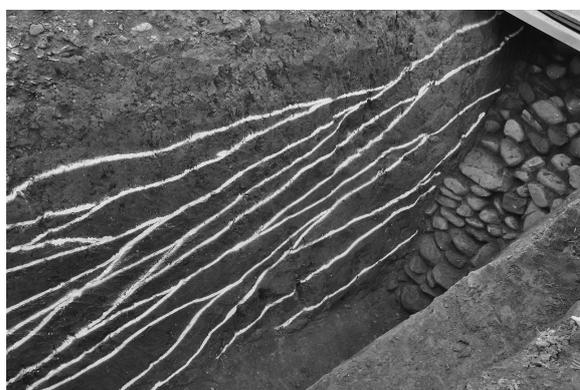
墳丘盛土北側（上半）



墳丘盛土石室北側（下半）



墳丘盛土西側（上半）



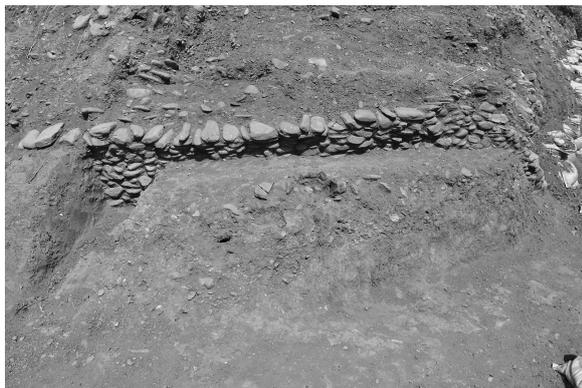
墳丘盛土石室西側（下半）



墳丘盛土東側（上半）



墳丘盛土石室東側（下半）



墳丘西側基壇（西より）



墳丘西側基壇土層断面



墳丘南東側基壇



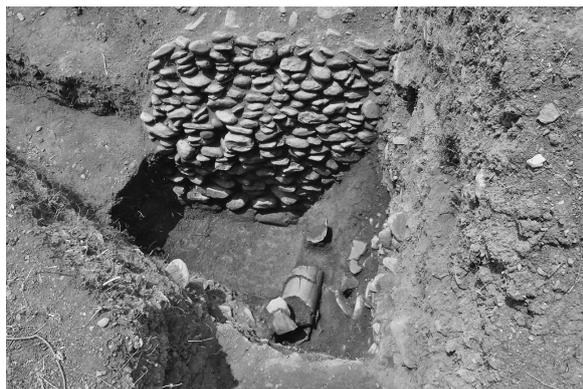
墳丘南東側基壇盛土下人物埴輪片出土状態



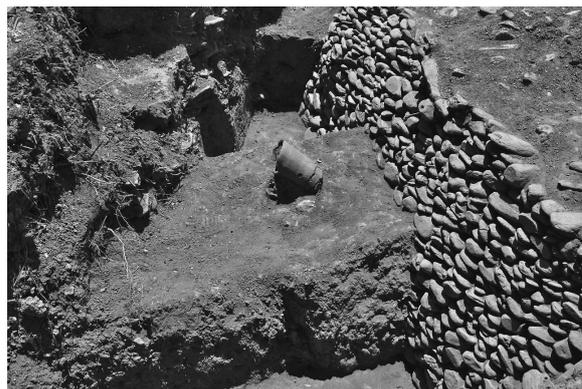
墳丘北東側基壇（東より）



墳丘北東側基壇土層断面



墳丘東側基壇馬形埴輪(No.57)出土状態



墳丘東側基壇馬形埴輪(No.58)出土状態



墳丘北東側外周施設 (東より)



墳丘北東側外周施設 (南より)



墳丘北東側外周施設埴輪出土状態 (南より)



墳丘北東側外周施設ピット列 (南より)



墳丘北側外周施設 (南より)



墳丘北側外周施設埴輪出土状態

図版4



葺石・石室全景（西より）



葺石・石室全景（真上より）



西側第1 葺石（南西より）



南東側第1 葺石（南より）



北東側第1・第2 葺石（北東から）



北東側第1 葺石（北東から）



西側第1 葺石裏込め

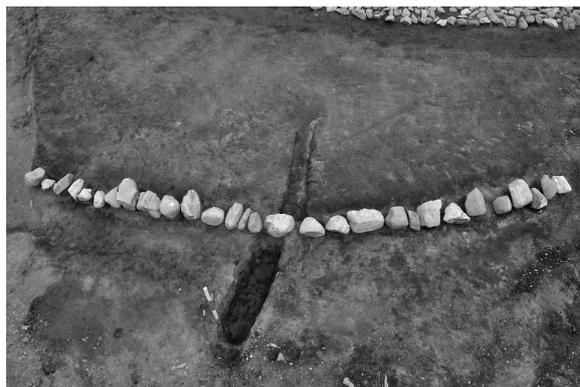


東側第1 葺石裏込め

図版5



石室・控積み・葺石根石全景



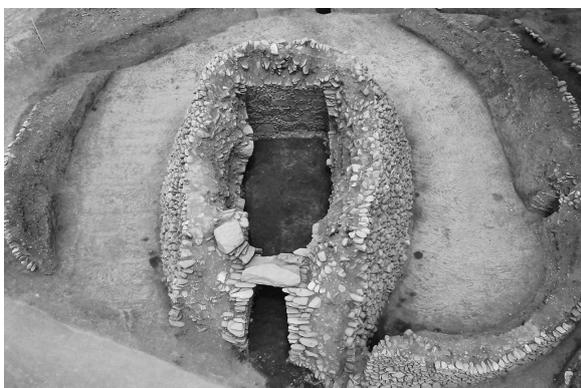
西側第1 葺石根石



南東側第1・第2 葺石根石



北東側第1・第2 葺石根石



石室控積み全景



石室奥壁側控積み（北より）



石室東側壁側控積み（東より）



石室西側壁側控積み（西より）



石室全景（閉塞状態）



石室全景（開口状態）



羨道部閉塞状態



羨道部閉塞石充填状態



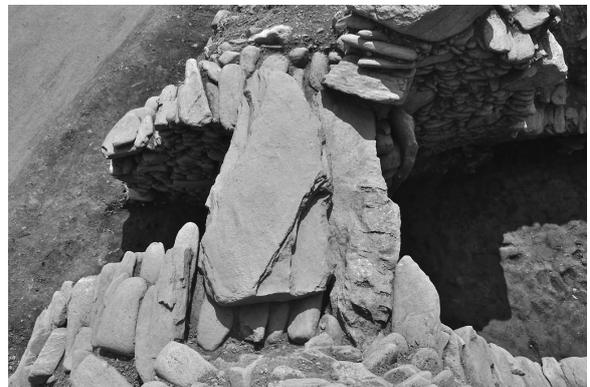
羨道部閉塞板（羨道側より）



羨道部閉塞板（玄室側より）



石室羨道部



羨道部天井石架設状態



羨道部東側側壁（床面）



羨道部東側側壁（床面除去後）



羨道部西側側壁（床面）



羨道部西側側壁（床面除去後）



羨道部床面（玄室側から）



羨道部床面除去後（玄室側から）



羨道部西側側壁根石



羨道部東側側壁根石



羨道部裏込め堆積状態



石室天井石陥没状態



玄室 (棺床面)



玄室 (棺床面除去後)



玄室西側側壁 (棺床面)



玄室東側側壁 (棺床面)



玄室西側側壁根石



玄室東側側壁根石



玄室西側側壁裏込め土層堆積状態



玄室東側側壁裏込め土層堆積状態



玄門（棺床面）・前壁



玄室区画石



玄門（棺床面除去後）



玄門門柱石



玄室奥壁（棺床面）



玄室奥壁（棺床面除去後）



玄室奥壁根石



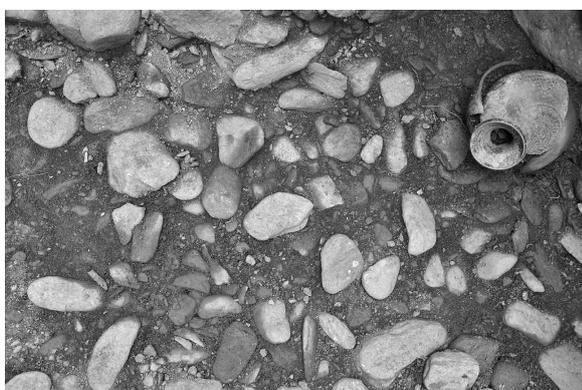
奥壁裏込め下半土層堆積状態



玄室内須恵器出土状態



玄室内東側壁際鉄製品出土状態



玄室内玄門付近玉類出土状態



玄室中央部耳環・玉類出土状態



玄室中央部重層ガラス小玉出土状態



玄室中央部トンボ玉出土状態



玄室東側壁際骨片出土状態



玄室西側壁際骨片出土状態



葺石根石・石室基底面全景



石室基底面全景 (南より)



石室根石全景 (南より)



石室掘り方 (南より)

報 告 書 抄 録

フリガナ	ナガオキコフンゲン XV —ナガオキ203ゴウフンノハックツチョウサー—							
書名	長沖古墳群 XV —長沖203号墳の発掘調査—							
副書名	児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書 6							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻次	第43集	
編著者	恋河内昭彦 田村朋美							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2015年(平成27年)3月31日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡		北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査 面積	調査 原因
ながおきこふんぐん 長沖古墳群 ながおきごうふん 長沖203号墳	ほんじょうしこだまちょうながおき 本庄市児玉町長沖 317・318番地	112119	54-138	36°11'7"	139°7'58"	20130422 ～ 20130809	249.2 m ²	区画 整理
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長沖古墳群 長沖203号墳		縄文時代 中 期			縄文土器片(加曾利EⅢ式)、 石器(打製石斧)			
	古墳	古墳時代 後 期	古墳1		埴輪(円筒、形象)、鉄製品 (刀、刀装具、鉄鎌、刀子)、 石製玉(管玉、切子玉、丸 玉)、ガラス製玉(トンボ 玉、重層玉、丸玉、小玉)		重層玉は、 ササン朝、ペ ルシャ系の ガラス	
		中近世 以 降	溝1		金属製品(鉄製鐔、銅製 簪、渡来銭)、常滑甕、在地 産片口鉢、かわらけ、五輪 塔(空風輪)			



本庄市埋蔵文化財調査報告書第43集

長 沖 古 墳 群 XV

— 長沖203号墳の調査 —

児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書 6

平成27年 3月27日 印刷

平成27年 3月31日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄 3丁目 5番 3号

印刷／株式会社タカサキ印刷

埼玉県本庄市小島南 1丁目10番27号

写真図版



本庄市マスコット

はにぽん

図版1



古墳調査前の状況（西より）



墳丘伐採・清掃後（北より）



墳丘盛土（上半）



墳丘盛土（下半）



墳丘盛土北側（上半）



墳丘盛土石室北側（下半）



墳丘盛土西側（上半）



墳丘盛土石室西側（下半）



墳丘盛土東側（上半）



墳丘盛土石室東側（下半）



墳丘西側基壇（西より）



墳丘西側基壇土層断面



墳丘南東側基壇



墳丘南東側基壇盛土下人物埴輪片出土状態



墳丘北東側基壇（東より）



墳丘北東側基壇土層断面



墳丘東側基壇馬形埴輪(No57)出土状態



墳丘東側基壇馬形埴輪(No58)出土状態



墳丘北東側外周施設 (東より)



墳丘北東側外周施設 (南より)



墳丘北東側外周施設埴輪出土状態 (南より)



墳丘北東側外周施設ピット列 (南より)



墳丘北側外周施設 (南より)



墳丘北側外周施設埴輪出土状態

図版4



葺石・石室全景（西より）



葺石・石室全景（真上より）



西側第1 葺石（南西より）



南東側第1 葺石（南より）



北東側第1・第2 葺石（北東から）



北東側第1 葺石（北東から）



西側第1 葺石裏込め



東側第1 葺石裏込め



石室・控積み・葺石根石全景



西側第1葺石根石



南東側第1・第2葺石根石



北東側第1・第2葺石根石



石室控積み全景



石室奥壁側控積み（北より）



石室東側壁側控積み（東より）



石室西側壁側控積み（西より）



石室全景（閉塞状態）



石室全景（開口状態）



羨道部閉塞状態



羨道部閉塞石充填状態



羨道部閉塞板（羨道側より）



羨道部閉塞板（玄室側より）



石室羨道部



羨道部天井石架設状態



羨道部東側側壁（床面）



羨道部東側側壁（床面除去後）



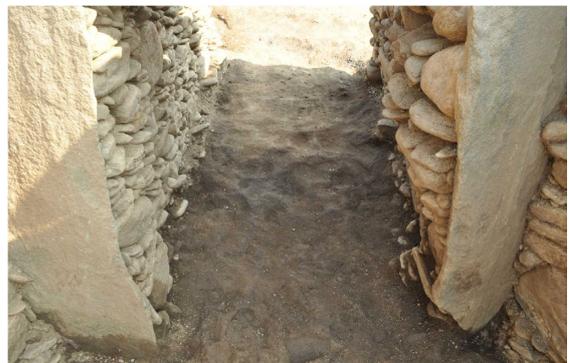
羨道部西側側壁（床面）



羨道部西側側壁（床面除去後）



羨道部床面（玄室側から）



羨道部床面除去後（玄室側から）



羨道部西側側壁根石



羨道部東側側壁根石



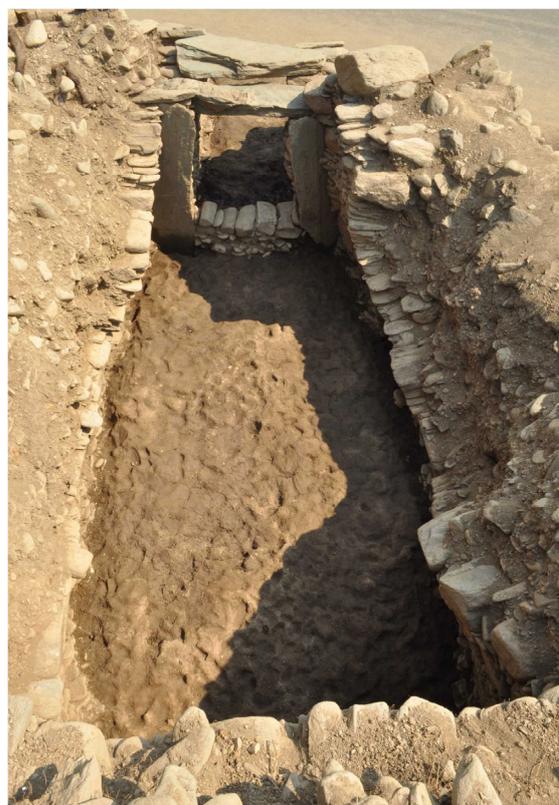
羨道部裏込め堆積状態



石室天井石陥没状態



玄室 (棺床面)



玄室 (棺床面除去後)



玄室西側側壁 (棺床面)



玄室東側側壁 (棺床面)



玄室西側側壁根石



玄室東側側壁根石



玄室西側側壁裏込め土層堆積状態



玄室東側側壁裏込め土層堆積状態



玄門 (棺床面)・前壁



玄室区画石



玄門 (棺床面除去後)



玄門門柱石



玄室奥壁（棺床面）



玄室奥壁（棺床面除去後）



玄室奥壁根石



奥壁裏込め下半土層堆積状態



玄室内須恵器出土状態



玄室内東側壁際鉄製品出土状態



玄室内玄門付近玉類出土状態



玄室中央部耳環・玉類出土状態



玄室中央部重層ガラス小玉出土状態



玄室中央部トンボ玉出土状態



玄室東側壁際骨片出土状態



玄室西側壁際骨片出土状態



葺石根石・石室基底面全景



石室基底面全景 (南より)



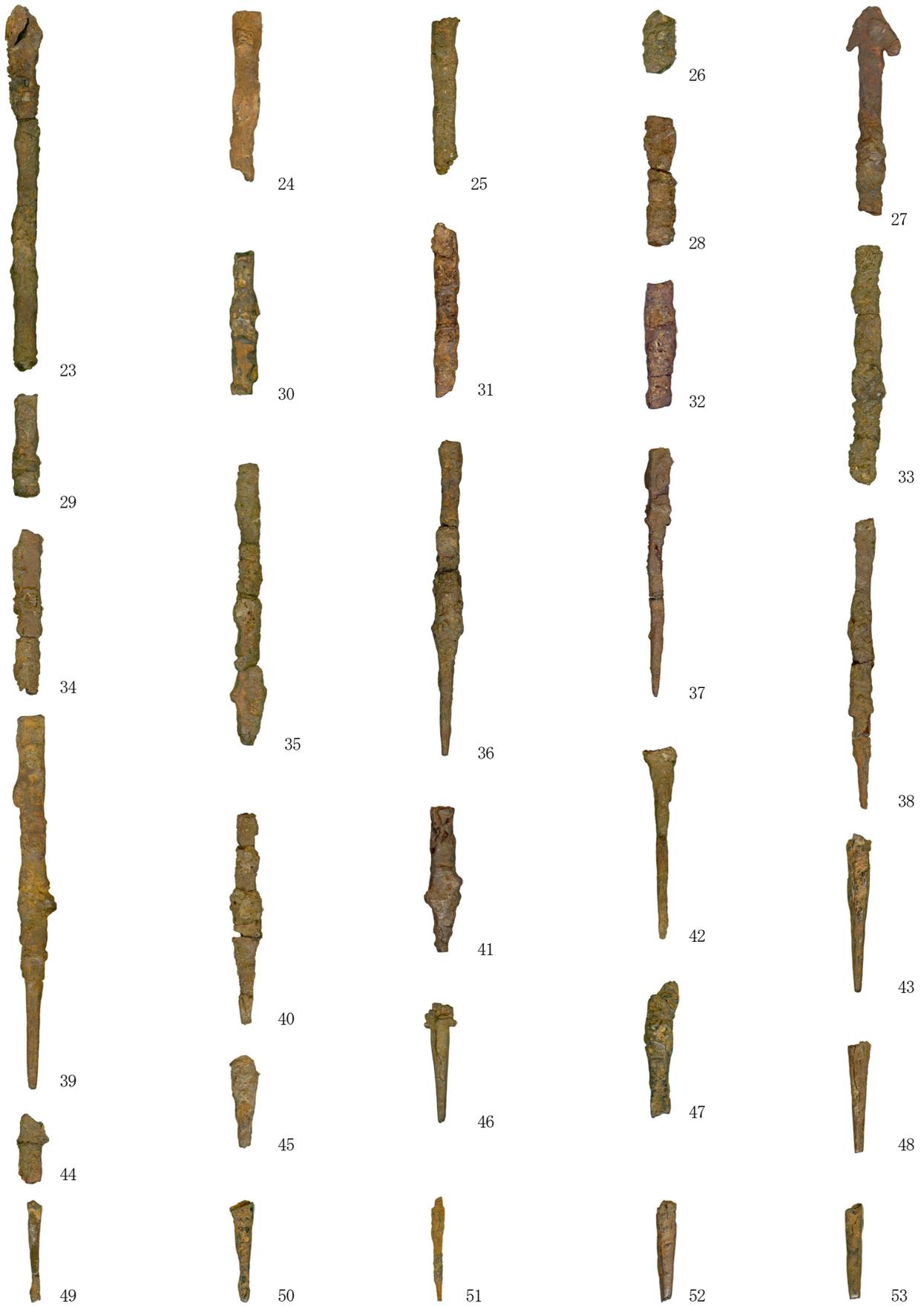
石室根石全景 (南より)



石室掘り方 (南より)

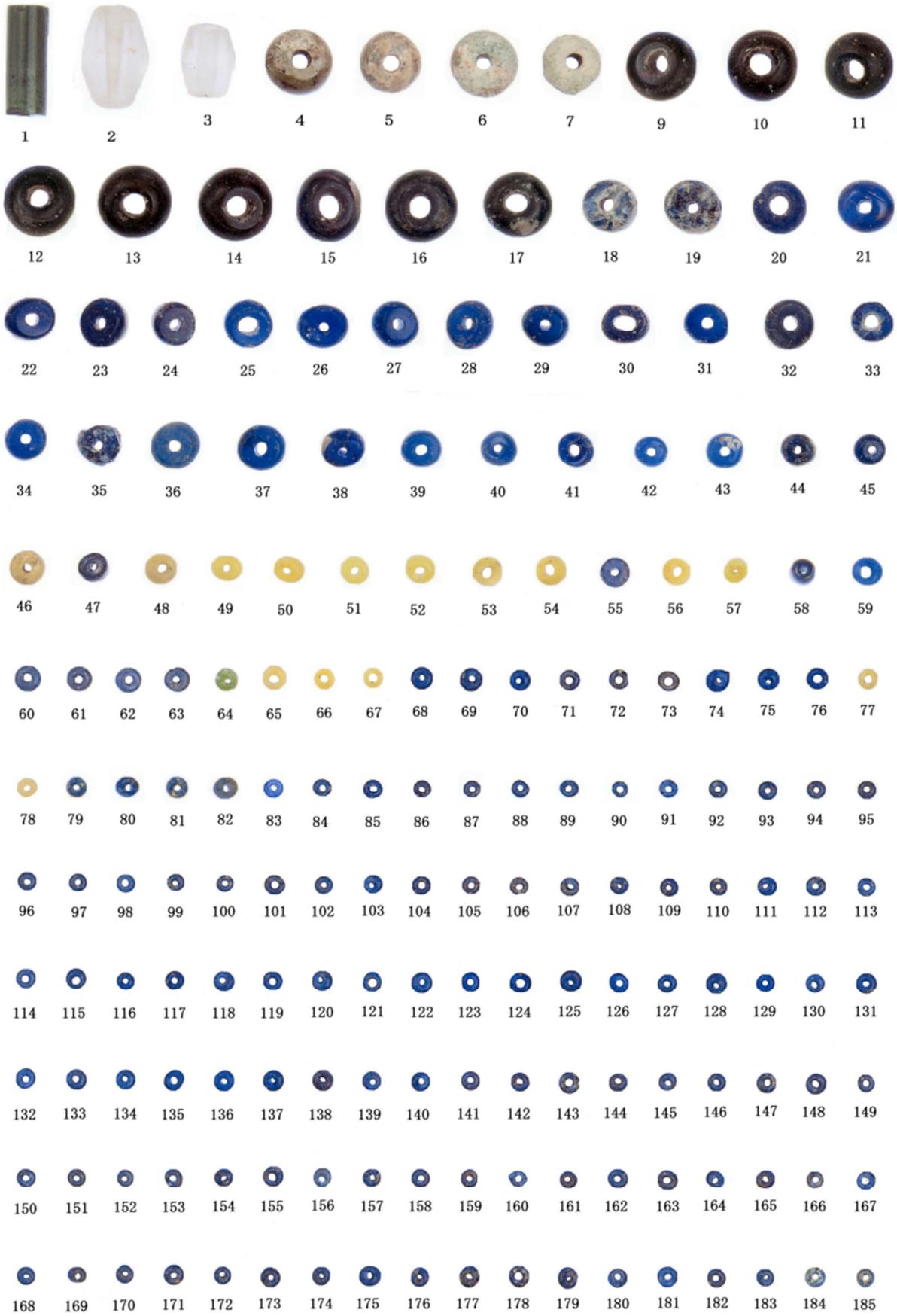


石室内出土金属製品 (1)



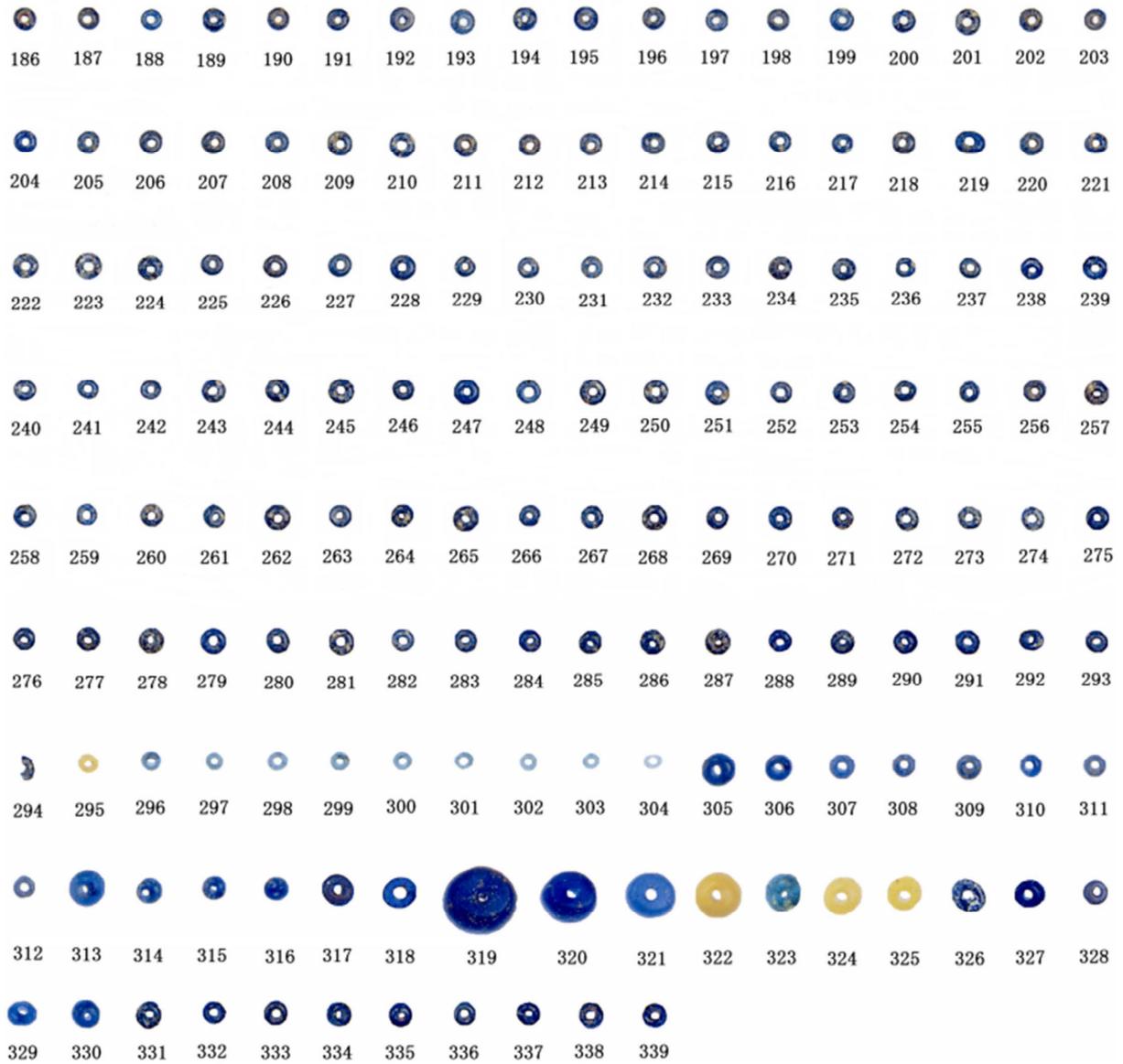
石室内出土金属製品 (2)

图版 14



石室内出土玉類 (1)

図版 15



石室内出土玉類 (2)



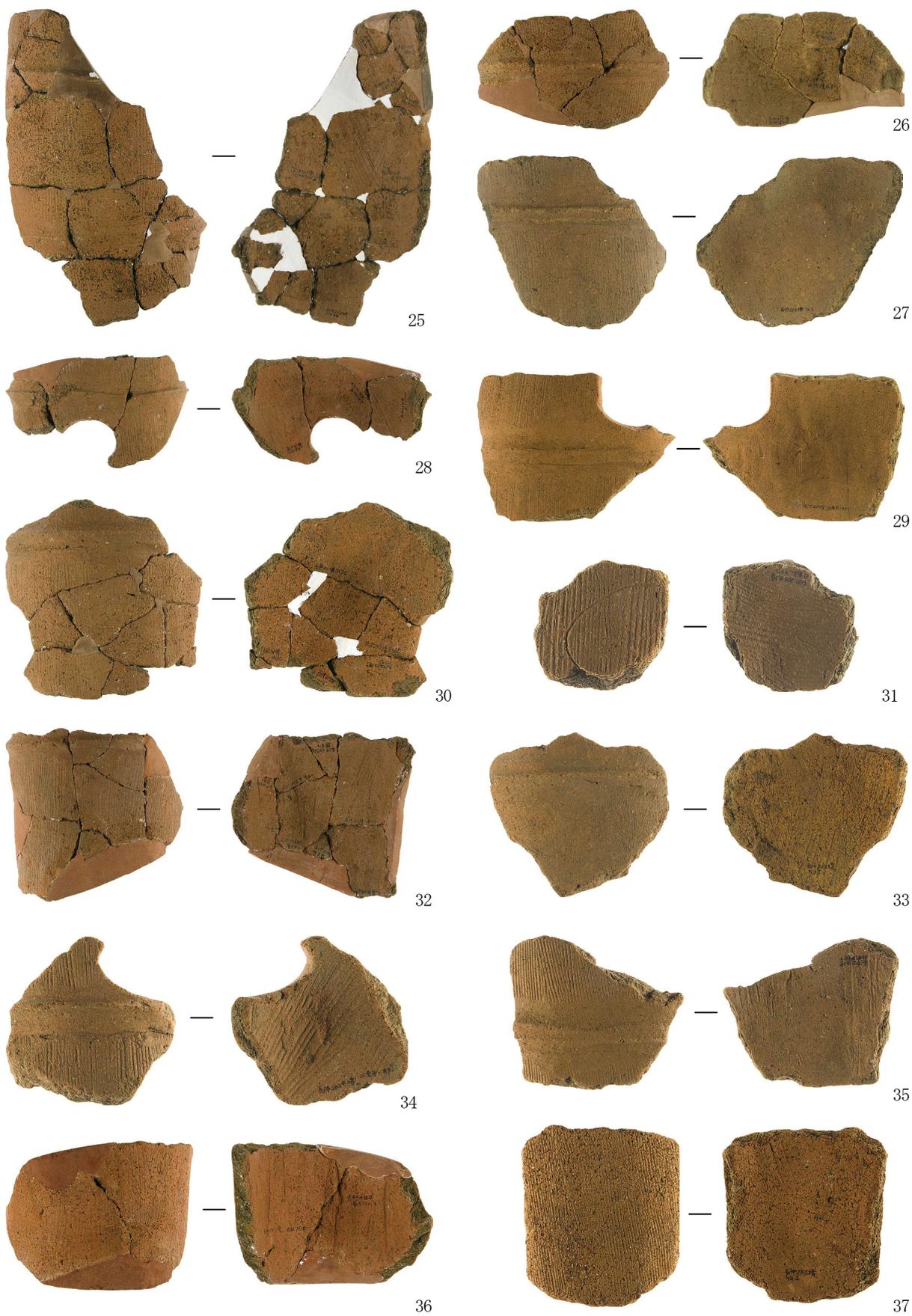
石室内出土トンボ玉・重層玉・須恵器



出土埴輪 (1)



出土埴輪 (2)



出土埴輪 (3)



出土埴輪 (4)



50



51



52



53



54

出土埴輪 (5)



55



56



57



59



58



60



61



64

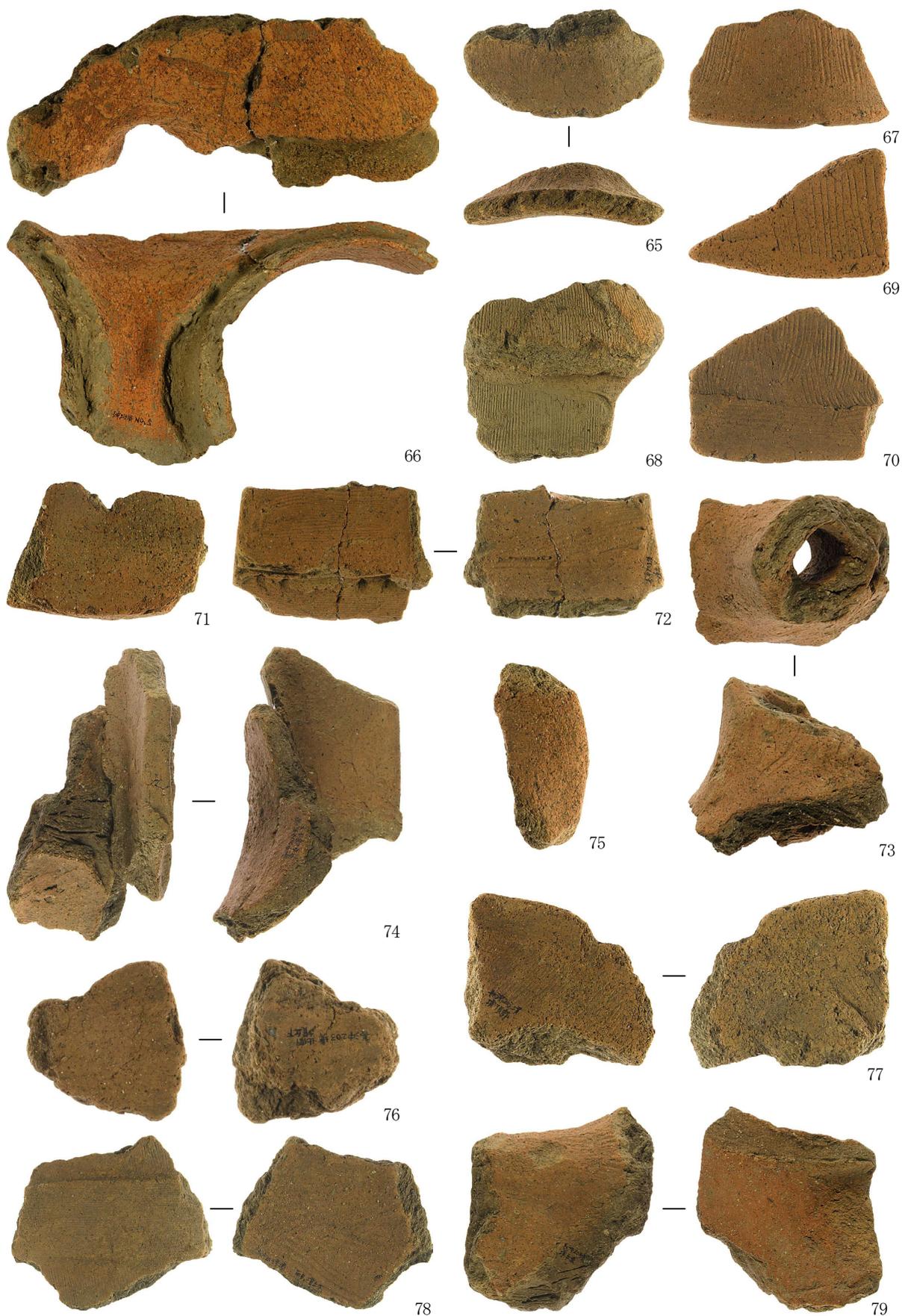


62

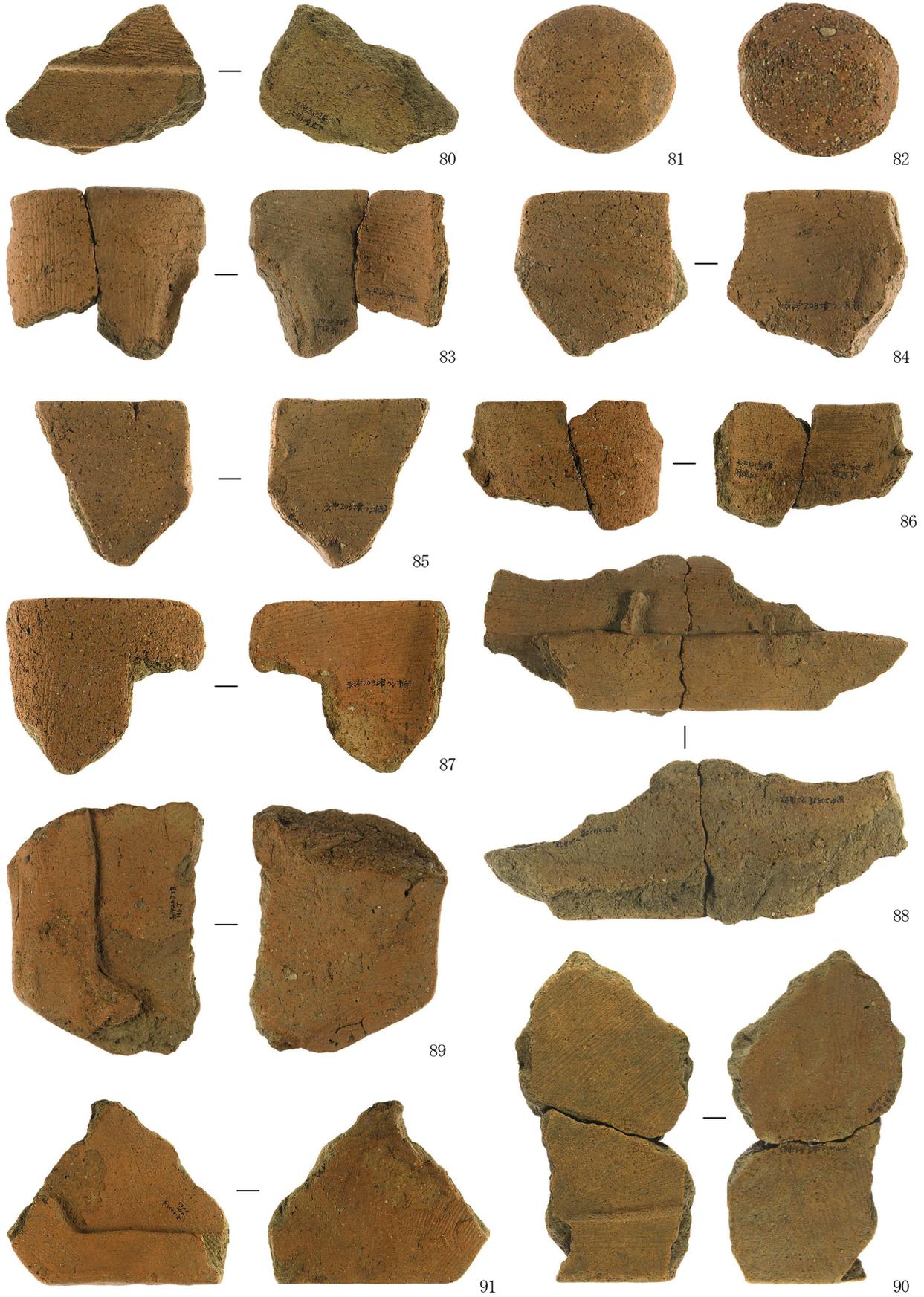


63

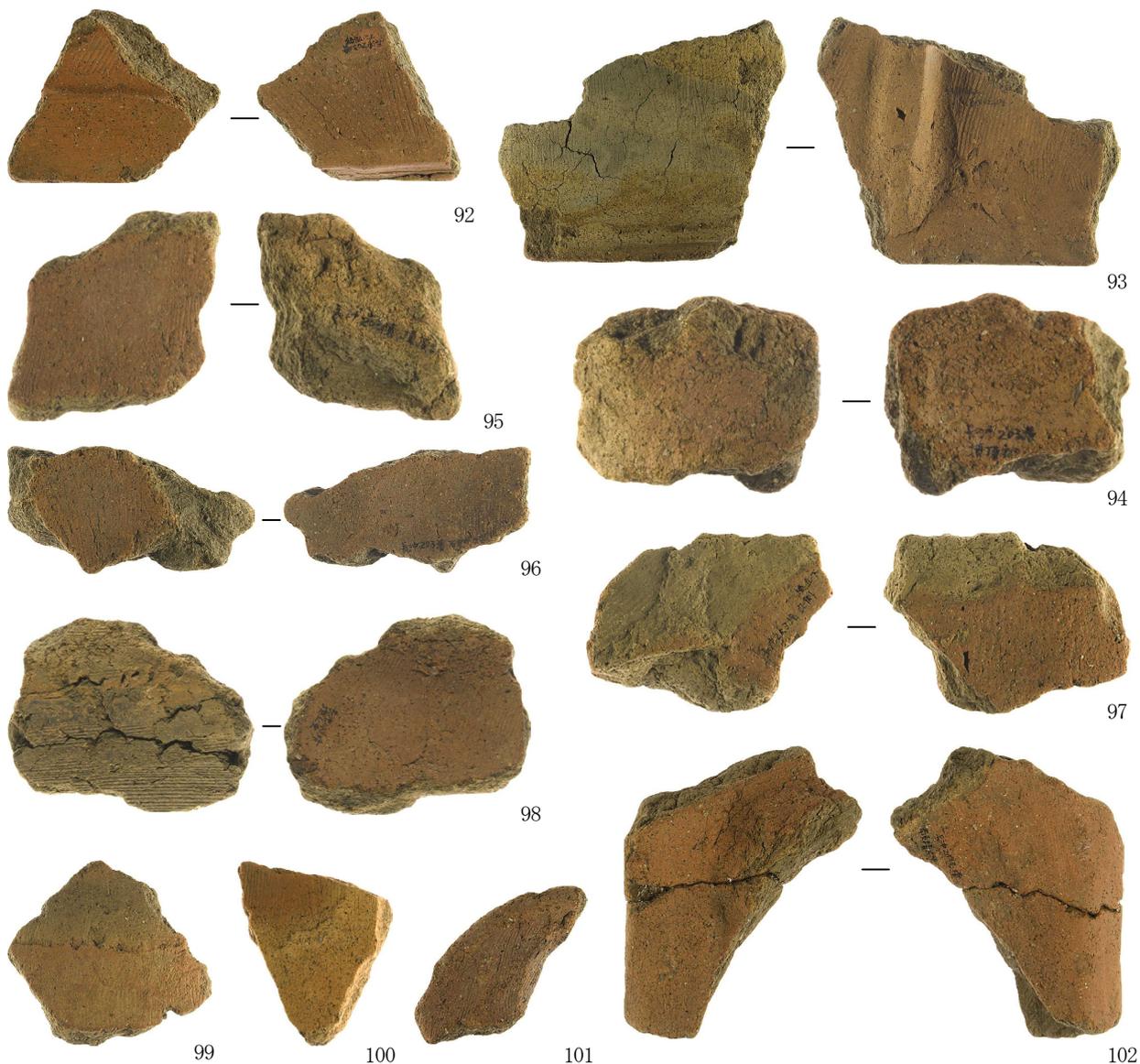
出土埴輪 (6)



出土埴輪 (7)



出土埴輪 (8)



出土埴輪 (9)



伝長沖古墳群出土女性人物埴輪



その他の出土遺物

石室内出土玉類観察表

(単位：長さmm、重さg)

1	管玉	A. 直径7.40、高さ20.0、重さ1.9。D. 緑色凝灰性硬質頁岩。E. 濃緑色。F. ほぼ完形。G. 片面穿孔。H. 玄室内。
2	切子玉	A. 直径上面6.01、下面6.02、最大径12.5、高さ18.3、重さ3.2。D. 石英。E. 半透明。F. 完形。G. 上下6面ずつの計12面カット。片面穿孔。H. 玄室内。
3	切子玉	A. 直径上面8.01、最大形10.50、下面5.60、高さ12.90、重さ1.8。D. 石英。E. 半透明。F. 完形。G. 上下7面ずつの計14面カット。片面穿孔。H. 玄室内。
4	丸玉	A. 直径12.20、高さ9.70、重さ1.69。D. 蛇紋岩。E. 薄緑色。F. 完形。G. 全体に研磨。片面穿孔。H. 玄室内。
5	丸玉	A. 直径11.30、高さ9.00、重さ1.62。D. 蛇紋岩。E. 薄緑色。F. 完形。G. 全体に研磨。片面穿孔。H. 玄室内。
6	丸玉	A. 直径12.40、高さ8.60、重さ1.86。D. 蛇紋岩。E. 薄緑色。F. 完形。G. 上下端面研磨。側面風化？片面穿孔。H. 玄室内。
7	丸玉	A. 直径10.60、高さ8.30、重さ1.07。D. 蛇紋岩？E. 薄緑色。F. 完形。G. 全体に風化？片面穿孔。H. 玄室内。
8	トンボ玉	A. 直径13.90、高さ9.30、重さ2.20。B. 巻きつけ成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 気泡は微細で多い。側面に3箇所色の異なる(正面:黄色、左:青緑色、右:青緑色)ガラスで貼り付ける。左右2箇所は突起状。H. 玄室内。
9	丸玉	A. 直径12.80、高さ9.40、重さ2.19。B. 巻きつけ成形。D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 側面細かな傷(汚れ?)多数。縞状の赤色が見られ巻き付けによる練り込みか。H. 玄室内。
10	丸玉	A. 直径12.70、高さ9.60、重さ2.10。B. 巻きつけ成形。D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 側面細かな傷(汚れ?)多数あり。縞状の赤色が見られ巻き付けによる練り込みか。白色部あり。H. 玄室内。
11	丸玉	A. 直径12.50、高さ9.40、重さ1.86。B. 巻きつけ成形？D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 側面細かな傷(汚れ?)多数あり。H. 玄室内。
12	丸玉	A. 直径13.30、高さ9.60、重さ2.23。B. 巻きつけ成形？D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 側面細かな傷。H. 玄室内。
13	丸玉	A. 直径13.60、高さ9.50、重さ2.30。B. 巻きつけ成形。D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 縞状の傷が見られる。孔に一部欠損。側面に傷(汚れ?)。H. 玄室内。
14	丸玉	A. 直径13.60、高さ10.00、重さ2.51。B. 巻きつけ成形？D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 側面に細かな傷(汚れ?)。H. 玄室内。
15	丸玉	A. 直径13.80、高さ9.00、重さ2.00。B. 巻きつけ成形。D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 縞状の赤色が見られる。側面に白色範囲(汚れ?)あり。H. 玄室内。
16	丸玉	A. 直径13.50、高さ9.20、重さ2.34。B. 巻きつけ成形。D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 孔に直交する細長い気泡あり。側面に白色範囲(汚れ?)あり。H. 玄室内。
17	丸玉	A. 直径12.60、高さ9.10、重さ1.90。B. 巻きつけ成形か。D. ガラス製。E. 黒色。F. 完形。G. 側面に白色範囲(汚れ?)あり。H. 玄室内。
18	小玉	A. 直径10.00、高さ7.10、重さ0.99。B. 管切り成形か。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 孔と並行する長い気泡あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
19	小玉	A. 直径10.70、高さ6.00、重さ0.97。B. 管切り成形か。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. ほぼ完形。G. 気泡不明。斑状にヒビ多数あり。H. 玄室内。
20	小玉	A. 直径10.00、高さ7.80、重さ0.95。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. ほぼ完形。G. 表面はザラ付き多い。孔と並行する長い気泡あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
21	小玉	A. 直径10.80、高さ7.40、重さ1.08。B. 巻きつけ成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 横位に貫入あり。H. 玄室内。
22	小玉	A. 直径9.70、高さ8.10、重1.00。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
23	小玉	A. 直径9.00、高さ7.40、重さ1.02。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
24	小玉	A. 直径8.50、高さ7.80、重さ0.87。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
25	小玉	A. 直径9.30、高さ6.40、重さ0.65。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
26	小玉	A. 直径8.40、高さ6.80、重さ0.84。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
27	小玉	A. 直径8.50、高さ6.60、重さ0.77。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
28	小玉	A. 直径9.50、高さ5.90、重さ0.72。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
29	小玉	A. 直径7.90、高さ6.70、重さ0.73。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
30	小玉	A. 直径8.90、高さ6.50、重さ0.59。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。孔は楕円形。H. 玄室内。
31	小玉	A. 直径8.70、高さ7.00、重さ0.74。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。

32	小玉	A. 直径 9.30、高さ 7.20、重さ 0.87。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色(黒色強)。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
33	小玉	A. 直径 8.20、高さ 6.00、重さ 0.56。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
34	小玉	A. 直径 8.00、高さ 6.00、重さ 0.62。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
35	小玉	A. 直径 8.00、高さ 6.50、重さ 0.55。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺色。F. 部分欠損。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨、ヒビ多い。H. 玄室内。
36	小玉	A. 直径 9.10、高さ 6.10、重さ 0.72。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
37	小玉	A. 直径 8.90、高さ 5.10、重さ 0.60。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
38	小玉	A. 直径 8.20・7.10、高さ 5.60、重さ 0.47。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。汚れあり。H. 玄室内。
39	小玉	A. 直径 7.70、高さ 4.70、重さ 0.42。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
40	小玉	A. 直径 6.70、高さ 4.40、重さ 0.28。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
41	小玉	A. 直径 6.80、高さ 3.80、重さ 0.23。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 上下面研磨。H. 玄室内。
42	小玉	A. 直径 6.40、高さ 4.60、重さ 0.26。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
43	小玉	A. 直径 7.10、高さ 4.90、重さ 0.37。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
44	小玉	A. 直径 6.60、高さ 5.00、重さ 0.29。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
45	小玉	A. 直径 6.00、高さ 4.20、重さ 0.20。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 上下面研磨。H. 玄室内。
46	小玉	A. 直径 6.40、高さ 5.60、重さ 0.34。B. 鋳型成形? D. ガラス製。E 黄色。F. ほぼ完形。G. 表面汚れ顕著。微細な気泡多数あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
47	小玉	A. 直径 6.00、高さ 5.70、重さ 0.29。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 断面平行四辺形状。孔に並行する気泡あり。H. 玄室内。
48	小玉	A. 直径 5.80、高さ 3.60、重さ 0.17。B. 管切り成形? D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 表面汚れ顕著。微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
49	小玉	A. 直径 5.80、高さ 4.00、重さ 0.16。B. 管切り成形? D. ガラス製。E 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
50	小玉	A. 直径 5.80、高さ 3.90、重さ 0.16。B. 管切り成形? D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 形歪、微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
51	小玉	A. 直径 5.40、高さ 3.20、重さ 0.13。B. 管切り成形? D. ガラス製。E 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
52	小玉	A. 直径 5.60、高さ 3.40、重さ 0.14。B. 管切り成形。D. ガラス製。E 黄色。F. 完形。G. 表面汚れ微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
53	小玉	A. 直径 5.70、高さ 3.40、重さ 0.13。B. 管切り成形? D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔と並行の長い気泡あり。H. 玄室内。
54	小玉	A. 直径 5.70、高さ 3.30、重さ 0.16。B. 管切り成形? D. ガラス製。E 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
55	小玉	A. 直径 5.80、高さ 4.90、重さ 0.19。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
56	小玉	A. 直径 5.20、高さ 2.80、重さ 0.11。B. 管切り成形? D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
57	小玉	A. 直径 4.50、高さ 3.30、重さ 0.10。B. 巻きつけ成形? D. ガラス製。E 黄色。F. 完形。G. 孔が歪む。微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
58	小玉	A. 直径 4.70、高さ 5.50、重さ 0.19。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 濃い青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
59	小玉	A. 直径 5.30、高さ 2.70、重さ 0.10。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
60	小玉	A. 直径 5.20、高さ 3.50、重さ 0.12。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
61	小玉	A. 直径 5.20、高さ 3.20、重さ 0.11。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
62	小玉	A. 直径 5.20、高さ 3.20、重さ 0.10。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。上下端面研磨。H. 玄室内。

63	小	玉	A. 直径 5.20、高さ 3.10、重さ 0.10。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
64	小	玉	A. 直径 5.10、高さ 3.10、重さ 0.11。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 紺色。F. 完形。G. 微細な気泡少数あり。H. 玄室内。
65	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 3.90、重さ 0.16。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E 緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
66	小	玉	A. 直径 4.60、高さ 2.40、重さ 0.08。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
67	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.10、重さ 0.06。B. 管切り成形。D. ガラス製。E 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
68	小	玉	A. 直径 3.90、高さ 2.90、重さ 0.07。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
69	小	玉	A. 直径 4.60、高さ 3.00、重さ 0.07。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
70	小	玉	A. 直径 4.60、高さ 2.90、重さ 0.08。B. 鋳型成形。D. ガラス製。Eくすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
71	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.60、重さ 0.06。B. 鋳型成形。D. ガラス製。Eくすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
72	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.20、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
73	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
74	小	玉	A. 直径 4.40、高さ 2.30、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
75	小	玉	A. 直径 4.50、高さ 3.10、重さ 0.09。B. 鋳型成形？D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。上下端研磨。バリあり。H. 玄室内。
76	小	玉	A. 直径 4.30、高さ 2.90、重さ 0.07。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡あり。孔と並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
77	小	玉	A. 直径 4.30、高さ 3.00、重さ 0.08。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 孔に並行する気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
78	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.40、重さ 0.06。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 形歪、表面汚れ顕著。微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
79	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.80、重さ 0.07。B. 管切り成形。D. ガラス製。E 黄色。F. 完形。G. 表面汚れ、微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
80	小	玉	A. 直径 3.90、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
81	小	玉	A. 直径 4.30、高さ 2.50、重さ 0.06。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
82	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.50、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビ多数。H. 玄室内。
83	小	玉	A. 直径 4.30、高さ 2.80、重さ 0.06。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
84	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 淡い青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
85	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.40、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
86	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
87	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.80、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。Eくすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
88	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.70、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
89	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.80、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
90	小	玉	A. 直径 3.30、高さ 2.60、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
91	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 1.90、重さ 0.02。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
92	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 1.90、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
93	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.70、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
94	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.40、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。

126	小	玉	A. 直径 4.30、高さ 2.80、重さ 0.07。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
127	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.30、重さ 0.05。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔に並行する気泡あり。上下端面研磨。H. 玄室内。
128	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
129	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.90、重さ 0.07。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
130	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.50、重さ 0.05。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺。F. 完形。G. 孔に並行する気泡あり。上下端面研磨。孔にベンガラ付着。H. 玄室内。
131	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.10、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
132	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.70、重さ 0.06。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 多数の気泡あり。H. 玄室内。
133	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.00、重さ 0.05。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ濃紺。F. 完形。G. 孔に並行する気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
134	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.70、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
135	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.80、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
136	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 3.00、重さ 0.06。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. 紺。F. 完形。G. 孔に並行する気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
137	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.40、重さ 0.06。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. 紺。F. 完形。G. 孔に並行する気泡あり。H. 玄室内。
138	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.80、重さ 0.07。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
139	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 3.50、重さ 0.09。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
140	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.70、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
141	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.80、重さ 0.06。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
142	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 気泡多数あり。H. 玄室内。
143	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.40、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔にベンガラ。ヒビあり。H. 玄室内。
144	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.20、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. ほぼ完形。G. 微細な気泡多数あり。孔にベンガラ。ヒビあり。一部欠損。H. 玄室内。
145	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.70、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。バリ残。H. 玄室内。
146	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.00、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
147	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 大きな気泡多数あり。H. 玄室内。
148	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.80、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
149	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.30、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. ほぼ完形。G. 微細な気泡多数あり。一部欠損。H. 玄室内。
150	小	玉	A. 直径 3.30、高さ 2.40、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
151	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.20、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡。ヒビあり。H. 玄室内。
152	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.60、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
153	小	玉	A. 直 3.40、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。片面研磨。H. 玄室内。
154	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.20、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
155	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.40、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 気泡多数あり。バリ残。H. 玄室内。
156	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.20、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔にベンガラ付着。ヒビあり。H. 玄室内。
157	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.20、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。

220	小	玉	A. 直径 4.00~4.60、高さ 2.40~2.70、重さ 0.06。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 楕円形で孔に並行する長い気泡あり。H. 玄室内。
221	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
222	小	玉	A. 直径 3.40、高さ 2.70、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
223	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
224	小	玉	A. 直径 4.20、高さ 2.40、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
225	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.60、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
226	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.40、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
227	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.70~4.00、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔にベンガラ。H. 玄室内。
228	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
229	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.60、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
230	小	玉	A. 直径 3.40、高さ 2.30、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。バリ残、ヒビあり。H. 玄室内。
231	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。バリ残。H. 玄室内。
232	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 1.70~2.00、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
233	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
234	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.60、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
235	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
236	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.70、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔にベンガラ、バリ残。H. 玄室内。
237	小	玉	A. 直径 3.20、高さ 2.20、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
238	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.30、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡あり。H. 玄室内。
239	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡あり。H. 玄室内。
240	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.40、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
241	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
242	小	玉	A. 直径 3.40、高さ 2.30、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
243	小	玉	A. 直径 3.30、高さ 2.40、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡あり。H. 玄室内。
244	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.60、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
245	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.20、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
246	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.10、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
247	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
248	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.60、重さ 0.06。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
249	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 1.80、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
250	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.40、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。

282	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 1.70、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
283	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 気泡多数あり。H. 玄室内。
284	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。バリ残。H. 玄室内。
285	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔にベンガラ。バリ残。H. 玄室内。
286	小	玉	A. 直径 3.90、高さ 2.80、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
287	小	玉	A. 直径 4.00、高さ 2.90、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
288	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 1.70、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
289	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
290	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.60、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
291	小	玉	A. 直径 3.70、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
292	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
293	小	玉	A. 直径 3.50、高さ 2.60、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
294	小	玉	A. 直径(1.60)、高さ 2.40、重さ(0.01)。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。破損して1/2残、ヒビあり。H. 玄室内。
295	小	玉	A. 直径 3.20、高さ 2.10、重さ 0.04。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
296	小	玉	A. 直径 2.70、高さ 1.90、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
297	小	玉	A. 直径 2.60、高さ 1.80、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
298	小	玉	A. 直径 3.10、高さ 1.60、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
299	小	玉	A. 直径 2.90、高さ 1.80、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
300	小	玉	A. 直径 2.80、高さ 1.50、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
301	小	玉	A. 直径 2.70、高さ 1.20、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
302	小	玉	A. 直径 2.60、高さ 1.30、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
303	小	玉	A. 直径 2.50、高さ 1.30、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
304	小	玉	A. 直径 2.80、高さ 1.10、重さ 0.02。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青緑色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
305	小	玉	A. 直径 5.00、高さ 3.20、重さ 0.11。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
306	小	玉	A. 直径 4.10、高さ 2.70、重さ 0.06。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
307	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.40、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
308	小	玉	A. 直径 3.60、高さ 2.90、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
309	小	玉	A. 直径 3.80、高さ 2.40、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
310	小	玉	A. 直径 3.40、高さ 2.60、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
311	小	玉	A. 直径 3.40、高さ 2.00、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
312	小	玉	A. 直径 3.10、高さ 1.90、重さ 0.02。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。

313	小 玉	A. 直径 5.10、高さ 3.20、重さ 0.12。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
314	小 玉	A. 直径 3.80、高さ 2.40、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
315	小 玉	A. 直径 3.60、高さ 2.20、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
316	小 玉	A. 直径 3.60、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビ多数あり。H. 玄室内。
317	小 玉	A. 直径 4.70、高さ 2.10、重さ 0.09。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
318	小 玉	A. 直径 4.80、高さ 3.00、重さ 0.07。B. 鋳型成形? D. ガラス製。E. 濃い青色。F. 完形。G. 上下研磨。微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
319	小 玉	A. 直径 9.80、高さ 7.50、重さ 1.20。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 孔と並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
320	小 玉	A. 直径 8.40、高さ 6.50、重さ 0.59。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
321	小 玉	A. 直径 7.40、高さ 4.70、重さ 0.35。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. 青色。F. 完形。G. 孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
322	小 玉	A. 直径 6.70、高さ 4.70、重さ 0.32。B. 鋳型成形? D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
323	小 玉	A. 直径 5.90、高さ 3.50、重さ 0.18。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
324	小 玉	A. 直径 5.80、高さ 3.50、重さ 0.16。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
325	小 玉	A. 直径 5.20、高さ 3.60、重さ 0.14。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. 黄色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
326	小 玉	A. 直径 4.50、高さ 2.20、重さ 0.07。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
327	小 玉	A. 直径 4.60、高さ 3.10、重さ 0.08。B. 管切り成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡、孔に並行する長い気泡あり。上下面研磨。H. 玄室内。
328	小 玉	A. 直径 3.90、高さ 2.00、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
329	小 玉	A. 直径 4.50~3.70、高さ 2.20、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ紺色。F. 完形。G. 形歪。微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
330	小 玉	A. 直 4.20、高さ 3.10、重さ 0.08。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青色。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
331	小 玉	A. 直径 3.90、高さ 2.30、重さ 0.05。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
332	小 玉	A. 直径 3.30・高さ 1.90、重さ 0.02。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
333	小 玉	A. 直径 3.70、高さ 1.80、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。H. 玄室内。
334	小 玉	A. 直径 3.80、高さ 2.50、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。孔にペンガラか。H. 玄室内。
335	小 玉	A. 直径 3.70、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
336	小 玉	A. 直径 3.50、高さ 1.90、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
337	小 玉	A. 直径 3.60、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
338	小 玉	A. 直径 3.80、高さ 2.30、重さ 0.04。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
339	小 玉	A. 直径 4.00、高さ 1.90、重さ 0.03。B. 鋳型成形。D. ガラス製。E. くすんだ青。F. 完形。G. 微細な気泡多数あり。ヒビあり。H. 玄室内。
340	重層玉	B. 径の異なる 2 本のガラス管の間に金属箔を挟み込んで加熱し、工具で括れを入れて連珠状にしたものを切断。D. 植物灰ガラス。E. 黄褐色透明。F. 完形。G. 開孔部に切断時の括れあり。微細な気泡多数あり。金属箔は銀箔と推察される。H. 玄室内。
341	重層玉	B. 径の異なる 2 本のガラス管の間に金属箔を挟み込んで加熱し、工具で括れを入れて連珠状にしたものを切断。D. 植物灰ガラス。E. 黄褐色透明。F. 完形。G. 端面研磨。微細な気泡あり。金属箔は銀箔と推察される。H. 玄室内。
342	重層玉	B. 径の異なる 2 本のガラス管の間に金属箔を挟み込んで加熱し、工具で括れを入れて連珠状にしたものを切断。D. 植物灰ガラス。E. 黄褐色透明。F. 完形。G. 開孔部に切断時の括れあり。微細な気泡あり。金属箔は銀箔と推察される。H. 玄室内。

報 告 書 抄 録

フリガナ	ナガオキコフングンⅣ —ナガオキ 203 ゴウフンノハックツチョウサ—							
書名	長沖古墳群Ⅳ —長沖 203 号墳の発掘調査—							
副書名	児玉南土地区画整理事業発掘調査報告書 6							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻次	第 43 集					
編著者	恋河内昭彦 田村朋美							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄 3 丁目 5 番 3 号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦 2015 年 (平成 27 年) 3 月 31 日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コ ー ド 市町村	ド 遺跡	北緯 (° ' ")	東経 (° ' ")	調査期間	調査 面積	調査 原因
なが おき こ ふん ぐん 長沖古墳群 なが おき ごう ふん 長沖 203 号墳	ほん じょう し こ だ ま ち よ う なが おき 317・318番地	112119	54-138	36° 11' 7"	139° 7' 58"	20130422 ～ 20130809	249.2 m ²	区画 整理
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物			特記事項	
長沖古墳群 長沖 203 号墳		縄文時代 中 期		縄文土器片(加曾利 E III 式)、石器 (打製石斧)				
	古墳	古墳時代 後 期	古墳 1	埴輪(円筒、形象)、鉄製品(刀、刀 装具、鉄鏃、刀子)、石製玉(管玉、 切子玉、丸玉)、ガラス製玉(トン ゴ玉、重層玉、丸玉、小玉)			重層玉は、サ サン朝ペル シャ系のガ ラス	
		中近世 以 降	溝 1	金属製品(鉄製鐺、銅製簪、渡来 銭)、常滑甕、在地産片口鉢、かわ らけ、五輪塔(空風輪)				



本庄市埋蔵文化財調査報告書第43集

長 沖 古 墳 群 XV

—長沖203号墳の発掘調査—

児玉南土地区画整理事業発掘調査報告6

平成27年 3月 27日 印刷

平成27年 3月 31日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／株式会社タカサキ印刷

埼玉県本庄市小島南1丁目10番27号